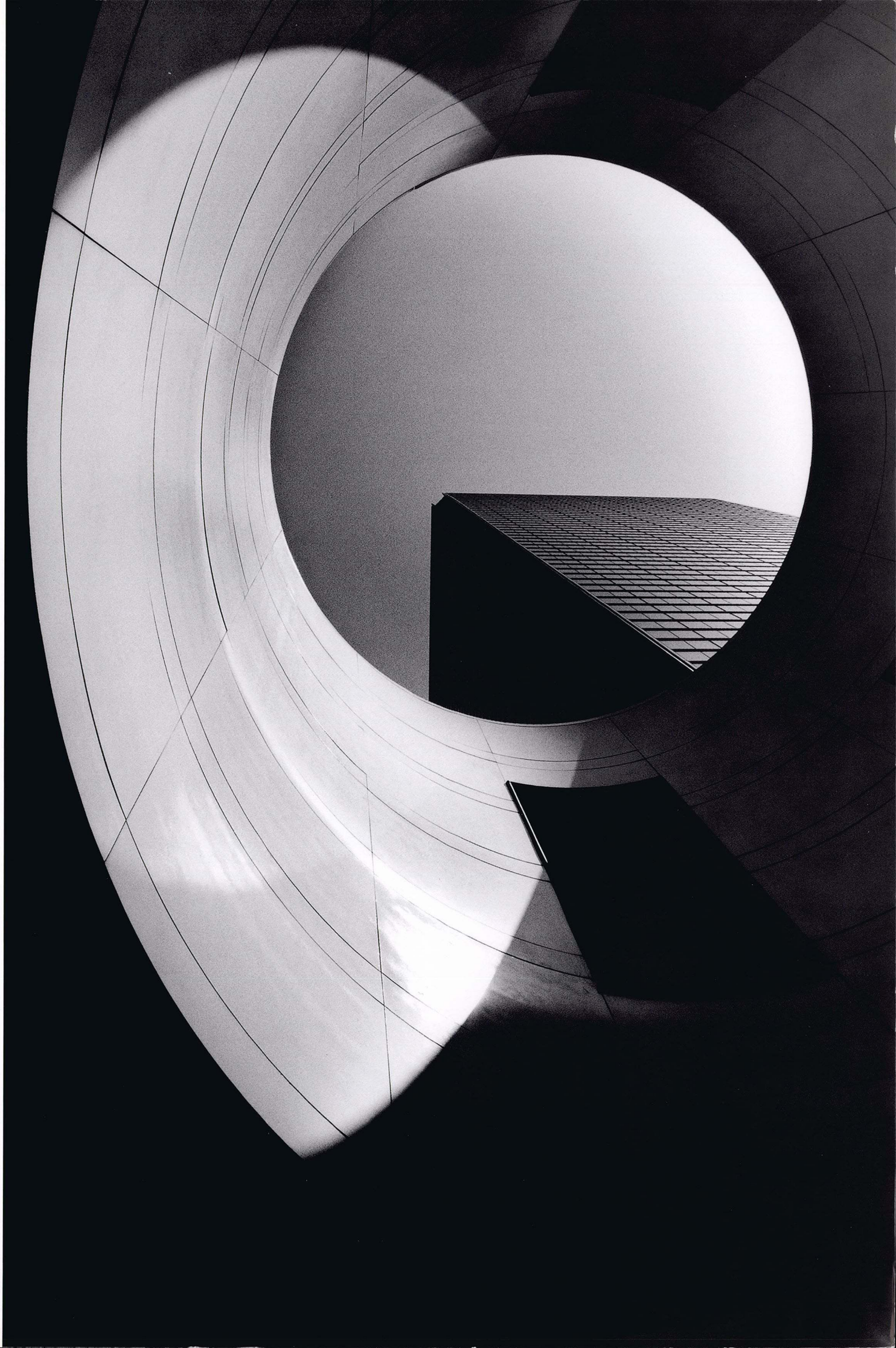
建築と社会

2005 No.1005

特集　第52回青年技術者



12

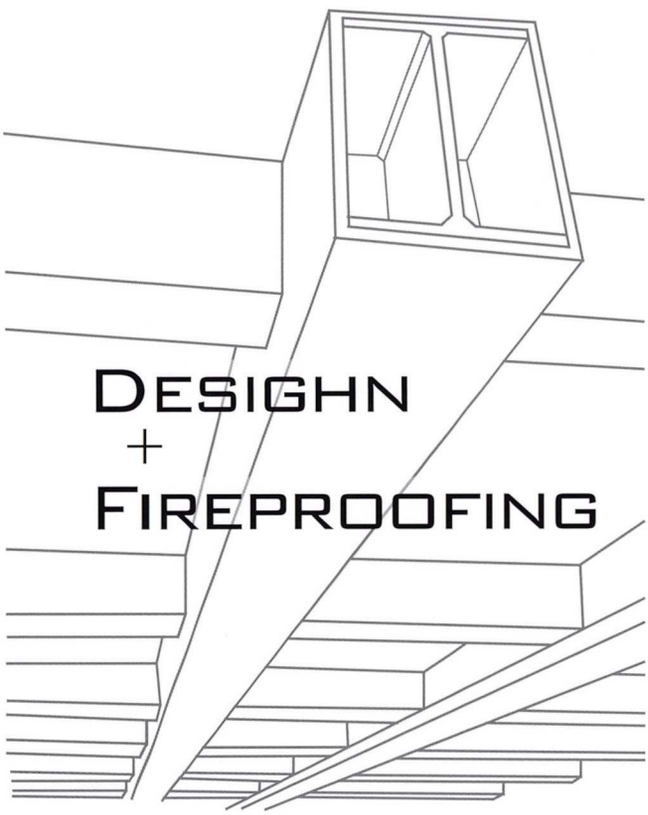
日本建築協会

デザインを「魅せる」品質が「見える」耐火被覆材

ニュータイカライト

無石綿けい酸カルシウム耐火被覆板

www.jic-bestork.co.jp



厚さ
従来品より **40%薄く！**

コスト
従来品より **30%廉価に！**

ニュータイカライトは、
被覆厚さを従来品より40%削減の厚さ 15mmを実現。
柱・はりの納まりを小さくすることで、
空間を広く活用できます。
また、厚さ15mmという薄物化の成功により、
従来品30%のコスト削減に成功しました。

石綿処理もJICにお任せください

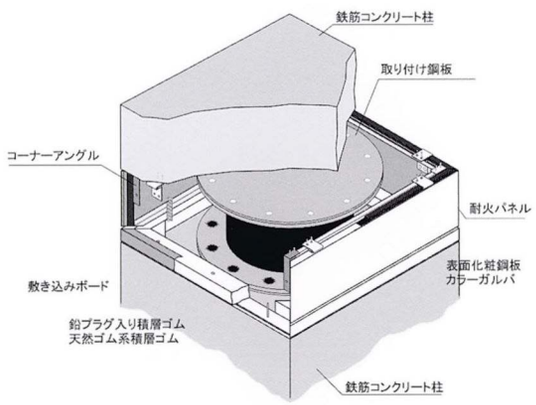
- 石綿分析
- 石綿除去工事 ＜技術審査証明＞

新発売

免震装置用耐火被覆システム

めんしんたすけ

- スプリングによる連結により、大変形への追従性と復元性を確保
- パネルをはずす必要がなく、メンテナンスが容易
- 柱3時間の耐火認定を取得
- 化粧鋼板タイプもあり、意匠性を確保
- 柱外寸1150mmというコンパクトサイズにも対応



JIC
日本インシュレーション株式会社

事業内容

- 鉄骨耐火被覆材
- カーテンウォール耐火ボード
- 不燃人造木材・不燃断熱材
- 調湿建材・煙突ライニング材、他

事業所・営業所

本　社　大阪市浪速区大国1-1-6新大国ビル
TEL.06-6633-7323　FAX.06-6633-0760
大　阪　TEL.06-6633-7322　FAX.06-6643-7480
東　京　TEL.03-3553-7531　FAX.03-3553-4530
名古屋　TEL.052-243-0061　FAX.052-243-0063
営業所：仙台・岐阜・福岡

会告

『建築する人たち ―アーキテクト・アーティストの素顔―』発売中



日本建築協会事業委員会の中の若い会員の集い小委員会が、「30's EYE」のタイトルのもと30代の講師を招いて連続講演会を開いたのは1993年にさかのぼる。

20代でもなく、円熟の40代でもない30代の建築をつくる人、空間をデザインする人、社会に働きかけて実践する人たちとの講演会における本音トークは、企画担当者を、単行本化してこの「建築する人たち」の様々な顔を浮かび上がらせたいという気持ちに駆り立てた。

「30's EYE」の企画に携わった委員たちが2001年以降に「建築する人たち」の職場を訪問し、インタビューをしてまとめ上梓したのがこの書『建築する人たち』である。

取材から年月は経過したが、その生い立ちや30代をどう捉えるかということに主眼をおいたインタビューの内容は新鮮さを失うことなく『建築する人たち』にまとめられている。

購入ご希望の方は、発行所（圓津喜屋（えんづきや）〒545-0011大阪市阿倍野区昭和町1-6-4、TEL・FAX06-6622-4466）へ連絡願います。

●登場人物

長坂　大（ながさか・だい）
橋爪紳也（はしづめ・しんや）
花田佳明（はなだ・よしあき）
吉井歳晴（よしい・としはる）
堀木エリ子（ほりき・えりこ）
梅林　克（うめばやし・かつ）
松政貞治（まつまさ・ていじ）
末松利紀（すえまつ・としのり）
中村勇大（なかむら・いさむ）
三澤文子（みさわ・ふみこ）
平山洋介（ひらやま・ようすけ）
森田昌宏（もりた・まさひろ）
辻本智子（つじもと・ともこ）
松本　正（まつもと・ただし）
松井紫朗（まつい・しろう）
長田直之（ながた・なおゆき）
大谷弘明（おおたに・ひろあき）
中川　理（なかがわ・おさむ）
宮本佳明（みやもと・かつひろ）

●インタビュア「30's EYE出版分科会」

芦田智之／有田吉弘／石井太志／笠原正代／河合哲夫／阪田弘一／佐々木晴子／龍野豪利／田中康／田畑重明／樋上新治／増田昌彦／廻はるよ／山隈直人／吉武宗平／米井寛

●体裁

編集／米井寛・石井太志・吉武宗平
発行者／藤谷充代
発行所／圓津喜屋
発行／2005年7月25日第一版第一刷
B6判、224頁、本体2000円

第5回 読者と選ぶ「建築と社会」賞 実施要項

2004年1月～12月号
2005年1月～12月号
を対象に!

■賞の趣旨

「建築と社会」という本誌の趣旨にふさわしい社会性・環境などに配慮した有意義な建築作品や建築にかかわる論文・記事などを顕彰する。選考にあたっては、会員の声を反映し、広く開かれた賞とする。

■選考対象

本誌「建築と社会」2004年1月号～12月号、及び2005年1月号～12月号に掲載された作品及び個別の論文・記事などを対象とする。（○○年○月号掲載の論文・記事名及び同執筆者名を明記の上、ご投票ください）

- 「作品作風頁」欄掲載の建築作品
- 「本会支部作品頁及びそれに準ずる作品頁」掲載の建築作品
- 「特集頁」「1000号記念」掲載の論文・記事ーただし特集頁全体は選考対象としないー
- 「シリーズ頁」「寄稿頁」の論文・記事（gallery、建築の眼、研究最前線を追う、設楽貞雄外遊日記、REPORT、書評など）
- 「実務の頁」の論文・記事（法令コーナー、構造の頁、設備の頁、新建材の頁）

＊アンダーラインは2004年1～12月号掲載分

■賞の部門

- 作品部門　1～4点
- 論考部門　1～4点

■選考方法

会員読者による第一次審査を経て、選考委員会による第二次審査にて決定する。

■2005年度の選考委員

井上　豊（財団法人日本建築総合試験所常任理事所長）
徳矢典子（弁護士、徳矢兄妹法律事務所）
柏木浩一（兵庫県立大学環境人間学部教授）
鈴木克彦（京都工芸繊維大学大学院助教授、編集委員）

■第一次審査

下記の読者アンケート様式によって、e-mail：ken-sha@aaj.or.jp または FAX（06-6946-6984）で投票されたものの中から、「作品」及び「論文・記事」を編集委員会において各部門10点程度を選出。これを第二次審査対象とする。

■第二次審査

第一次選考を通過した選考対象（作品部門）について、該当者に説明資料を求めることがある。

＊説明資料内容

①写真5点以内②図面5点以内③周辺環境との景観的調和がわかる資料として①②以外の写真、図など計5点以内④設計趣旨（A4判1枚以内）

＊説明資料提出期限

2006年2月末日

■発表と表彰

作品部門は建築主、設計者、施工者の中の代表者に賞状（記念楯）を贈呈する。論考部門は執筆者（複数の場合は代表者）に賞状（記念楯）を贈呈する。

入賞者は本人に通知するとともに、「建築と社会」2006年6月号で発表。

本号P58に2004年の「建築と社会」内容一覧を、裏頁P2～4に2005年総目録を掲載しました。ご参照下さい。

「建築と社会」賞 読者アンケート

送付先
(社)日本建築協会
FAX06-6946-6984
e-mail:ken-sha@aaj.or.jp

「建築と社会」では読者の方々のご意見を参考に、充実した誌面づくりをめざしております。2004年1～12月号、2005年1～12月号で、とくによいと思われた作品、記事、その他についてのご意見をFAXまたはe-mailでご送付下さい。このご意見は、読者と選ぶ第5回『建築と社会』賞の1次選考に反映されます。

お名前＿＿＿＿＿＿＿＿

勤務先＿＿＿＿＿＿＿＿

□とくによいと思われた作品とその理由

□とくによいと思われた記事とその理由

□本誌についてのご意見や、取り上げてほしい内容などがありましたらご記入下さい。

建築と社会
第86集総目録
2005
（平成17年）

社団法人　日本建築協会

特集号

震災から10年～震災により生まれた都市再生の潮流～ ……1
「健やか」～自然作用を活用した健やかな室空間の実現～ ……2
国立病院機構　長崎医療センター ……2
東海支部会員作品2005 ……3
東海における施設づくりへの新たな試み ……3
建築の経済化～得する建築、儲かる建築～ ……4
住まい方の変化～住み手のこだわりがもたらした住宅の現在～ ……5
人工栽培～植物工場の要素技術と建築への展開～…6
次世代に伝える「木」の建築 ……7
「建築と社会」1000号記念 ……7
改正建築基準法と景観緑三法～安全・安心のまちづくりと良好な景観形成に向けて～ ……8
火災から守る ……9
構造の過去から未来へ～大阪万博から35年～……10
私の空間作法 ―会員作品― ……11
第52回青年技術者……12

作品作風

●官公庁舎
中部国際空港 空港消防所 ……3
設計管理：伊藤建築設計事務所
施工：東海興業名古屋支店
西淀川区役所・西淀川図書館・水道局歌島サービスステーション・西淀川備蓄倉庫 ……8
施主：大阪市
設計監理：大阪市住宅局営繕部・類設計室・新日本設備計画
施工：鴻池組・間・高松共同企業体
●学校建築
愛知大学　車道校舎 ……3
設計監理：日建設計
施工：竹中工務店
大阪府立大学工学研究科物質系新学舎（仮称）……8
設計：大阪府建築都市部公共建築室
（建築）久米設計
（設備）新日本設備計画
監理：大阪府建築都市部公共建築室
（建築）上堂建築設計事務所
（設備）潮設備コンサルタント
施工：淺沼・三星・大日本共同企業体
兵庫県立津名高等学校 ……8
設計：兵庫県県土整備部まちづくり局営繕課、設備課
小西建築設計事務所（構造設計）
佐藤総合計画（設備設計）
工事監理：兵庫県県土整備部まちづくり局営繕課、整備課
施工：（校舎棟）淺沼・錢高・森長・太田土建 特別共同企業体
（体育館棟）柴田・出雲・特別共同企業体
（プール部室棟）寺西工務店
大阪大学学生交流棟 ……10
設計：大林組本店一級建築士事務所
監理：安井建築設計事務所
施工：大林組
高島市立 静里なのはな園 ……12
設計・監理：徳岡昌克建築設計事務所
施工：澤村
●病院・医療施設
腎不全センター 幸町記念病院 ……2
設計・監理：安井建築設計事務所
施工：大本組
（医）宏潤会　大同病院A棟……3
設計監理：日建設計
施工：大林組
横浜市立みなと赤十字病院 ……7
設計・監理：伊藤喜三郎建築研究所
施工：（本館棟）清水建設・大林組・大成建設・三星物産・佐藤工業・飛島建設・安藤建設・渡辺組・紅梅組・奈良建設JV
（エネセン棟）粗鉄建設・八千代アクタスJV
●文化・スポーツ・社会施設
豊田市鞍ヶ池公園子供プレイハウス・多目的広場上家 ……3
設計監理：豊田市都市整備部営繕課
施工：矢作・トヨタ建設共同企業体
田原本青垣生涯学習センター ……9
設計・監理：東畑建築事務所
施工：鴻池・淺沼・村本共同企業体
●複合施設
名古屋東宝ビル ……3
設計施工：竹中工務店
●業務ビル
帝国データーバンク大阪支社ビル ……2
設計・監理：鴻池組大阪本店一級建築士事務所
施工：鴻池組大阪本店
トラスコ中山株式会社 プラネット神戸 ……11
設計・監理：昭和設計
施工：竹中工務店
●銀行建築
桑名信用金庫駅前ビル ……3
設計監理：伊藤建築設計事務所
施工：清水建設名古屋支店
桑名信用金庫四日市西支店 ……3
設計監理：伊藤建築設計事務所
施工：安藤建設名古屋支店
日新信用金庫玉津支店 ……5
設計監理：安井建築設計事務所
施工：明石土建工業
●交通施設
中部国際空港旅客ターミナルビル ……3
設計・監理：日建・梓・HOK・アラップ共同企業体
施工：（その１工区）大成・鹿島・大林・東急・戸田・ベクテル・佐藤・矢作共同企業体
（その２工区）竹中・清水・鴻池・飛島・フジタ・ロッテ・名工・徳倉共同企業体
●住宅・マンション・社宅
中部国際空港 セントレアホテル ……3
設計管理：日建設計
施工：矢作・メイエレック共同企業体
愛知県住宅供給公社 サンコート砂田橋 ……3
設計施工：竹中工務店
ディーグラフォート神戸三宮タワー ……5
設計監理：竹中工務店
施工：竹中工務店
ガーデンヒルズ千里中央 ……6
設計監理：奥村組
施工：奥村組
海岸通・エレガーノ神戸 ……9
設計監理：竹中工務店
施工：竹中工務店
ハイツ甲四公園（ハイツコウシコウエン）……12
設計・監理：竹中工務店
施工：竹中工務店・日土地建設共同企業体
●商業施設
アミュプラザ鹿児島 ……1
設計：安井建築設計事務所
監理：九州旅客鉄道、安井建築設計事務所
施工：大林・戸田・西松・フルーアダニエルジャパン・九鉄工業
ダイヤモンドシティ・プラウ ……2
設計・監理：竹中工務店
施工：竹中工務店・新日本製鐵JV
ららぽーと甲子園 ……2
事業主：三井不動産
設計・監理：大林組本店一級建築士事務所
環境デザイン：RTKインターナショナル
施工：大林組
ダイヤモンドシティ・ルクル……4
設計：安井建築設計事務所
商業企画・環境デザイン：ディ・プレイン研究所
総合元請：三菱商事
施工：大成建設
KUZUHA MALL（くずはモール） ……6
監修：R&D associates
設計・監理：竹中工務店
施工：竹中工務店
そごう心斎橋本店……11
設計・監理：竹中工務店
設計監修：MURANO design
内装設計：キャリソン・アーキテクチャー社・竹中工務店・乃村工藝社
施工：竹中工務店・大成建設JV
●老健施設
特別養護老人　ホームメリーホーム大喜 ……3
設計監理：安井建築設計事務所
施工：前田・矢作特別共同企業体
介護老人保健施設　ケアヴィラ宝塚 ……7
設計監理：上坂設計
施工：大林組
有料老人ホーム　エスペラル城東……12
設計・監理：安井建築設計事務所
施工：清水建設・奥村組共同企業体
●その他
ウインズ小郡（JRA場外勝馬投票券発売所）……10
設計・監理：日本中央競馬会施設部・日本競馬施設株式会社
設計監理協力：安井建築設計事務所
施工：ウインズ小郡新設工事共同企業体

gallery

新しい原風景（筑波幸一郎）／倉渕奈千子 ……1
装置としての彫刻（寺田武弘）／寺岡宏治 ……2
空中リビングの家（細木　茂）／山田俊紀 ……3
透明な階段（渡部慶一）／居内章夫 ……4
趣味―仕事―住まい（向井新二郎）／池上　明 …5
小さな住まい・大きな暮らし（井上久実）／前川治彦 ……6
動きのあるデザイン（クレフテ）／川上比奈子 …7
Round the Clock（trojka）／井上雅祐 ……8
四季劇場「自由」（畑　弘行）／鞆野淳司 ……9
現代に開かれた建築（由田　徹）／芳谷晴彦……10
華鐵（山際直人）／中村文紀……11
テキスタイルの可能性（高原浩之）／赤木　隆 …12

震災から10年
～震災により生まれた都市再生の潮流～

●総論
阪神・淡路大震災から10年～住宅・まちづくり復興で出来たこと、残された課題～／垂水英司 ……1
●各論1　震災10年目以降のまちづくり
地域とNPOの協働まちづくり／宮定　章 ……1
復興まちづくりから見えた課題／大西一嘉 ……1
まちづくり協議会の果たした役割／中島克元 ……1
震災と地域メディアからの情報発信／小泉美喜子…1
●各論2　阪神・淡路大震災の教訓を活かす
被災者の避難生活／阪田弘一 ……1
住宅耐震化の再建支援の経済学～生活の安全保障の構築に向けて～／永松伸吾 ……1
将来の大震災に備えて～大震災の検証・8つの視点～／室崎益輝 ……1
●各論3　私と震災
『大黒柱』の大切さ／東　朋治 ……1
“まちづくりの現場”を感じる／宮定　章 ……1
ガレキに花を咲かせましょう／天川佳美 ……1
高齢者コレクティブ住宅の推進／石東直子 ……1
この10年、さらに10年／室崎益輝 ……1

「健やか」
～自然作用を活用した健やかな室空間の実現～

●総論
現代における「健やか」考／秋元孝之 ……2
●各論
Human Centeredな地域建築～北海道立北方建築総合研究所の試み～／鈴木大隆 ……2
放射冷房／甲谷寿史 ……2
「シックハウスはなくならない」～住まいのインフォームドコンセント～／横山幸弘 ……2
天然ゼオライト素材による調湿内装材／松本　浩…2
竹をとおして人と自然の環境共生をめざす／徳本一郎 ……2

国立病院機構　長崎医療センター

●作品
国立病院機構　長崎医療センター ……2
●本文
21世紀のモデル病院をめざして／米倉正大 ……2
アメニティの高い優しく豊かな空間づくり／毛呂正俊 ……2
病院建築と電子カルテ／松本武浩 ……2
医療の灯台をめざした新しい病院／寺岡宏治・守安聡司 ……2
癒しの療養環境をめざして／高野直樹 ……2
災害に強い構造計画／坪根正幸 ……2
エコホスピタルをめざして／小林陽一・新原渉 …2
病院とともに歩む長期施工計画／中内隆一郎・松永豊・施工品質管理推進室 ……2
●データ
建築概要／平面／立面／断面 ……2

東海支部会員作品2005

（作品作風欄収録）
愛知大学　車道校舎／（医）宏潤会　大同病院A棟／特別養護老人ホーム メリーホーム大喜／桑名信用金庫駅前ビル／桑名信用金庫四日市西支店／名古屋東宝ビル／愛知県住宅供給公社 サンコート砂田橋／豊田市鞍ケ池公園子供プレイハウス・多目的広場上家／中部国際空港旅客ターミナルビル／中部国際空港空港消防所／中部国際空港 セントレアホテル …3

東海における施設づくりへの新たな試み

〔空港運営からみた施設づくり〕
中部国際空港セントレアでの試み／荒尾和史 ……3
施設建設費抑制への設計からの対応／赤司博之 …3
工事特性を生かした施工法／中部国際空港旅客ターミナルビルその２工区新築工事 竹中・清水・鴻池・飛島・フジタ・ロッテ・徳倉共同企業体 ……3
〔空港開港とまちづくり〕
開港のインパクトを生かすまちづくり／石橋誠晃 ……3
空港対岸部（前島）にカジノコンプレックスを／井口彰二 ……3
〔PFI方式による施設づくり〕
日本初の図書館PFI事業／尾頭　誠 ……3
〔特定建築者制度を活用した都市再生手法〕
民間事業者と連携した再開発事業による街づくり／坂倉　健 ……3
〔海外の設計組織との連携〕
海外事務所との連携による街並み創出日記／山越篤哉・林　昌明 ……3
〔支部会員が語る〕
21世紀・新しい都市の姿と都市再生の手法／小宮三辰・黒田清宏・佐伯　博・鈴木慶智・中村哲士 …3

建築の経済化　～得する建築、儲かる建築～

●総論
得する建築をつくるために／古阪秀三 ……4
●各論1　商品としての住宅、デザインとしての住宅
商品としての住宅／辻　武之 ……4
デザイン重視の住宅／西濵浩次 ……4
住宅のエリア・マーケティング〈インタビュー〉／沖　有人 ……4
●各論2　建築・まちのバリューアップ事例
街の資産価値を高めるために／金城敦彦 ……4
100年後のまちを見据えて―「ハービスENT」における経済的な建築への取り組み―／三宅次郎・小浜良太 ……4

住まい方の変化
～住み手のこだわりがもたらした住宅の現在～

集合住宅にもとめられるもの／上出剛敏 ……5
インテリアから発想した日本ではじめての家／大重　亨 ……5
住宅としてみた「認知症高齢者グループホーム」／家田知明 ……5
集合住宅に新たな一歩～ペットへの取り組み～／遠藤淳子 ……5
住宅に安心を求めて～住宅を対象とする火災保険の進化にみる～／松﨑一美 ……5
住宅の防犯／甘利康文・舟生岳夫 ……5
窓採りデザインの提案／白瀬哲夫 ……5

人工栽培
～植物工場の要素技術と建築への展開～

●総論
人工栽培技術の歴史と現状／新名惇彦 ……6
●各論　植物工場を支える要素技術
植物工場における光環境の制御／後藤英司 ……6
植物工場における熱制御／森元正則 ……6
植物工場における空気･水制御と上屋／中村謙治 …6
●各論　植物の特性に最適な環境と今後の展開
培地温度管理型システムによるイチゴ栽培／宮本昭夫 ……6
きのこ栽培工場／寺下隆夫 ……6
トマト栽培における環境制御／向井慎司 ……6
人工環境下での植物栽培―咲くやこの花館―／久山　敦 ……6

次世代に伝える「木」の建築

●総論1
次世代に伝える「木」の建築／坂本　功 ……7
●各論1
「木の家」をデザインする―山と町をつなぐこと―／三澤文子 ……7
「木」を生かす設計術／竹原義二 ……7
●各論2
木を生かした建築の構造技術／長瀬　正 ……7
木々の呟き／中川克己 ……7
木造建築は火に弱いか?―良い木造と悪い木造―／原田和典 ……7
「木」を伝える／佐野春仁 ……7
●総論2
世界に誇れる木造建築／木下孝一 ……7

「建築と社会」1000号記念

1000枚の表紙 ……7
●本文
晴れやかさからの出発、そして／佐野吉彦 ……7
活動シーズの変遷とその行方／奥謝野　久 ……7
「建築と社会」創刊号から1000号にみる住宅と暮らしの変遷／北浦かほる ……7
●座談会
歴史を踏まえて未来へ―協会活動を魅力あるものに―／上原正行・河津龍大・神田暢子・小山将史・中村文紀・松浦剛士 ……7
●設楽貞雄外遊日記
90年前、建築家が見た欧米
大正元年10月16日、神戸駅から十大正一ケタ時代の建築の世界／監修：石田潤一郎 ……7

改正建築基準法と景観緑三法
～安全・安心のまちづくりと良好な景観形成に向けて～

●総論
景観法の制定と今後の展開／岸田里佳子 ……8
既存建築物に対応した建築基準法の改正／今村　敬 ……8
●各論
景観法の制定と京都の景観形成の取り組み／江田頼宣 ……8
既存不適格建築物の増築等〈全体計画認定制度と基準適用の合理化〉／岩田純一 ……8
斜面地マンション問題等への対応〈住宅地下室の容積率不算入措置に係る規定の見直し〉／村川博敏 ……8
防災空間の確保と土地の有効活用〈一団地の総合的設計制度と特例容積率適用地区制度〉／野村　彰 ……8
既存建築物の安全性の確保〈定期報告・検査制度の充実〉／中　昭良 ……8

火災から守る

●総論
火から建物を守る／長谷見雄二 ……9
●各論
木造被覆耐火性複合構造材の開発／並木勝義 ……9
火から熱膨張シートで鉄骨を守る―熱膨張性材料による耐火被覆―／小笠眞男 ……9
火から繊維でコンクリートを守る―超高強度コンクリートの爆裂防止―／原田博成 ……9
火から水で大空間建物を守る―放水型ヘッド等スプリンクラー設備―／沢田浩希 ……9
火からガラスで人を守る―放射熱を遮る耐火ガラス―／池内清治 ……9
煙から感知器で人を守る―煙を感知する技術―／山口拓郎 ……9
煙からスクリーンで人を守る―遮煙スクリーンによる災害防止事例―／井関淳一 ……9

構造の過去から未来へ
～大阪万博から35年～

●総論
構造は子供の夢／狩野忠正 ……10
●各論
〈基礎構造〉
土と水との闘い／髙幣喜文 ……10
〈構法〉
超高層における構法の変遷／八木貞樹 ……10
〈鋼構造〉
超高層ビルを出現させた鋼構造技術／長尾直治 …10
〈木構造〉
ヒューマンな住環境としての木造システムをめざして／樫原健一 ……10
〈RC、PC、PRC構造〉
鉄筋コンクリート構造規準の変遷／田中仁史 ……10
〈構造・生産技術〉
社会・都市と建築構造・生産技術の動向／瀬川輝夫 ……10
〈構造設計〉
構造設計の手法昔話／馬瀬芳知 ……10
〈構造設計者〉
構造設計者の役割と責任／鵜飼邦夫 ……10

私の空間作法―会員作品―

「静けさ」を創る／酒井利行 ……11
みどりに佇む／田中啓文 ……11
都市に住まう／森村政悦 ……11
海に望む／新居照和&ヴァサンティ ……11
自然の変化に対応する半屋外空間／吉村篤一＋建築環境研究所 ……11
住まいの予測・予言・予感／河南重雄 ……11
夢を包むガラス箱／徳岡浩二 ……11
地下から伸びる縦空間の家／中尾勝悦 ……11
rhythm／出江　潤 ……11
重なる光／奥谷繁礼・早崎伸一・平尾和洋 ……11
目印の屋根／岩下博美・松井宣明 ……11
形態のズレをいかす／池上　明 ……11
町屋再生／岡崎善久 ……11
新たな風景創りに参加する／上谷重男 ……11
自然の中の建築、建築の中の都市／塚口明洋 ……11

第52回青年技術者

●設計・計画部門
池内　匠／日蓮宗雲雷寺鐘楼・山門、臨済宗圓福寺本堂・庫裡、観音庵山門、曹洞宗長安寺鐘楼、若宮八幡神社拝殿、若宮八幡神社銅金物、圓福寺懸魚・鰭 ……12
大平直子／ダイセル西播磨研修センター、櫻正宗記念館 櫻宴、阿波銀行大阪社宅、ルネッサなんばタワー ……12
脇　宗一郎／クボタ本社阪神事務所、ＴＭＳＣ（トータル・メディカル・サポート・センター）、外務省研修所別館 ……12
永井　務／ホテル近鉄ユニバーサル・シティ、京都中央信用金庫十条ビル、京都中央信用金庫草津支店、（仮称）三宮インフォメーション計画、（仮称）アリオ八尾計画 ……12
加藤祐策／三日市町駅前西地区第二種市街地再開発事業施設建築物 フォレスト三日市 ……12
鞆野淳司／THE HOUSE 住吉本町、ロイヤルアーク比治山橋、ジオメゾン東町 ……12
高木耕一／色金保育園、清風荘、泉小学校、青少年児童施設 ……12
東本光尚／淡路市立北淡中学校、北淡町震災記念公園 野島断層保存館、住吉区複合施設、阿倍野複合施設 ……12
牧　圭亮／篠山市立篠山中学校、大東市立西部図書館 ……12
永田敦士／小倉競馬場正入場門、新日鐵大谷体育館、済生会熊本病院 健診センター ……12
内藤洋志／京都ノートルダム女子大学創立40周年記念館、神戸国際調理製菓専門学校、アルカンシエルベリテ大阪 ……12
柿本忠則／セロリーレソルテ、田辺製薬小野田工場厚生棟、広島学院クラブハウス ……12
吉岡英一／医療法人豊田会 刈谷総合病院診療棟、医療法人豊田会 刈谷総合病院東分院透析センター ……12
恵本涼太郎／名古屋学芸大学 メディア造形学部棟、神戸栄光教会、出雲村田製作所 独身寮、中西学園日進キャンパス コミュニケーションプラザ ……12
●構造部門
桑島由美子／新大江の住宅―意匠設計者との打ち合わせを重ねて― ……12
澤井祥晃／サステナブルローコスト大型物流倉庫の構造システムの開発 ……12
片岡弘行／限界耐力計算による木造軸組建物の耐震補強 ……12
中村吉秀／ホテルモントレ仙台～制震構造による高い耐震性能の付与～ ……12
加登美喜子／プレストレストコンクリート・プレキャストコンクリートによる意匠と構造の融合 ……12
●設備部門
中西剛行／和歌山県立情報交流センターにおけるネットワークシステムの構築 ……12
佐々木尚／省資源・省エネルギーで快適な庁舎を目指して ……12
春増　崇／高島市立静里なのはな園における省エネルギー手法 ……12
長南裕一／省エネルギー・環境負荷削減手法の導入と検証 ……12

号

水出喜太郎／堺ガスビルにおける快適性と機能性、省エネルギーの両立……12
●施工部門
中馬宏明／労務平準化を目的とした設備の先行、プレハブ採用……12
入江真吾／大規模鉄骨造素屋根工事のスライド工法による施工……12

法令コーナー

日本一安全な住まいのまち―震災復興と建築物安全安心実施計画―／増渕昌利 ……1
被災建築物応急危険度判定と被害住家被害認定調査／朝倉一晃 ……1
京都府・京都市の建築福祉に係る条例の概要／井隼秀樹／宮川和久 ……2
住宅耐震改修工法の提案／谷口要治 ……3
大阪市の都市再生～総合設計制度を活用した「にぎわい」の創出～／古川敦子 ……4
兵庫県の景観条例／前田俊文 ……5
大阪市における住宅転用支援への取り組み／洞　正寛 ……6
老朽危険家屋への神戸市の取り組み／平川利人……7
民間提案型の都市計画（神戸三宮駅南地域）／和渕　大 ……8
中古住宅のローン減税／結城恭昌 ……9
大規模集客施設の立地に係る都市機能の調和に関する条例（兵庫県条例）／藤原　一……10
京都市斜面地条例／杉浦伸一……11
第３次大阪府建築物安全安心実施計画／菊川　亮 ……12

構造の頁

「三鷹天命反転住宅」の構造／大淵敏行 ……3
ステンレスの台に置くだけの免震構造／西村春美 ……5
JR奈良駅の曳家／奥田和弘 ……7
風力と太陽熱のエネルギー利用システム―ロータス白浜1号の開発―／金　正鉉・橘英三郎 ……9
柱に鉄骨無垢材を用いた建物の構造設計／白髪誠一 ……11

設備の頁

四角形蛍光ランプとその応用器具／吉田正彦 ……2
入退室管理設備／小山隆弘 ……4
ESCO手法を活用した総合医療センターの省エネルギー改修事業／石井勝秋・高橋和治 ……6
遮熱断熱塗料の現状と展望／徳永行文……10
抗菌・防汚のカーテン／蒲田恒彦……12

REPORT

阪神大震災から10年をふり返って―木造住宅の耐震改修を本気でやりましょう／稲毛政信 ……2
茶の湯雑感―利休が神（茶聖）になった日―／上谷重男 ……2
●葉　祥栄／教授退官最終講義レポート
『メビウスの輪を歩いて』～ミースから日本的な空間の精神性へ～／横井篤文 ……7
日本の精神的空間―非物質性の発見／葉　祥栄 …7
工場・商品PRセンター見学―日本インシュレーションを訪ねて―／松本　章……12
建築物の火災安全に対する問題提起を／金子一郎 ……12

書評・新刊紹介・書棚

●書評
地球環境時代の建築と横断的思考―『建築デザインと環境計画』（柏原士郎編著）―／濱　恵介 ……8
●新刊紹介
『グラウンド・ゼロ　再生への始動　ニューヨークWTC跡地建築コンペティション選集』（Suzanne Stephensほか）……2
『建築運動に詩あり　―建築人の軌跡』（松井昭光）……2
『白井晟一空間読解―形式への違犯―』……12
『京都迎賓館 ものづくり ものがたり』……12
●書棚
『ヒマラヤに学校を建てよう!建築家のボランティア奮闘記』……10
『坂　茂 Shigru Ban』……10
『THE PHAIDON ATLAS―世界の現代建築』……10

新建材の頁

エバーライト―NFNR／森川　務……8

号

設楽貞雄外遊日記

（初回は7月号1000号記念特集に収録）
びっくり仰天のサンフランシスコ＋万国博とアパート／監修：石田潤一郎 ……8
モルモンテンプル大本山拝観＋建築家モルガンとの出会い／監修：石田潤一郎 ……9
押し問答のナイアガラ見物＋シカゴ派退場後のシカゴにて／監修：石田潤一郎……10
ニューヨークを駆ける＋二十世紀都市文明の先端で／監修：石田潤一郎……11
ワシントンは政治の地＋世界一の図書館にて／監修：石田潤一郎……12

information

大本山相國寺と金閣・銀閣の名宝展，厳島神社国宝展，大阪市立美術館特別陳列「館蔵 中国書画名品展」，どう生かす地震の教訓―地震防災総合研究10年に学ぶ―，「第9回震災対策技術展」＆「自然災害対策技術展」，大阪芸術大学 冬期所蔵品展，大阪ガスインテリアデザインスクール，第36中部建築賞表彰作品が決まる……1
第12回建材情報交流会，第295回コンクリートセミナー，東京で建築・建材展2005，住まいの大阪学「近代大阪を創った建築家たち」開講，ちゃんと住むとこ考えよか展―設計者とエンドユーザーをつなぐ―，「TILE DESIGN CONTEST」で作品募集，特別展『古代エジプト文明3000年の世界』，「木の匠と鉄の匠」福岡開催，特別展「第36回日展」，「人間国宝 江里佐代子・截金の世界」展，ドレスデン国立美術館展―世界の鏡―，岡倉天心展―日本文化と世界戦略―，一戦後60年―無言館　遺された絵画展，第6回「人間サイズのまちづくり賞」受賞者決定，第9回神戸市建築文化賞受賞建物決定 ……2
大阪府公共設計コンクール入賞作品決定，第18回大阪市ハウジングデザイン賞決定，『美術館にアートを贈る会』，「THE TILE FRONT 2005」，「都心郊外関係の新しい動き」，シンポジウム「くらしといのちを守る」・家相と風水セミナー，「國府　理」展，現代建築家ビデオ／DVDシリーズ発売，西日本トータルリビングショー ……3
「知る・備える・伝承する、災害に向けて」，「木の匠と鉄の匠」展―大阪会場―，「写真新世紀大阪展2005」開催，「ハンガリーの建築タイル紀行展―ジョルナイ工房の輝き―」，第８回関西建築家大賞募集，「人体の不思議」開催，佐野繁次郎展，特別展「大唐王朝 女性の美」，「世界遺産・博物館島 ベルリンの至宝展」，「水を統べる―江戸から明治へ―」開催，「谷口吉生のミュージアム」展，世田谷美術館コレクション展 ……4
医療福祉建築賞2004受賞作品6点，すまい・まちづくりフォーラム関西21〈2005年春季シリーズ〉，「けんざい2005」，効果的な広報手法を学ぶ，CASBEE評価員養成講習，SDゼミ「建築の発想とプレゼンテーション手法」，2005年度社団法人都市住宅学会関西支部総会関連催事，第12回空間デザインコンペティション作品募集，今，岡倉天心を考える，宮本佳明展，千總コレクション「京の優雅～小袖と屏風～」，脇田和作品展，展覧会「哲っちゃんのお遍路」，建設リサイクル法パトロール，「アーキズム2005」発刊 ……5
特別展「興福寺国宝展　鎌倉復興期のみほとけ」，「小野順造コレクション中国彫刻―中国彫刻の精華―」，トークショー　宮本佳明×安藤忠雄「大阪計画2005」，OPEN STAGE 2005，JCDデザイン賞公開審査，建設リサイクル法説明会開催，WORLD CITY FORUM，大阪市ハウジングデザイン賞，すてきなマンションは?肥田せいのなにわ学，安井仲治―僕はこんな美しいものを見た―，病院建築基礎講座／福祉建築基礎講座，異形の幻視力―小山田二郎展，自立循環型住宅設計講習会，ギュスターヴ・モロー展，兵庫県立美術館で開催，ル・コルビュジエ版画展 ……6
第7回「人間サイズのまちづくり賞」募集，歌一洋ヘンロ小屋展，第25回大阪都市景観建築賞（愛称：大阪まちなみ賞），戦後60年目の戦争展作品募集，特別展「第51回　全関西美術展」開催並びに作品募集，「エコビルド賞」作品募集，特別展「大阪近代住宅ものがたり―あこがれの住まいを求めて」，'05「ダントー」「ディープライス」新作発表会，建築仕上診断技術者資格取得講習，「海のギャラリー」38年前の姿に復元，AWDA2006、作品募集，「世界遺産・博物館島ベルリン至宝展」―神戸市立博物館―…7
「建築・まちづくりユニバーサルデザイン シンポジウム」神戸で，「改正建築基準法・同施行令等の解説」講習会，「自然の叡智～オーストリアのデザインと建築」シンポジウム，「ビオトープ管理士資格試験」，菅井　汲展―アート・遊―，「無言館 遺された絵画展～戦後60年 いのちの証～」，戦後60年のミニ戦争展，2005イタリアボローニャ国際絵本原画展，シルクロード展，大阪市立美術館で「ミラノ展」，五百城文哉、百回忌展，親子で楽しむ狂言教室，第37回中部建築賞公募，オーストラリア視察ツアー募集……8
アスベスト廃棄物の適正処理，建設リサイクル法説明会，「建築・設備総合管理技術者」資格取得講習会，「日本三景展」，陶芸家「加守田章二展」，ル・コルビュジエ版画展，「泥小屋探訪展―奈良・山の辺の道―」，第5回“ひと・環境・デザイン”展，「アール・デコ展」，アニアス・ワイルダー展，「近代沿々―琵琶湖・淀川・狭山池―」展とセミナー，国際デザインコンペティション大阪2005作品募集，第8回関西建築家大賞決定，SDゼミ「女性建築家が語る」，ショールーム「オリベアッド」……9
「最澄と天台の国宝」，「日英交流大坂歌舞伎展」，オランダ絵画の黄金時代，三井記念美術館、10月開館，バルケンホールとMr.Everyman、11月3日，うごく美術館の巡回運行実験参加者募集，吉村順三設計 脇田和アトリエ山荘特別公開，Ciao!TORINO―トリノデザイン展―，竹中大道具館のセミナー，CASBEE評価員養成講習会，第8回環境色彩コンペティションで作品募集 ……10
第17回フォーラム「時空を読むアーバン・デザイン」，講演会「住宅のストック・アンド・フロー」，「人より器、器より人…」，表彰式・記念講演会で語る，講座「家族をつくった家、家がつくる家族」，ロレアル賞連続ワークショップ2005「色」―現代建築の“白”、美術の“白”―，村野藤吾建築設計図展，ART BOX NAGOYA2005，江里佐代子「截金の世界」，「ケーテ・コルヴィッツ展」，「偉大なるシルクロードの遺産」展―京都文化博物館

号

―，「魅惑の17-19世紀フランス絵画展」，ベトナム近代絵画展，「フェデリーコ・エレーロ展」，SDゼミ「ショップデザイン～飲食編&物販編～」開講 ……11
美術館の遠足9/10，「柳宗悦の民藝と巨匠たち」展，「ミュシャ財団秘蔵 ミュシャ展」，「ナポレオンとヴェルサイユ展」，前川國男建築展と講座，「小さな骨の動物園」，ワタリウム美術館では…，長崎歴史文化博物館、11月3日にオープン，被災宅地危険度判定士講習会，「ソコイタリ」グッドデザイン賞受賞 …12

雑

●年頭のことば
2005年を迎えて／佐野吉彦 ……1
●本年の抱負
常設委員／設楽貞樹・上原正行・片倉健雄・瀬戸川　薫・鈴木映男 ……1
●会員の動き
土屋壽満さん、大阪市市民賞受ける ……1
●デザインコンクール
第50回工高生デザインコンクール設計課題：住宅 ……1
●特別企画
防災ガラスのすすめ／板硝子協会 ……3
●参考資料
第５回読者と選ぶ「建築と社会」賞実施のために〈2004年1～12月号、2005年1～12月号の内容一覧〉 ……11
●記録
日本建築協会建築クラブの休会に思う／佐野正一・伊丹隆俊・大辻眞喜夫・尾亀清四郎・川口順弘・澤井敏郎・伴　昭秀・三木敏男・八木重喜・和中　勝
建築クラブ講演記録……12

会告

出版委員会企画㉙〈プロのノウハウ〉講座―建築トラブルにみる常識非常識―，話題建築を聞く㉘見学会合同開催―関西電力新本店ビル―，平成16年度建築工事実務講習会，常設委員会の委員及びサポーターに就任し委員会活動に参加されませんか ……2
平成16年度第２回通常総会開催，常設委員会の委員及びサポーターに就任し委員会活動に活躍されませんか，第29回〈プロのノウハウ〉講座・建築トラブルにみる常識非常識，平成16年度建築工事実務講習会 ……3
兵庫県立芸術文化センター見学会，〈モダン建築再見2005〉ヴォーリズの建築―京都の３作品をたずねる―駒井家住宅／同志社アーモスト館／大丸ヴィラ……4
総会議決のお知らせ―平成17年度事業計画書，平成17年度収支予算書―，河内厚郎講演会と会員交流懇親会の開催，2005全国会員交流会・名古屋開催―中部国際空港と愛知万博に集う，〈モダン建築再見2005〉明治村・近代建築探訪～忘れたものを見つけよう～，兵庫県立芸術文化センター見学会，第51回工高生デザインコンクール―設計課題：コンビニエンスストアー― ……5
平成17年度第1回通常総会開催，〈モダン建築再見2005〉神戸のドコモモ100選と旧居留地をたずねて～ミナト神戸の青春時代～，2005全国会員交流会・名古屋開催―中部国際空港と愛知万博に集う……6
総会議決お知らせ，臨時理事会議決のお知らせ，第22回茶室見学会・大徳寺 孤篷庵「忘筌」及び玉林院「蓑庵・霞床席」，平成16年度事業報告書，平成16年度決算報告書，平成16年度日本建築協会役員会務分掌，日本建築協会評議員，日本建築協会支部長，日本建築協会委員，若き創造者たちへ―第52回青年技術者特集号へのお誘い―，私の空間作法―会員作品特集号―作品募集……7
若き創造者たちへ―第52回青年技術者特集号へのお誘い―，私の空間作法―会員作品特集号―作品募集，建材委員会主催工場・ショールーム見学会―日本インシュレーションを訪ねる―，『建築する人たち―アーキテクト・アーティストの素顔―』7月に発行…8
関西医科大学附属枚方病院見学会，『建築する人たち―アーキテクト・アーティストの素顔―』発売中 ……9
近代建築は関西がおもしろい!異人館のあるまち―神戸・山手―／坂本勝比古.近代建築は関西がおもしろい!和風邸宅の精華―太閤園淀川邸と樟徳館―／山形政昭.2005年建築関係団体合同忘年懇親会.関西医科大学附属枚方病院見学会 ……10
2005年建築関係団体合同忘年懇親会，2006年建築関係14団体合同新年交礼会，第5回読者と選ぶ「建築と社会」賞実施要項―2004年1月～12月号、2005年1月～12月号を対象に!，第51回工高生デザインコンクール入選者発表―設計課題：コンビニエンスストアー，建築／美術・出会って何かになっていくこと―ケーススタディとしての美術館― ……11
『建築する人たち―アーキテクト・アーティストの素顔―』発売中，第５回読者と選ぶ「建築と社会」賞実施要項 ……12

月報

日本建築協会月間の動き
（平成16年11月～平成17年10月）

建築と社会

Architecture and Society
JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

1917年創刊　第86集　通巻1005

2005 12

目次

特集●　第52回青年技術者

［設計・計画部門］
池内　匠●日蓮宗雲雷寺鐘楼・山門、臨済宗圓福寺本堂・庫裡、観音庵山門、曹洞宗長安寺鐘楼、若宮八幡神社拝殿、若宮八幡神社銘金物、圓福寺懸魚・鯱 …… 14
大平　直子●ダイセル西播磨研修センター、櫻正宗記念館 櫻宴、阿波銀行大阪社宅、ルネッサなんばタワー …… 15
脇　宗一郎●クボタ本社阪神事務所、TMSC（トータル・メディカル・サポート・センター）、外務省研修所別館 …… 16
永井　務●ホテル近鉄ユニバーサル・シティ、京都中央信用金庫十条ビル、京都中央信用金庫草津支店、（仮称）三宮インフォメーション計画、（仮称）アリオ八尾計画 …… 17
加藤　祐策●三日市町駅前西地区第二種市街地再開発事業施設建築物 フォレスト三日市 …… 18
鞆野　淳司●THE HOUSE 住吉本町、ロイヤルアーク比治山橋、ジオメゾン東町 …… 19
高木　耕一●色金保育園、清風荘、泉小学校、青少年児童施設 …… 20
東本　光尚●淡路市立北淡中学校、北淡町震災記念公園 野島断層保存館、住吉区複合施設、阿倍野複合施設 …… 21
牧　圭亮●篠山市立篠山中学校、大東市立西部図書館 …… 22
永田　敦士●小倉競馬場正入場門、新日鐵大谷体育館、済生会熊本病院 健診センター …… 23
内藤　洋志●京都ノートルダム女子大学創立40周年記念館、神戸国際調理製菓専門学校、アルカンシエルペリテ大阪 …… 24
柿本　忠則●セロリーレソルテ、田辺製薬小野田工場厚生棟、広島学院クラブハウス …… 25
吉岡　英一●医療法人豊田会 刈谷総合病院診療棟、医療法人豊田会 刈谷総合病院東分院透析センター …… 26
恵本涼太郎●名古屋学芸大学 メディア造形学部棟、神戸栄光教会、出雲村田製作所 独身寮、中西学園 日進キャンパス コミュニケーションプラザ …… 27

［構造部門］
桑島由美子●新大江の住宅一意匠設計者との打ち合わせを重ねて一 …… 28
澤井　祥晃●サステナブルローコスト大型物流倉庫の構造システムの開発 …… 29
片岡　弘行●限界耐力計算による木造軸組建物の耐震補強 …… 30
中村　吉秀●ホテルモントレ仙台～制震構造による高い耐震性能の付与～ …… 31
加登美喜子●プレストレストコンクリート・プレキャストコンクリートによる意匠と構造の融合 …… 32

［設備部門］
中西　剛行●和歌山県立情報交流センターにおけるネットワークシステムの構築 …… 33
佐々木　尚●省資源・省エネルギーで快適な庁舎を目指して …… 34
春増　崇●高島市立静里なのはな園における省エネルギー手法 …… 35
長南　裕一●省エネルギー・環境負荷削減手法の導入と検証 …… 36
水出喜太郎●堺ガスビルにおける快適性と機能性、省エネルギーの両立 …… 37

［施工部門］
中馬　宏明●労務平準化を目的とした設備の先行、プレハブ採用 …… 38
入江　真吾●大規模鉄骨造薬屋根工事のスライド工法による施工 …… 39

会告　『建築する人たち―アーキテクト・アーティストの素顔―』発売中.第5回読者と選ぶ「建築と社会」賞実施要項 …… 1
総目録　「建築と社会」第86集1月号～12月号 …… 2
作品作風　高島市立静里なのはな園 …… 6
介護付有料老人ホーム　エスペラル城東 …… 8
ハイツ甲四公園（ハイツコウシコウエン） …… 10
gallery　テキスタイルの可能性（高原浩之）●赤木　隆 …… 12
法令コーナー　第3次大阪府建築物安全安心実施計画●菊川　亮 …… 40
設備の頁　抗菌・防汚のカーテン●蒲田恒彦 …… 41
設楽貞雄外遊日記　ワシントンは政治の地＋世界一の図書館にて●監修：石田潤一郎 …… 42
REPORT　工場・商品PRセンター見学―日本インシュレーションを訪ねて―●松本　章 …… 43
建築物の火災安全に対する問題提起を●金子一郎
information　美術館の遠足9/10.「柳宗悦の民藝と巨匠たち」展.「ミュシャ財団秘蔵 ミュシャ展」.「ナポレオンとヴェルサイユ展」.前川國男建築展と講座.「小さな骨の動物園」.ワタリウム美術館では….長崎歴史文化博物館、11月3日にオープン.被災宅地危険度判定士講習会.「ソコイタリ」グッドデザイン賞受賞 …… 44
新刊紹介　『白井晟一空間読解―形式への違犯―』 …… 45
『京都迎賓館 ものづくり ものがたり』
月間の動き　平成17年10月分 …… 46
記録　●日本建築協会建築クラブの休会に思う …… 47
佐野正一／伊丹隆俊／大辻眞喜夫／尾亀清四郎／川口順弘／澤井敏郎／伴　昭秀／三木敏男／八木重喜／和中　勝
●建築クラブ講演記録

今月の表紙

企　画　枇杷健一
企画・写真　伊藤　彰
表紙デザイン　伊藤　彰

クリスタルホールの吹抜け空間が巨大な渦のように見え、その目から、ビルがひょっこり顔を覗かせています。

身近なまちの建築を新たな視点で探してきた本年の締めくくりは、大阪市北区中崎町の梅田センタービルです。

建築を様々な角度から見つめなおすことで、思いもよらない造形美が見えてくる。新しい建築の楽しみ方を発見できた1年間であったのではないでしょうか？

（枇杷 健一）

■特集予告
1月号／六甲道再開発
2月号／地方空港の時代
3月号／東海支部特集

編集委員会（平成17年度）
■副会長　永原　吉浩
井上　豊　難波　尚
中井　進　△肥嶋　好浩
■編集担当理事　向井　洋一
上原　正行　安田　拓矢
岡田　聿之　山本　健二
久我　三郎　□設備分科会
佐藤友美子　赤澤　正治
◎設楽　貞樹　△梶井　宏修
竹中　統一　河井　康人
立成　良三　河津　隆之
広原　盛明　近藤　国夫
堀田　修二　多賀　浩三
■特集小委員会　谷野　大志
□計画分科会　夏井　重行
★計画系　桝井　貴廣
飯田　匡　森本　史郎
鈴木　克彦　村上幸三郎
田中　直人　山下　修
髙橋　和也　□施工材料分科会
辻　武之　石原　卓也
紅谷　昇平　植田　実
△松田奈緒子　小林　正樹
三宅　次郎　平田　茂良
森　康郎　△平野　剛
守井　辰　吉田　正友
吉村　英祐　□法令分科会
★建築計画系　片岡　正和
安部　新二　野村　彰
荒木　宏之　△溝上　省二
江副　敏史　宮本　佳典
奥村　明孝　山口　一郎
菅野　忠司　山根　正利
木多　彩子　■作品作風小委員会
楠　敦士　赤木　隆
小林　優子　石塚なぎさ
桜井　則雄　居内　章夫
△所　千夏　井上　雅祐
野田　隆史　池上　明
枇杷　健一　稲垣　和江
松森　織江　川上比奈子
★インテリア・住宅系　倉渕奈千子
阿部　泰浩　澤田　純一
加藤　力　戸川　勝之
神谷　浩司　鞆野　淳司
黒柳　亮　○中村　文紀
髙野　直樹　芳谷　晴彦
△田中　浩介　増田　敬彦
戸井賢一郎　山田　俊紀
ベリー史子　■広告企画小委員会
本山　仁　荒本　俊明
□構造分科会　今井　成年
稲田　竜也　大竹　賢次
大氏　正嗣　中井　清和
木下　隆嗣　古畑　健一
白髪　誠一　前田　衛
田渕　勝道　○渡邉　浩文
中塚　光一

◎委員長　○副委員長　△幹事

印　刷　2005年11月25日
発　行　2005年12月1日
発行人　社団法人日本建築協会
発行所　社団法人日本建築協会
大阪市中央区大手前1-7-31
電　話　06-6946-6981
振替口座　00910-9-39975
印刷所　青葉印刷株式会社
（株）NPCコーポレーション
定　価　1200円〔税込〕







作品風

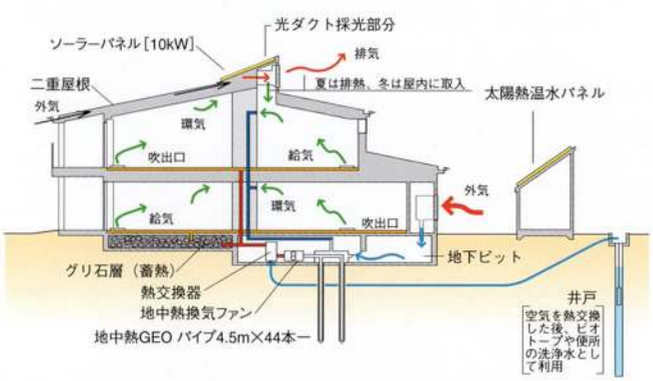
設計・監理■
徳岡昌克建築設計事務所

施工■
建築・機械：澤村
電気：澤井デンキ

高島市立 静里なのはな園

湖西から湖北に連なる山並みは豊かな水と緑を育む平野を形成し、琵琶湖に至ります。この自然の恵みを有効に活用し、環境に負荷の少ない施設をつくることを目標に設計を進めました。
計画地の大きな特徴は、陽当たりが非常に良く一年を通じて北西の風が吹き、また伏流水としての地下水が豊富なことでした。
太陽の恵みは、温水パネルによる温水供給、太陽光発電はもとより、２重構造の屋根（さや屋根）自体をパッシブソーラーシステムとして活用し、夏は断熱性能の向上、冬は新鮮空気を余熱して取入れて負荷を軽減しています。トップライトは２階のみならず１階へも光ダクトを通して自然光を導きいれ、照明は目的に応じた明るさで使えるように配置することで省エネルギーの空間づくりを心掛けました。
保育室は熱負荷条件の良い真南に向けて、北面の窓から北西風を取り込む風通しの良い諸室配置で、夏も心地良い風が園舎を流れます。また、豊かな地下水をトイレなどの洗浄や園庭の散水、ビオトープとしてのせせらぎにも利用しています。
空調は、基礎下部に長さ4.5mのアルミ製の杭を44本設置、その中に外気を取込み園舎内の床組みの間に吹出し、床面の随所に設置した吹出口から室内に至り、トイレや天井際の吸気口から排気する地熱利用の循環換気システムを採用し、冬でも室温を13度程度に保つことができます。夏は床から心地良い冷気が感じられることで子どもたちに大地の恵に触れられる優しい環境を創出しています。

（徳岡昌克・藤城義丈）



環境に配慮した省エネルギーシステム

所 在 地 ―― 滋賀県高島市新旭町藁園2305
敷地面積 ―― 18,952.26㎡
建築面積 ―― 2,601.83㎡
延床面積 ―― 3,295.98㎡
構造規模 ―― S造、2F
工　　期 ―― 2004年10月～2005年８月
最 寄 駅 ―― JR湖西線新旭駅
撮　　影 ―― 松村芳治











作品
作風

設計・監理■
安井建築設計事務所

施工■
清水建設・奥村組共同企業体

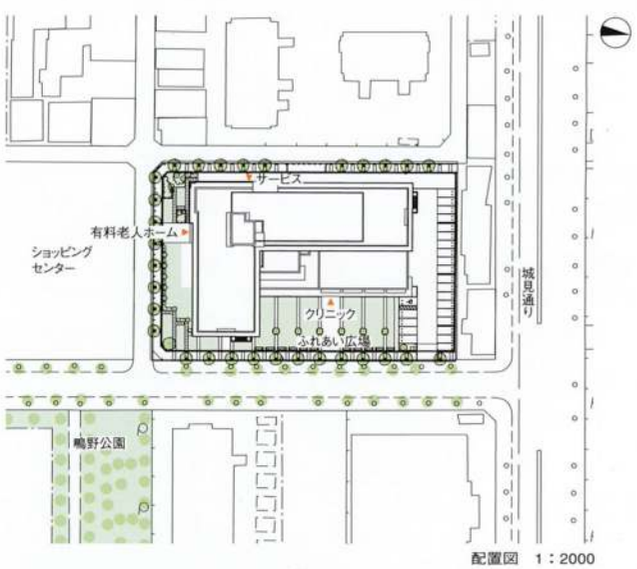
介護付有料老人ホーム
エスペラル城東

―多世代にわたるコミュニケーションの場をつくる―

大阪城を西側にのぞむ良好な敷地環境において、286室という大阪市で最大規模の介護付有料老人ホームを中心に、クリニック、保育所、ケアプラン、デイサービスを併設した計画である。入居者やその場で働くスタッフのより良い住環境整備はもちろんのこと、地域に開かれ溶け込むような新しい有料老人ホームのあり方や少子高齢化という課題に、いかに対峙していくかを関係者で議論を重ねた。その中で私たちは複合用途のメリットを活かしながら、『多世代にわたるコミュニケーションの場をつくる』ことをテーマとして計画に取り組んだ。

テーマの実現と実践に向けて、建物内外において人々が集う『陽だまりづくり』を行った。内部空間では入居者が街の景色を見渡しながら、明るく暖かい陽だまりの中で日常生活を楽しめるよう、バルコニーテラスと一体となった談話スペースを計画した。外部空間においては、総合設計制度を活用したゆとりあるランドスケープを展開し、隣接する公園と緑が連続するふれあい広場として整備し、入居者の散策やリハビリ庭園として、また地域の子供達の遊び場として、様々な交流が促進されることを期待している。

（寺岡　宏治・森　雅章・奥　貴人／安井建築設計事務所）



配置図　1：2000

所 在 地 ――大阪市城東区鴫野西4-1-24
敷地面積 ―― 4,539.01㎡
建築面積 ―― 1,937.99㎡
延床面積 ――14,265.92㎡
構造規模 ――RC造、10F
工　　期 ――2004年4月～2005年4月
最 寄 駅 ――JR鴫野駅、京阪京橋駅
撮　　影 ――伸和（八幡輝幸）













作品

設計・監理■
竹中工務店

施工■
竹中工務店・日土地建設共同企業体

ハイツ甲四公園（ハイツコウシコウエン）

閑静で成熟した住宅街の西宮市甲子園四番町、阪神本線・甲子園駅から徒歩10分、梅田・三宮にアクセス便利な立地する総戸数47戸のファミリータイプの賃貸集合住宅である。
施主が所有する１街区の最終期の建物であり、外観の調和を図り一体感のある街並みを目指して計画を行った。

□街の人々に愛されるために
外観は、暖色系を基調とした端正なデザインの外装と、ファサードを巧みに分節化することによるボリューム感の軽減により、住戸プランと外観の融合を図り、住宅地の街並みにふさわしい印象とした。
周辺戸建住宅や西側公園の環境、街区の一体感を意識した配置・植栽計画とした。
□安心して生活するために
専有部・共用部ともにバリアフリーを考慮し、きめ細かな設計により利便性と居住性を高めた。高齢者も安心して暮らせるように、オール電化・セキュリティ防犯設備を採用した。
□快適に生活できるように
住戸内には梁型の出ない無梁版を用い、すっきりとした快適な空間を確保した。設備は更新性のよい工法により、資産価値の高いロングライフ住宅を実現した。ここに暮らす人々が共感できることを願って、共用部には「飛躍」をテーマにしたオブジェを配した。

敷際には、やわらかな風がシラカシの木々を通り抜け、四季折々の草花が香り、ヤマボウシの葉擦れ音、それぞれの感性がブレンドされ、街路を行き交う人々のひと時の癒し空間となることを願っている。
（岩崎弘季／竹中工務店）



1階平面図　1：500

所 在 地 ――兵庫県西宮市甲子園四番町8-30
敷地面積 ――2,025.73㎡
建築面積 ――　997.51㎡
延床面積 ――3,991.52㎡
構造規模 ――RC造、5F
工　　期 ――2004年10月～2005年７月
最 寄 駅 ――阪神本線甲子園駅
撮　　影 ――エスエス大阪（清水向山）









gallery

テキスタイルの可能性

設計

髙原　浩之

ファッション界の新たなクリエーターを育てることを目的としたショールームである。敷地のある北堀江地区はこの10年で急速に変化してきた。
人の賑わいが建物のファサードを創り出していることは、街にとってプラスであると感じていた。そこで服生地を挟みこんだガラス［TexStyle Glass］で外装を覆い、元のオレンジ色タイルの外装をうっすらと透けて映し出させると同時に内部のショールーム機能とクリエイティブなエネルギーが街に溶け出すようにデザインした。この［TexStyle Glass］は一枚一枚が縦糸と横糸を編んだように配置され、建築自体がまるで一枚の布をまとっているように見える。テキスタイルの可能性を建築にまで広げている。この「可能性」という服をまとったショールームから、多くの若いクリエーターたちが、ファッション界へ羽ばたき、同時に新たな街の風景を創りだして行くことを願っている。

髙原　浩之
1961　大阪府生まれ
1982　大阪工業技術専門学校建築学科卒業
1987　髙原建築設計事務所主宰
1992　シーザー・ペリ＆アソシエーツ ジャパン㈱及び光井純＆アソシエーツ建築設計事務所㈱設計部長
2002　同上　執行パートナー兼大阪事務所所長
2004　株式会社HTAデザイン事務所設立。同事務所代表
http://www.htad.co.jp/

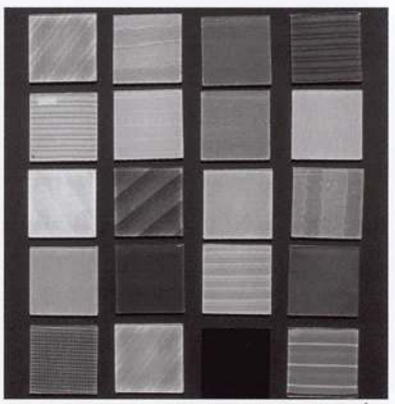
企画編集　赤木　隆(作品作風小委員会)











※撮影　中山大介

TexStyle Glassのサンプル

特集●第52回

青年技術者

■設計・計画部門——
池内　匠　清水建設
大平　直子　鹿島建設
脇　宗一郎　安井建築設計事務所・東京
永井　務　竹中工務店・大阪
加藤　祐策　昭和設計
鞆野　淳司　竹中工務店・大阪
高木　耕一　東畑建築事務所・名古屋
東本　光尚　昭和設計
牧　圭亮　佐藤総合計画関西事務所
永田　敦士　東畑建築事務所・九州
内藤　洋志　清水建設
柿本　忠則　竹中工務店・広島
吉岡　英一　竹中工務店・名古屋
恵本涼太郎　日建設計
■構造部門——
桑島由美子　桃李舎
澤井　祥晃　竹中工務店・大阪
片岡　弘行　鴻池組
中村　吉秀　大林組・東京
加登美喜子　日建設計
■設備部門——
中西　剛行　昭和設計
佐々木　尚　安井建築設計事務所・東京
春増　崇　徳岡昌克建築設計事務所
長南　裕一　東畑建築事務所・東京
水出喜太郎　日建設計
■施工部門——
中馬　宏明　鹿島建設
入江　真吾　大林組
掲載順不同

青年技術者選考委員会総評

選考委員長　設楽貞樹

今年は、大地震、大津波、台風、ハリケーンと全世界・地球規模で幾多の天災に見舞われた年でした。いや本当にこれらが天災と言えるのだろうかとも考えてしまいます。傲慢な人類の所業に対する地球からの警鐘のように思いませんか？　アメリカは京都議定書の批准を無視し続けたままです。最大のエネルギー消費国はもっと地球全体を考えてほしいと思います。一方身近なところに目を向けると、われわれの携わる建築生産の分野が排出する二酸化炭素は、全二酸化炭素排出量の38%を占めていると聞きます。先日出席する機会を得た、SB05Tokyo記念サスティナブル建築・住宅賞授賞式で聞いた審査委員長講評に「環境技術を建築計画に組み込む手法は一応確立できたように思う。今後はより広範な概念であるサスティナブルの視点で建築計画をどのように進めていくかが課題だ」とあったのが印象に残りました。われわれの日常の建築活動を通じてほんのわずかずつでも“地球環境にいいこと”をしたいものです。

今年もたくさんの優秀な青年技術者から応募をいただきました。いずれ劣らぬ立派な作品、成果を携えての応募で、例年のごとく審査には多くの時間と慎重な議論が必要でした。ここに紹介する26人の方々が選ばれましたが、残念ながら選にもれた方も建築界をリードする立場でご活躍されんことを祈ります。

審査を通じての感想を述べます。冒頭に述べた観点から、環境をテーマにした作品や成果が次第に増えていってほしいものだと思って注意して見ましたが、今年の応募作品の中にもいくつか環境をテーマにしたものがありました。環境に対する配慮が計画やデザインにまで反映されることがこれからの建築界の課題であり、大きなテーマであるべきと考えますので、今後も環境に対する姿勢は基本技として持ち続けていただきたいものです。

次に、残念なことですが、応募資料のコメントの中に応募者自身のそのプロジェクトに対しての関与度・貢献度が明記されていないものが今年もいくつかあったことです。毎年この選評に書いているのですが、応募資料は作品紹介・実績紹介ではありませんので、「このプロジェクトのこの部分を私は担当し、こんな提案をして実現できた」とか、「完成後に計画時点で考えなかったこんな発見をして大変貴重な体験ができた」とかの肉声をぜひ書いていただきたいと強く思います。それが感じられる方が入選されましたので、相当に重要なファクターであると言っていいと思います。来年応募される方はぜひ参考にしてください。

今年から入選者の表彰式を行うこととなりました。栄えある当選ですので、表彰式において皆さん全員で喜びを分かち合っていただき、次代を支える技術者同士の親交を深めていただきたいというねらいと、当選を契機に建築協会の活動に関心を深めていただければという思いとがあります。今年は11月30日に盛況のうちに執り行われました。

■設計・計画部門／伝統的木造建築をはじめ様々な分野で活躍されている若人の姿に触れ、これからの建築界に明るさを感じた次第。毎年、各審査員からその作品に対する「立場・役割」「関与の程度」「どういった点に工夫を凝らしたか・注力したか」「その結果がどう表現されているか」など、個人の力を発揮した部分を明確にし、その部分に輝きがあるかどうかが選考基準であることが指摘され続けた結果、今年の応募者は十分にこのことを理解して提出書類をまとめてきている印象がありました。その結果、満票推薦が6名、その他得点制で半数以上を得た人が「選出」となりました。力量がありながらもそのプレゼンテーションに問題があって、あとわずかというところで選に漏れた人もいます。

計画部分であれ、デザイン部分であれ、ディテールであれ、設計過程における運営手法であれ、与えられた役割の中で、「考え行動したことをこの部分でこう実現している」と具体性と一貫性を持って説明をすることが、顧客の理解を得ることにも通じることを念頭に、これからも精進を期待する次第です。(松村孝治)

■構造部門／応募資料を熟読して青年技術者にふさわしいかどうかを絶対評価した結果、応募5件すべての方が当選に値すると判断した。

限界耐力計算法を木造軸組建物の耐震補強に適用した片岡君。プレキャスト・プレストレストコンクリートを構造材料とした実施物件において、意匠と構造の融合に努力した加登君。アトリエ建築家とのコラボレーションにおいて、屋根スラブから吊り下げられた個室を構造体として積極的に活用した桑島君。免制振による構造性能の向上と建物のローコスト化の両立を図った澤井君。大型スラブの遮音性能について数理的に真っ正面から取り組んだ中村君。いずれも説得力の高い業績で裏打ちされた将来有望な技術者ばかりである。

今年の応募件数は少なかった。構造部門活性化のためにも来年度以降の活発な応募を期待する。(多田元英)

■設備部門・その他／その他部門で応募された1名を含め9名の応募の中から、本人が関与した程度・役割、技術・設計の工夫、それをどのように実現したかに重点を置いて選考し、5名を選出した。今年は環境の時代を反映し、省エネルギーや負荷削減・自然エネルギー利用等、建築と融合する設備システムでの応募が特に目立った。初期段階での設備計画が建築の環境性能に大きく影響し、重要な役割を担うことになることから、提案から実現までの積極的な関与を評価した。

惜しくも選考外になった方たちも、表現の仕方で業績への関与度等が低いと判断されただけで、技術力については全く差はないと思う。応募者全員に環境をつくるという重責があることを肝に銘じて精進していただくことを期待する。(三浦満雄)

■施工部門／入江氏は大規模鉄骨造素屋根工事において制約の多い条件下、揚重・鉄骨組立て計画について合理的な工法を考案していることのほかに、非対称の架構による柱脚部水平力への対応や、すべり支承の仕様やスライド時の架構の安定性といった種々の技術的課題を計画段階で詳細に整理・検討して、施工時の計測管理により検討結果の妥当性を検証しつつ安全に施工を行ったことを評価した。中馬氏は、短工期で大規模建築における逆打ち工事において、設備専門工事業者の労務量を工期内で可能な限り平準化するための方策として、多くの省力化工法・先行施工工法の採用、VE提案等を積極的に実践に移し、「2007年問題」が現実のものとなりつつある現時点で、問題意識の高さを評価した。

H氏の「中高層ビルにおける解体工法の改善と展開」は、提案内容に目新しさが少なかったことでアピールする点が乏しかったため、今回の推薦から見送ることとした。(池田孝夫)

応募の状況と結果

部門	応募数	入選数
設計・計画	23	14
構造	5	5
設備	8	5
施工	3	2
その他	1	0
計	40	26

第52回青年技術者選考委員会
設楽　貞樹／安井建築設計事務所常務取締役
末包　伸吾／神戸大学助教授
貴志　雅樹／高岡短期大学教授・貴志雅樹環境企画室
佐々木正人／竹中工務店プロジェクト推進本部長
松村　孝治／東畑建築事務所取締役開発本部長
多田　元英／大阪大学大学院助教授
樫原　健一／鴻池組建築本部エンジニアリング部長
三浦　満雄／日建設計設備設計部設計長
田辺　光雄／清水建設関西事業本部設計部第4部副部長
池田　孝夫／大成建設関西支店建築部品質管理室長

設計・計画部門



池内 匠（いけうち たくみ）

生年月日　1971年1月19日
最終学歴　1995年早稲田大学大学院
　　理工学研究科建設工学専攻
　　建築学専門分野修了
業　歴　1995年清水建設株入社
　　現在、大阪支店設計部に所属
　　関西の社寺と住宅に関する
　　設計業務を行っている

●社寺の主な作品履歴
2000年　曹洞宗長安寺鐘楼（栃木）
2001年　臨済宗圓福寺本堂・庫裡（京都）
2001年　若宮八幡神社社殿（和歌山）
2002年　観音庵妙観院山門（奈良）
2004年　日蓮宗雲雷寺鐘楼・山門（大阪）

■青年技術者のことば

伝統木造建築の仕事は素晴らしい仕事である。木の香り、美しい曲線で反りあがっていく軒先、ぴたりと収まる仕口、ダイナミックに組みあがっていく木組み、規矩を駆使する大工、職人の心のこもった手仕事。こんなに誇り高き、ドキドキする仕事場が現代の建築の現場にまだあるのだ。

昔の棟梁の仕事が細分化され、現代では設計という仕事になっている。純粋に美的感覚を追求できる素晴らしい仕事だ。日本が誇れる木造伝統技術や古代の美的センスを継承していくという歴史的な意義もある。

現代では伝統技術をもった職人も減り、古代の良質な技術の継承は設計者によっても行われなければならない。また、耐震性能など世の中の要望も変化しており、設計者に求められるものは多くなっている。

伝統木造建築はまだ解明しつくされていない分野であり、最先端の解析や実験により進んでいく面白い分野である。最先端の技術による創造と伝統技術の継承を融合させることがテーマの一つだ。

過去の賢人たちに学び、最先端の技術を取り入れ、新たな価値を創造して、数百年後に国宝になるような、感動を伝える平成の名建築をつくる気概で、伝統木造建築の設計を今後も行っていきたい。

■すいせん者

野村秀治
清水建設関西事業本部設計部長



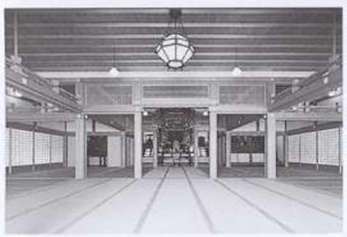




日蓮宗雲雷寺鐘楼・山門（うんらいじ） ―柱を12本とし耐震要素を多く取った、豪快かつ繊細な鐘楼―









臨済宗圓福寺（えんぷくじ）本堂・庫裡 ―長押を化粧材ではなく構造要素として使った、重厚かつ優美な本堂―



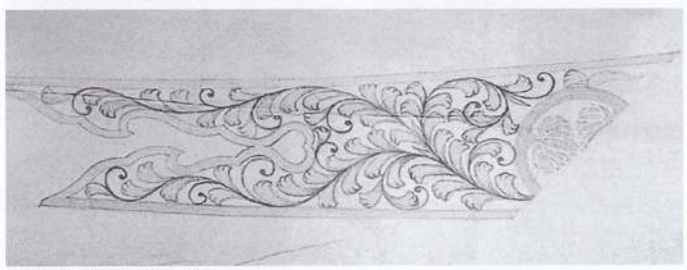
観音庵山門



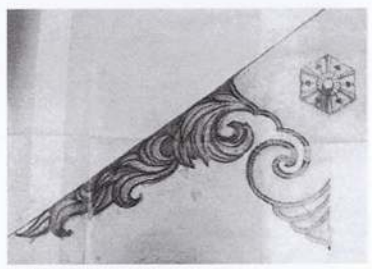
曹洞宗長安寺鐘楼



若宮八幡神社拝殿 ―凛とした清楚な美しさを狙った拝殿―



若宮八幡神社錺金物　スケッチ



圓福寺懸魚・鰭　スケッチ

設計・計画部門



おお ひら なお こ
大平直子

生年月日　1970年11月16日
最終学歴　大阪市立大学生活科学部住居学科
●業務経歴
1993年　鹿島建設入社、関西支店建築設計部
●作品経歴
1993年-98年　大塚ベバレジ 袋井工場
　第1、第2工場
1994年-98年　ダイセル 西播磨研修センター
1995年-98年　櫻正宗 櫻宴
1995年-97年　ホームセンターコーナン
　南魚崎店
1997年-99年　松下不動産 PHPビル
1999年-01年　ダイビル ルネブランクール
　北千里古江台
1999年-01年　阿波銀行 大阪社宅
2000年-02年　リクルートコスモス コスモ
　シティガーデンズ香里園
2002年-06年　丸紅他 ルネッサなんばタワー
2005年-07年　ホテルモントレ京都

■青年技術者のことば

私は、建築に対して「ミニマル」に徹することを心掛けている。私の考えるミニマルとは、装飾的要素を最小限に切り詰めたシンプルなスタイルの表現を意味する。

高度で多様な施主のニーズに対して「人」の動きを熟知し、「地脈」を解読するという地道でハードルの高い営みの中で、物事の本質を顕在化させ、建築に個性という「魅力付け」を与えると考えている。「シンプルなスタイル」は、技術力や鍛錬されたディテールの成果により生み出されるものだと思う。

ここに紹介した作品は、まっすぐ進めたわけではないが、前に進みながら取り組んできた作品である。

今後、高齢化や情報化への推移等、社会的要求が多様に変化し、これまで「可」であったものが「否」へ、「美」であったものが「醜」へと、今までの価値観が逆転してしまうかもしれない時代にある。その中において手馴れた設計者にはならない、探究心や柔軟性のある設計者でありたいと考えている。

■すいせん者

山田　元
鹿島建設関西支店建築設計部長





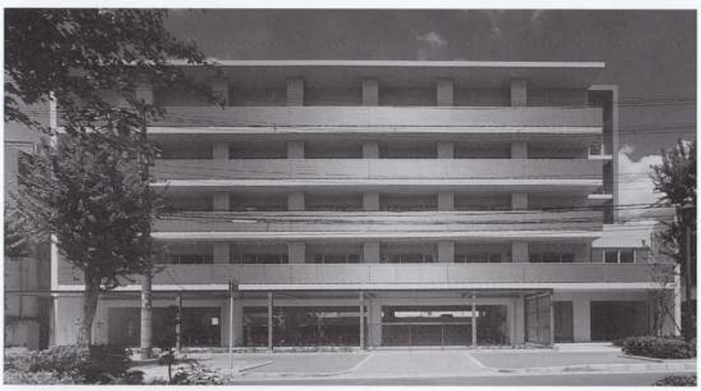


ダイセル 西播磨研修センター





櫻正宗記念館 櫻宴







阿波銀行 大阪社宅

「ミニマル」な
設計手法の追求



ルネッサなんばタワー

設計・計画部門



わき　そう いち ろう
脇　宗一郎

生年月日　1969年生まれ
最終学歴　1993年福岡大学工学部建築学科卒業
業　歴　1993年㈱安井建築設計事務所入社
現在、東京事務所設計部設計主任

●作品経歴
・TMSC（トータル・メディカル・サポート・センター）
・クボタ本社阪神事務所
・国立病院東京医療センター　情報管理棟
・新ヨンデンビル別館
・外務省研修所別館
・東京大学駒場Ⅱ総合研究実験棟
・埼玉県警察学校生徒寮

■青年技術者のことば

魅力ある馴染みのよい建築とは、建築だけを見ればそれを形作る壁や屋根といった物質とその物質で囲まれた空間という２つの要素に絞られるが、その背景にある「時代の様相」「気候」や「景観の潜在」などはどうなのだろうか。これらの各要素やクライアントとのコミュニケーションなどをヒントにし、与えられた土地に馴染みのよい建築をどう遂行させるかが問われる。

もの創りの生活の中で、時には周囲を見てコミュニケーションを図らなければ、建築は社会から切り離され、孤立したつまらない四角い箱になってしまう。人とのコミュニケーションで得た知識が、もの創りに対する視野を広くさせ、周囲の環境（自然）を取り込んだより良い空間を社会に提案できるものと考える。

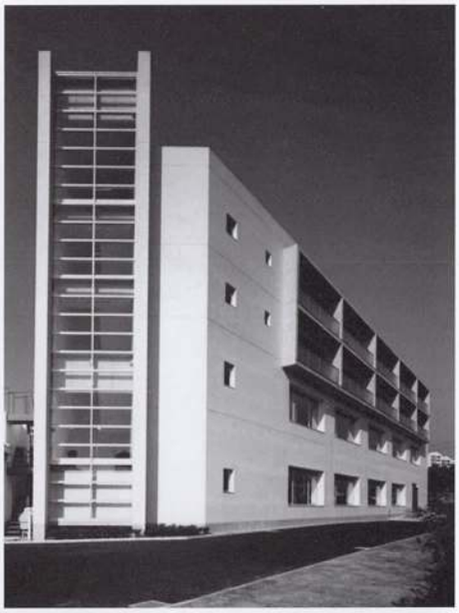
自然には光・音・風・熱などがあり、建築とは切り離せない『関係性』がある。その『関係性』を保つには人間の側に立ち、トータルな関係性を構築していくことにあると思う。

建築は環境との応答関係や人とのコミュニケーションによって生まれ、その瞬間から社会の中に置かれるため、社会的存在は大きい。これらの創造者としての責任は計り知れないが、このトータルに馴染みのよい建築の実現化のために、今までの経験を財産に勇気を持って発言できる設計者を目指したいと考えている。

■すいせん者

大村鐵太郎
安井建築設計事務所東京事務所所長







クボタ本社阪神事務所



TMSC（トータル・メディカル・サポート・センター）







外務省研修所別館

設計・計画部門



ながい　つかさ
永井　務

生年月日　1970年4月8日
最終学歴　東京大学工学部建築学科卒業
業　歴　1993年　㈱竹中工務店入社
現在、大阪本店設計部課長代理

●作品経歴
1996年　ホテル若水
2001年　ホテル近鉄ユニバーサル・シティ
2003年　京都中央信用金庫十条ビル
2004年　エムオーテックス江坂ビル
2004年　京都中央信用金庫草津支店

●受賞
1999年　平成11年度宝塚まちなみデザイン賞
2002年　第36回SDA賞入選
・関西地区デザイン賞
2003年　第10回大阪・心ふれあう
まちづくり賞
2004年　第17回近畿ニューオフィス奨励賞

■青年技術者のことば

旅館、ホテル、銀行、ショッピングセンターと「あきない」を行う場の設計にたずさわってきました。

切り詰められたスケジュールと、積み重なる変更要望…ともすれば建築主の複雑なニーズを表面的にとらえ「儲かるうつわ」をつくり出してしまいかねない状況。

そのようななかで踏みとどまり、目の前の建築主の想い（事業性）だけではなく、さらにその先にある顧客の「想い」を洞察し、予測し、建築主とともにそれを「かたち」(可視化)にしていくこと。これが設計者の責務だと思います。

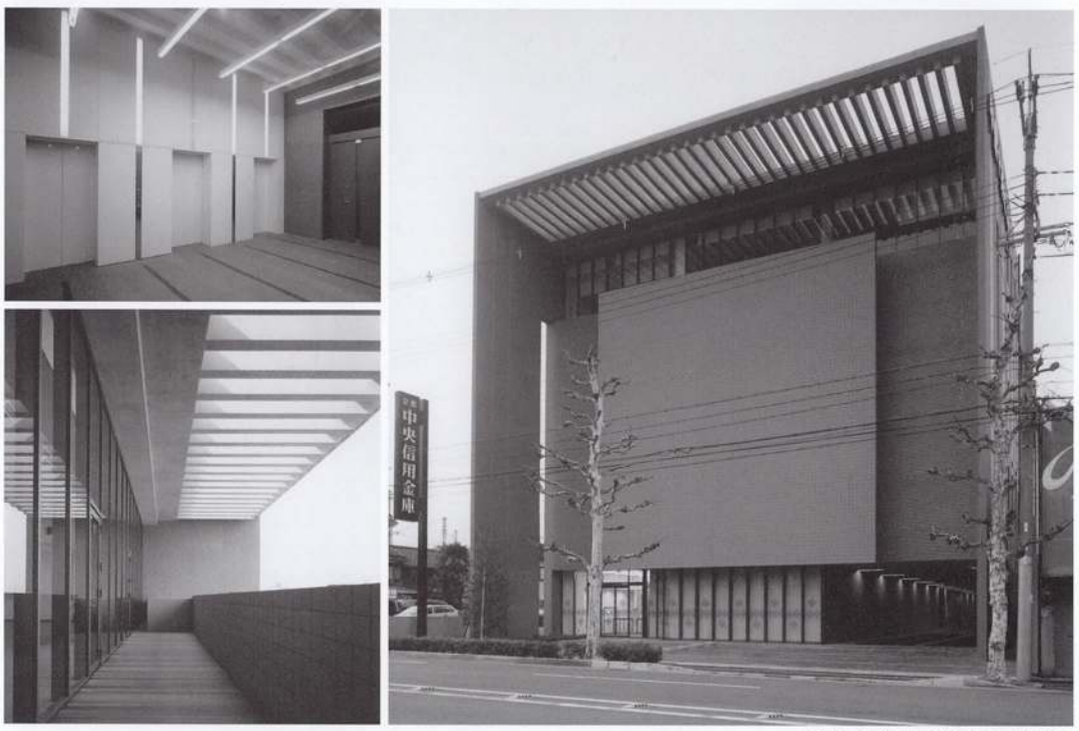
この難解な課題に対して、構造や設備、インテリア、見積調達、生産技術といった様々なプロフェッショナルとの協業作業のなかから導き出される融合化された技術が、ひとつの解になると考えます。

自らの領域に対する深い知識はもちろん、オーガナイザーとしての広い視点を常に持ち、エンドユーザーや地域社会、都市、地球環境といった建築を幾層にも取り巻くすべてのものに対して、やさしくて、たのしくて、心地よい、それでいて儲かる「建築」をこれからも遺していきたいと思います。

■すいせん者
天野直樹
竹中工務店設計部長



ホテル近鉄ユニバーサル・シティ



京都中央信用金庫十条ビル



京都中央信用金庫草津支店



（仮称）三宮インフォメーション計画



（仮称）アリオ八尾計画

設計・計画部門



加藤祐策（かとうゆうさく）

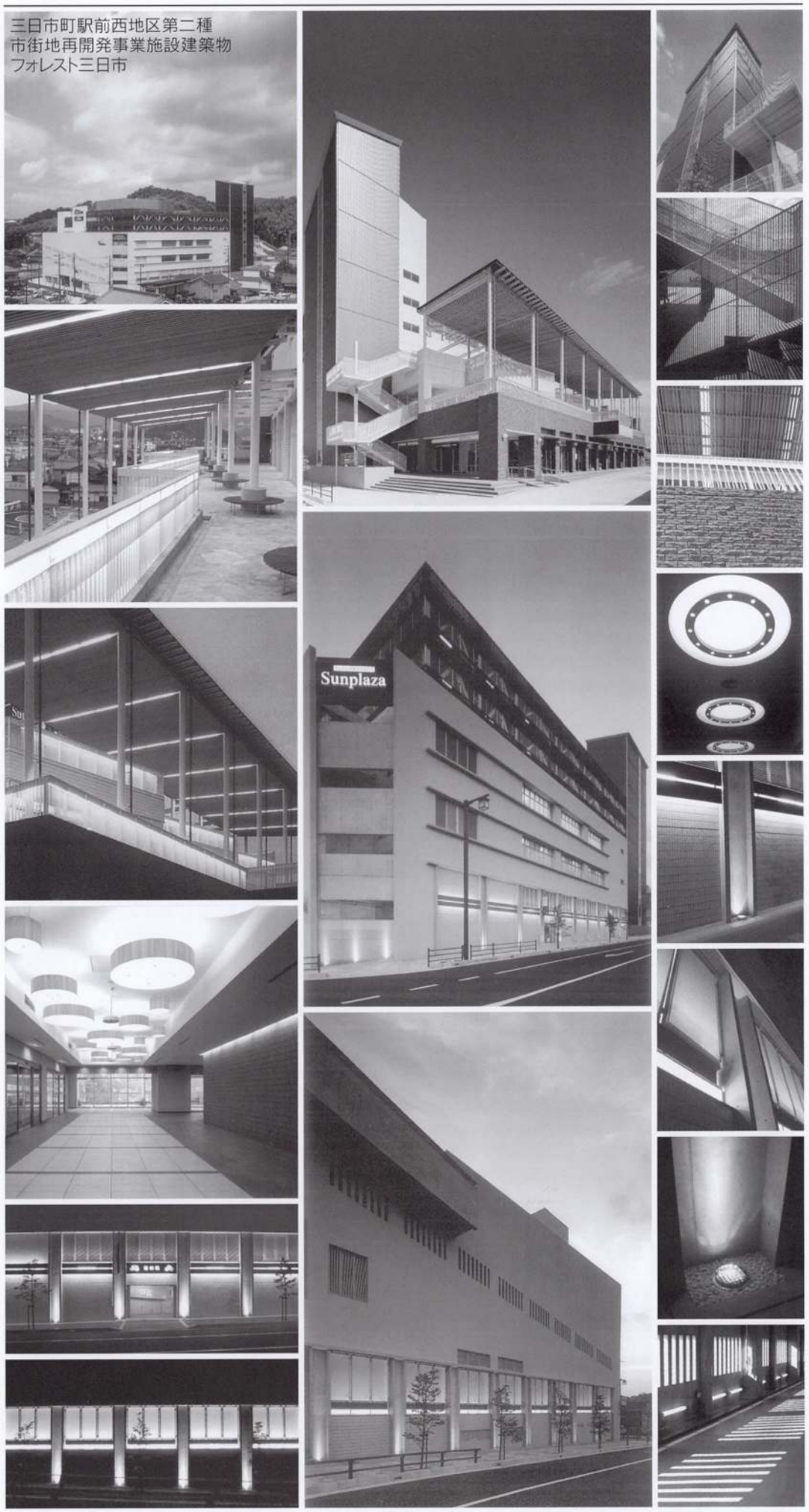
1971年　6月　三重県生まれ
1996年　3月　大阪工業大学大学院工学研究科
　　建築学専攻博士前期課程修了
1996年　4月　㈱昭和設計入社
●主な担当業務
関西国際大学　基本・実施設計
追手門学院小学校　実施設計
宇治市植物園レストラン　基本計画
ファーストタワー大津MARY　基本設計
アミナス北野田（北野田駅前再開発ビル）
　　基本設計
リバーガーデンみなと通り　基本・実施設計
フォレスト三日市（三日市町駅前再開発ビル）
　　基本・実施設計、工事監理
三日市町駅前公共・公益施設
　　基本・実施設計、工事監理
サンプラザ三日市駅前店　内装設計、工事監理

■青年技術者のことば

自分が主だって設計担当した建物がはじめて完成しました。駅前の再開発事業に伴う施設建築物で、事業の進捗により、随時、設計条件の変更や見直しがあったり、純然たる設計以外の業務にも多く携わり、実現まで約７年の歳月がかかりました。今なお、駅前広場は工事中で、まちづくりとしては、まだまだ道半ばです。このようなプロジェクトではかかわる人々も数多く、その立場も様々で、すべての歯車がうまく噛み合わないと前には進みません。その過程には膨大なエネルギーと時間が必要です。「もの」を創る上で、その過程はとても重要です。しかし建築とは、出来上がった瞬間から社会にさらされ、自立していく「もの」である以上、その過程での苦しさとか言い訳とは無関係に社会からの評価を受けるべきものです。

建築設計者としての使命は、その歯車の中の一つでありながら「凛と自立した、善良な建築の創出に力の限りを尽くすこと」だと考えています。こう考えていると、クライアントやユーザーの利益と一致しないことがあるかもしれません。しかし、その建築は「社会的にどう在るべきか」を常に真剣に自問自答し、判断したことを日々の仕事にぶつけていくスタンスでいたいと思っています。

■すいせん者
久保田弘昭
昭和設計常務執行役員



設計・計画部門



鞆野淳司（ともの じゅんじ）

生年月日　1970年3月19日
最終学歴　1992年東京工業大学工学部
　　建築学科卒業
業　　歴　1992年㈱竹中工務店入社
　　現在、竹中工務店大阪本店設計部

●作品経歴
1996年　櫻正宗・トーホー魚崎南店
1998年　セントラルヒルズ4期
1999年　パークハイム加古町
2001年　ロイヤルアーク比治山橋
2002年　京都商工会議所改修
2003年　ジオメゾン新千里東町
2005年　THE HOUSE 住吉本町

■青年技術者のことば

同じ建築はない。
建物形状が全く同じであっても、採光・通風は違う。建築される場所（敷地）をどのように解釈するのか。周辺の景観との調和を目指すのか？　周辺とは関係なく冒険的な建築を目指すのか？　周辺環境とのかかわり方は？　それは、設計者に与えられた大きな課題である。
また、一度建築した建物は、何十年かはその地に生き続け、周囲から見守られつづける。どんな建築にしても、常に設計者は街に対しての大きな重責を負っている。
私は、設計を担当したプロジェクトを通じて、新たな建物が「周辺とどのような関係を保つことができるのか？」それを常に意識して設計をしてきた。
今後も、個々のプロジェクトで特異な条件があると思うが、設計者への課題であり、設計者にしか決定できない「周辺との関係」について、設計者としての技量を磨いていきたい。

■すいせん者

天野直樹
竹中工務店大阪本店設計部長





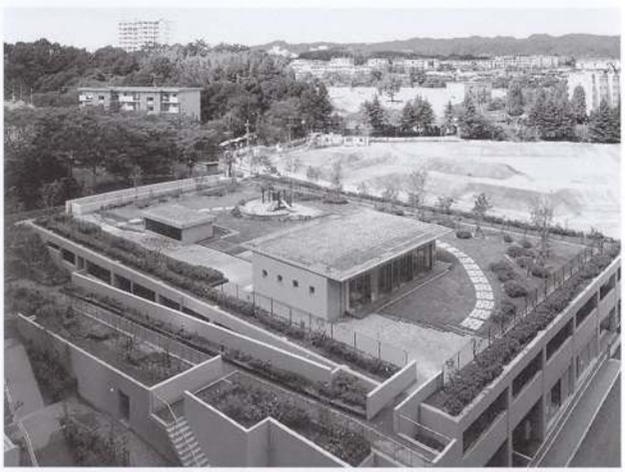




THE HOUSE 住吉本町



ロイヤルアーク比治山橋







ジオメゾン東町

設計・計画部門



高木耕一（たかぎこういち）

1970年　2月15日生まれ
1988年　名古屋市立工芸高等学校卒業
1988年　㈱東畑建築事務所入社
■主要業歴・主要作品経歴
1990年　鈴鹿市郡山小学校
1991年　青少年公園センターゾーン
（現グローバルハウス）
1992年　愛知県住宅供給公社桃花台住宅
1993年　名古屋市大江破砕処理施設工場棟
1994年　浜坂町久斗小学校
1995年　名古屋市大江破砕処理施設管理棟
1996年　海山町上里小学校
1996年　小俣町図書館
1997年　嬉野町生涯学習センター
1998年　特別養護老人ホームカリヨンの郷
1999年　浜松シーサイドゴルフクラブ
2000年　名古屋市交通局保養所「清風荘」
2001年　桑名市桑陽保育所
2003年　長久手町色金保育園
2004年　土岐市泉小学校（建設中）
2005年　中部原材料㈱本社ビル（建設中）
2005年　長久手町青少年児童施設（設計中）

■青年技術者のことば

私がものづくりの活動において常に心掛けてきたのは、一回でも多く足を運び、ひとつでも多くの意見を聞き、耳を傾け、それを検証し、思いを馳せ、コラボレーションによって創りあげることです。

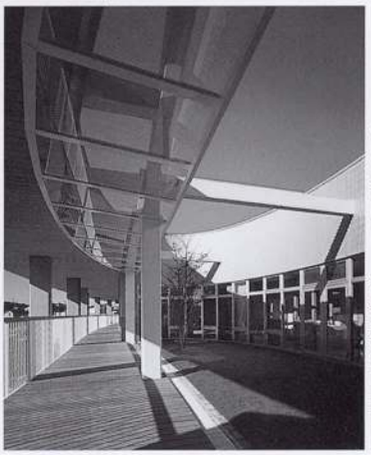
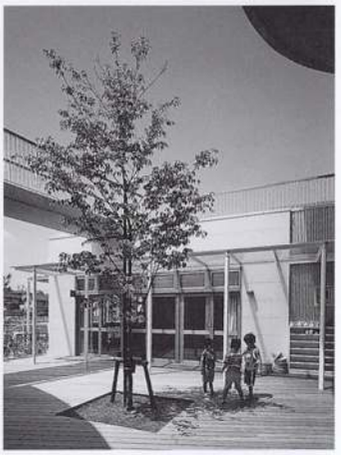
プロジェクトには無限の可能性があります。しかし、竣工時にはひとつの形となります。だからこそ、私自身ファシリテーターとなり、地域や人々にとって何が必要なのか、どうあるべきなのかを対話により紐解き、適切なプログラムを創りあげていきたいと考えています。コラボレーションによる豊かなものづくりは、連鎖的に繋がりを見せ、ものづくりが人づくりに、さらには、人づくりが街づくりに繋がっていくものと考えています。

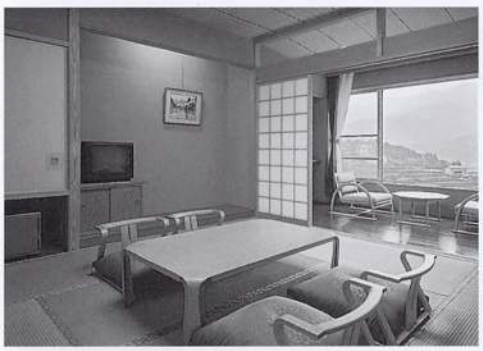
今後の活動においても、心の通じ合う対話を行い、私自身のものづくりのテーマでもある、地域や人々と共に成長することのできる「人間味ある建築」を創出し、建築文化の醸成に貢献したいと思っています。

■すいせん者
瓦田伸幸
東畑建築事務所設計部長



色金保育園



清風荘







青少年児童施設（右）
泉小学校（左）



ひがしもと　みつ　ひさ
東本光尚

生年月日　1970年1月24日
最終学歴　大阪市立大学大学院工学研究科
　　建築学専攻（平成7年3月修了）
職　　歴　平成7年4月　㈱昭和設計入社
　　現在に至る

●作品経歴
・野島断層保存館
・高知文化プラザ「かるぽーと」
・大阪市阿倍野複合施設（阿倍野区民センター・阿倍野図書館・大阪市立葬祭場他）
・高砂市文化会館大ホール客席改修
・高砂市勤労会館建替
・淡路市立北淡中学校
・大阪市住吉区複合施設（住吉区役所・住吉区民センター・住吉図書館他）

■青年技術者のことば

野島断層保存館では初めて、ゼロからスケッチ、模型を作成しながら計画・設計した楽しさと竣工時の喜びを。阿倍野複合施設では膨大な調整ごとに右往左往する自身の姿を。そして北淡中学校では様々な空間・環境と子供たちの姿をイメージしながら計画・設計を行い、施主・施工者と同じ目標を共有し建築をつくれた充実感を思い出します。

建築を“設計”して“つくる”ことで、私自身が大切に考える点は3つあります。設計者としての思いをこめた設計をする。施設、立地、利用者ごとに設計者として考える理想と利用者・管理者の立場での理想など、様々な条件での理想をバランスよくまとめる。そして施主・設計者・施工者で同じ目標を共有し、常に前向きにその目標を目指すことと考えます。

“設計”は、完成した建築を利用する人たちの笑顔をうかがえ、少しではあるが、その人たちの思い出づくりに寄与できる、魅力ある仕事だと常に感じます。反面、その人たちが出合う新たな環境をつくる点で大きな責任も感じます。

現在工事中の住吉区複合施設では、設計時に少しは身についたであろうバランス感覚で、常に前向きに協力し合い、最後には利用者が笑顔になる施設ができるように頑張ろうと考えます。

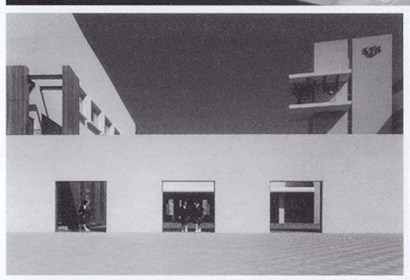
■すいせん者
松田善弘
昭和設計執行役員





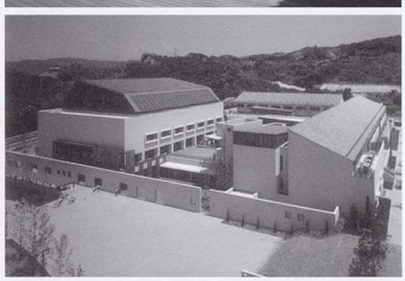












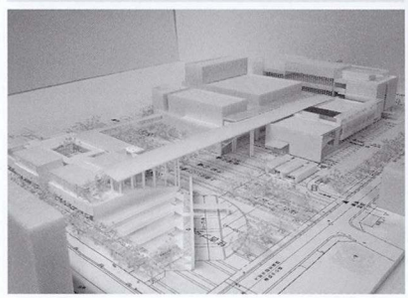
淡路市立北淡中学校
—原風景として心に残る
　成長の場—
子供たちの思い出づくりに寄与でき、「自分たちの通っている学校は○○○な学校です」「○○○な学校だった」と言える学校づくりを目指した、現時点の自身の代表作





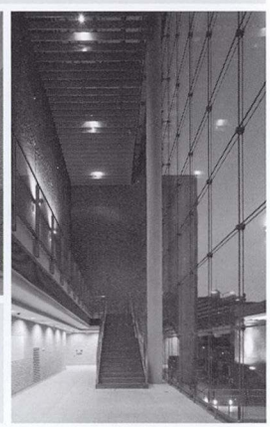
北淡町震災記念公園　野島断層保存館
—“断層”からイメージした“かたち”—
ゼロから全体像をつくりあげた第一作。“断層”からイメージした「亀裂」「軸線」「ズレ」といったモチーフを最後まで踏襲しデザインした

住吉区複合施設—公共施設とは…—
平成19年8月末竣工を目指し、現在工事中。利用者に喜んでもらえることを一つでも多く生み出せればと考えている





阿倍野複合施設—調整ごとの連続—
音響コンサルの指導のもと設計をし、現場でも度重なる勉強会を行い、大小2つのホールが完成した



設計・計画部門



牧（まき）　圭亮（けいすけ）

生年月日　1970年8月15日
最終学歴　1997年関西大学工学部建築学科卒業
業　　歴　1997年～佐藤総合計画
　　現在、関西事務所所員
作品経歴　智辯学園和歌山小学校（2002年）
　　篠山市立篠山中学校（2004年）
　　智辯学園奈良カレッジ小・中・高等学校（2004年）
　　大東市立西部図書館（2005年）

■青年技術者のことば

人が持っている記憶の中には、それが鮮明であれ、おぼろげであれ、“建築”が登場してくることと思います。それは、建築が常に人々の生活の“舞台”となっているからです。

つまり、建築を設計するということは、少なからず人の記憶・思い出づくりに関与することになります。

人が暮らし、活動する“舞台（＝建築）”に、人それぞれが思い描くストーリーを受け入れる多様性を持たせ、そして、活動のシーンとともに、人々の記憶に鮮明に残すことが私にとっての設計活動と考えています。

今、その自らが活動する舞台について、生活者自身が真剣に、身近に意識し直し始めているのではないでしょうか。それはライフスタイルの多様性から生まれる要求と、暮らしの舞台の安全性は自ら確認したいという要求から発せられていると強く感じています。

設計技術者として社会の中で果たすべき役割と、兼ね備えるべき技能を見つめ直したとき、その責任の重大さに少し怖じ気づいたりもしますが、舞台にあふれる“笑顔”と、舞台づくりを支えた人々の“汗”と、“志”を持った仲間、また同じ“喜び・苦しみ”を経験してきた先輩諸兄が、そんな私の背中を後押ししてくれているのです。

これからも「人が主役」となる建築づくりを念頭に、設計活動を続けていきたいと考えております。

■すいせん者

山上義美
佐藤総合計画関西事務所
取締役事務所長

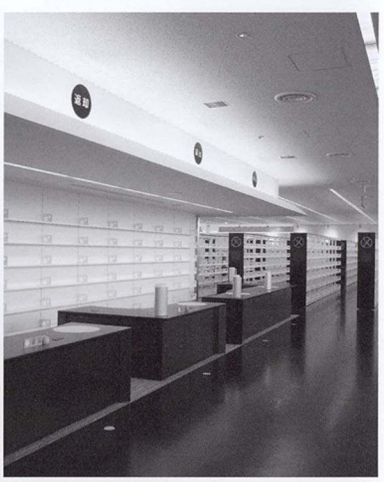






“記憶のまなびや”～篠山市立篠山中学校









“緑に浮かぶ情報の舟”～大東市立西部図書館



永田敦士（ながた あつし）

生年月日　1970年2月19日
最終学歴　熊本大学工学部建築学科
業　　歴　1993年㈱東畑建築事務所入社
●作品経歴
1996年　穂波町立　椋本小学校
1997年　小倉競馬場　正入場門
　　（ガラスのゲート部を担当）
1998年　九州農業試験場研修宿泊棟
1999年　新日鐵大谷体育館
2000年　済生会熊本病院　健診センター
2002年　済生会みすみ病院　看護師宿泊棟
2004年　福岡県住宅供給公社クラシオン大手町

■青年技術者のことば

建築計画の過程には、過去の事例を分析する作業を伴うことがある。それは私にとって既成概念を再考する機会となる。事例を分析する際に感じるセオリー化した計画手法への疑問が原動力となり、新しいものがうまれるためである。

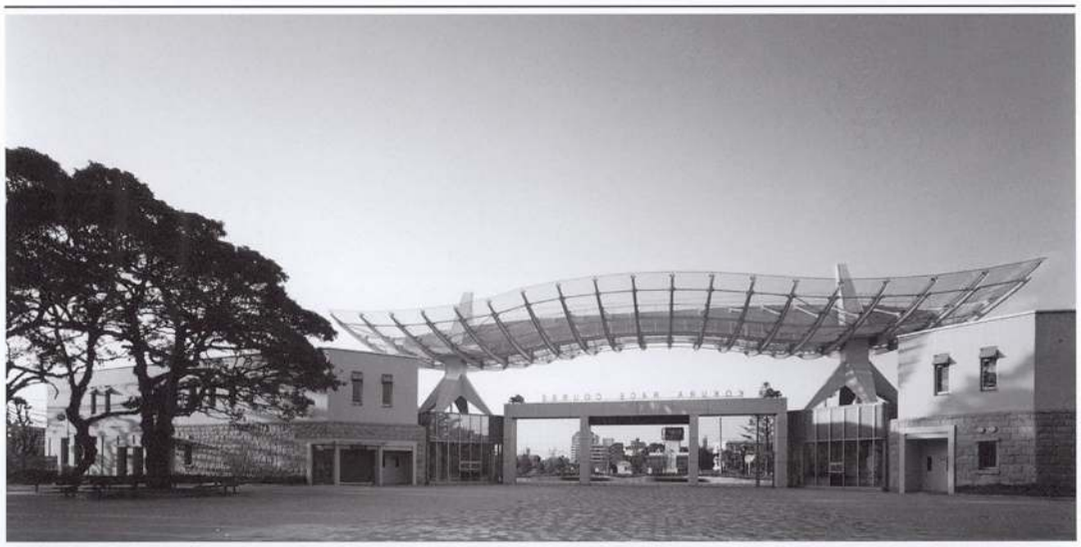
しかし、既成のモノに捉われない広い視野がなければそれらを発見することは難しく、技術やバランス感覚がなければ解決できない。

一方、名作に学ぶときには建築をよむ力、造形に潜む建築家の意図を探る力が欠かせない。養わなければならないものは限りなく在る。

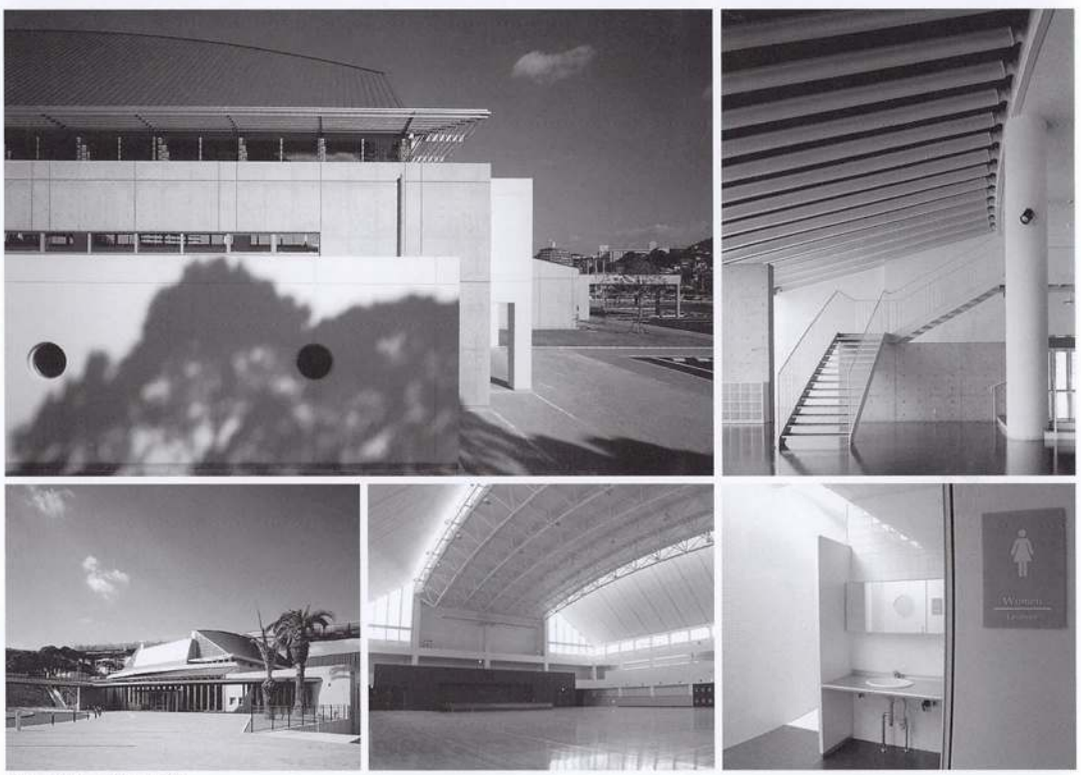
つまり、建築家には技術と同時に精神面の成熟が欠かせないということである。書道家や画家、各々の道を究める者と同様に、それらを両立させた建築家からのみ成熟した建築がうまれると考えている。それを「建築道（けんちくどう）」とでもいうならば、その道に身を置く者であることを絶えず自覚し、精進してゆきたい。

■すいせん者

三迫靖史
東畑建築事務所九州事務所副所長



小倉競馬場正入場門



新日鐵大谷体育館



済生会熊本病院　健診センター

設計・計画部門



内藤洋志（ないとうひろし）

生年月日　1970年3月17日
最終学歴　京都大学大学院工学研究科
　　建築学修了
業務経歴　1995年清水建設㈱入社
　　設計本部設計部
　　2000年関西事業本部設計部

●作品経歴
1996年　富安東京支店
1997年　朝日生命川口・西川口営業所
1998年　トヨタネッツ千葉
1999年　慶応義塾大学日吉研究室棟
2000年　紀三井寺仏殿
2001年　聖母女学院短期大学国際文化学科
　　国際福祉専攻課程校舎
　　京都ノートルダム女子大学
　　創立40周年記念館
2003年　神戸国際調理製菓専門学校
2004年　山本病院福祉ホーム
　　N緑地マンション
2005年　アルカンシエルベリテ大阪

■青年技術者のことば

設計という行為は、試行錯誤と決断の連続であり、一筋縄ではいかないところが興味の尽きない点であるが、では一体、何を拠り所に設計を進めていけばよいのかと、いつも考えてきた。

実際の設計行為では社会的経済的制約がますます複雑になる一方、設計自体もチーム設計やコラボレーション等様々な手法を用い、多くの変数を解き明かそうと努めている。

だが現実という連立方程式を解けば感動を与える建築が出来上がるかというとそうではない。逆に、複雑になるほど、現実を踏まえながらも距離を置き、あるべき建築を想い描く個人の力、構想力がその行方を大きく左右し、これこそが設計の醍醐味であると実感している。

では、現実から理想へ飛躍するのはどんなときかを考えると、その地に佇み、光や風を感じながら建築の姿を想い描く瞬間、に立ち返る。

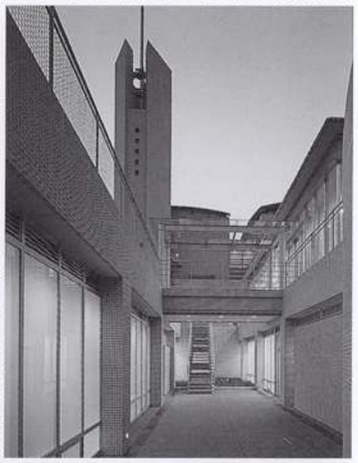
何度も何度も環境との応答を繰り返し、心に漂う朧げなものを手掛かりに反芻する。そうした呻吟を経て、環境に寄り添う、対峙する、あるいは環境を生み出す、建築の姿をとらえられればモッケの幸いである。

そんな瞬間が訪れる日を夢見て、今後も設計に取り組んでいきたい。

■すいせん者
野村秀治
清水建設関西事業本部設計部長

■環境の共生―中庭を活かした地上と地下の融合―　京都ノートルダム女子大学創立40周年記念館







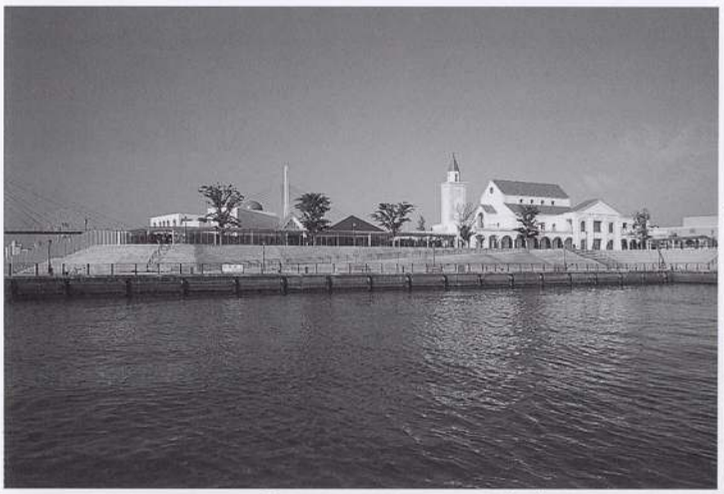
■環境の再生―旧くて新しい街角の創出―　神戸国際調理製菓専門学校







■環境の創造―ウォーターフロントの新たなる展開―　アルカンシエルベリテ大阪















かきもと ただのり
柿本忠則

生年月日　1971年5月7日
最終学歴　大阪芸術大学芸術学部
　　建築学科卒業
業務経歴　1994年㈱竹中工務店入社
　　現在、広島支店設計部主任

●作品経歴
2000年　広島学院クラブハウス
2001年　金光学園中学校校舎増築
2003年　田辺製薬小野田工場厚生棟
2004年　セロリー レソルテ
2005年　ヒロテック独身寮（施工中）

●受賞歴
2004年　・建築士事務所協会作品表彰奨励賞
2005年　・日経ニューオフィス賞
　　ニューオフィス推進賞
　　中国経済産業局長賞
　・日本建築学会作品選集2006入選

■青年技術者のことば

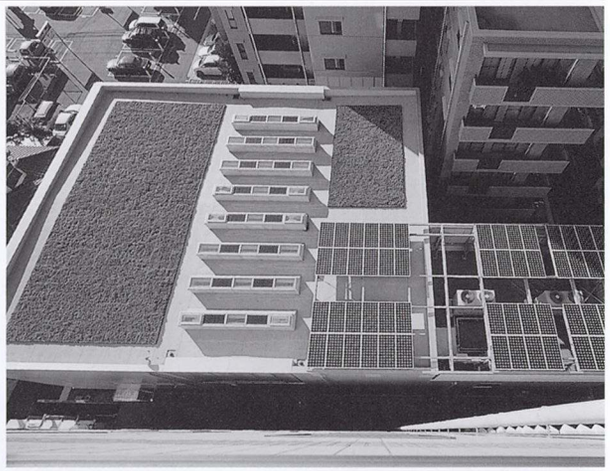
私は設計という行為の中で、「つながり」ということを意識し大切に考えてきました。

それは「社会（環境）―建築―人」をいかに対話的な関係で結ぶかを考えるということです。目に見える条件だけでなく、背景まで読み解き、または読み替え、「つながり」合う新しい関係性を構築すること。そのことが魅力ある空間を創り出すものだと考えています。また「つながり」は持続的である必要があります。多元的な「つながり」の連鎖を内包した『時代や社会の変化に対応し、しなやかにつながり続ける～持続可能な建築』の創造に強い可能性を感じています。

具現化する手掛かりとして、背景の特長を最大限活かす「周辺環境との共生」、変化を柔軟に許容する「シンプル・フレキシブルな建築」、機能性や魅力度の向上を図る「異分野とのコラボレーション」を特に意識してきました。

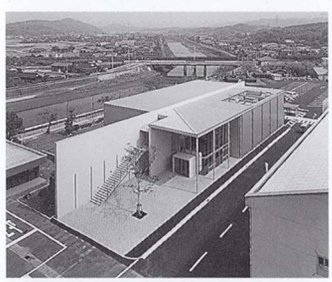
多様化する社会の中、今後もこの想いをもとに、知と情（知識と感性）をバランスよく磨くことを意識し、社会や人と「つながり」をもつ建築を生み出す責務を自覚して、その先にある新しい可能性を探し求めていきたいと考えています。

■すいせん者
天野直樹
竹中工務店大阪本店設計部長

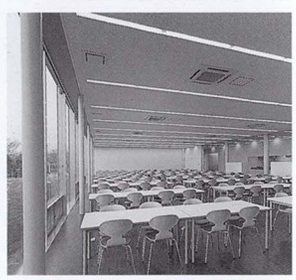





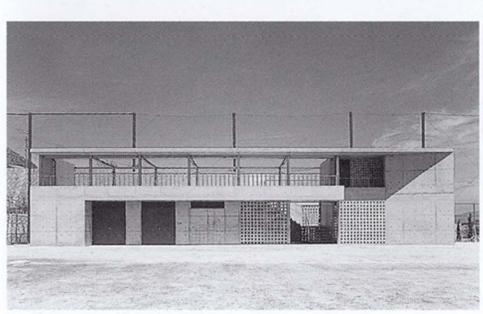
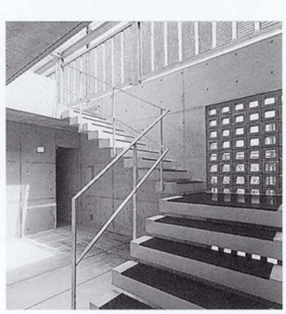

セロリー レソルテ







田辺製薬小野田工場厚生棟


広島学院クラブハウス

設計・計画部門



よし　おか　えい　いち
吉岡英一

生年月日　1971年1月7日
最終学歴　1995年芝浦工業大学大学院
　　建設工学専攻修了
勤務経歴　1995年㈱竹中工務店入社
　　現在、主任設計担当
作品経歴　愛知淑徳大学3号棟（増築）
　　愛知淑徳大学淑楓館
　　老人保健施設ゆうゆうの里デイケアセンター
　　小松工業株式会社本社事務所
　　医療法人豊田会刈谷総合病院診療棟
　　医療法人豊田会刈谷総合病院東分院透析センター

■青年技術者のことば

誰もの感覚に働きかける建築設計に従ずることは、設計者の個人的な経験によるところが大きく、大切なことだと考えています。

ここにあげる2つの医療施設の設計を通して得られたものは、エンドユーザーを意識しつつ、建築主との対話の中から日常的に問題となっている不便さを顕在化し、一緒になって解決していくプロセスを経ることで、建築は社会との繋がりを深めていくことができるという点です。医療施設の設計は一般的な建物よりも多くの要素を持っており、技術的にも難しい面があるため、医師や看護師及び専門家の意見を十分に聴いて理解し支援を求めることが必要不可欠ですし、普通の人より身体の弱い人が多数訪れる施設ですから、その人々の状況を十分理解して設計を進めていかなければなりません。そういった人々との繋がりの中で建物が竣工し運用されるに至ったときには、今までのどの建物よりも、遥かに設計者として創り上げたという手ごたえを強く感じます。それは私個人の感覚によるところでもなく、誰もの意見をとりあげて多数決で決まったものでもないのです。

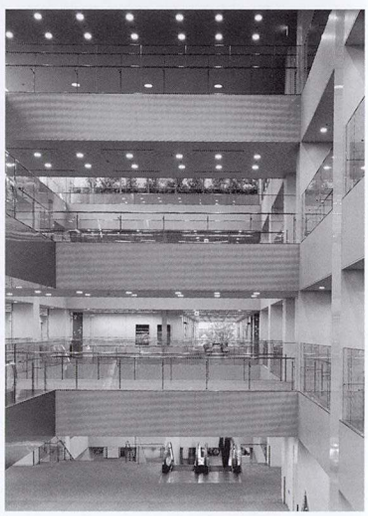
将来的にも、多くの人と社会との繋がりが深い建築の設計において、社会に貢献していきたいと考えております。

■すいせん者

北原晴男
竹中工務店設計部部門長



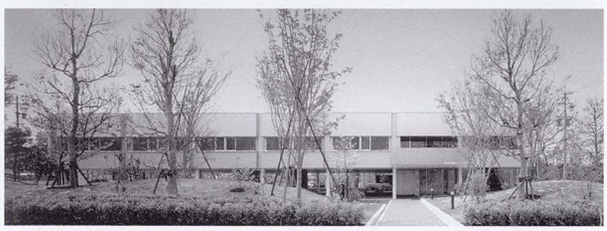




医療法人豊田会　刈谷総合病院診療棟







医療法人豊田会　刈谷総合病院東分院透析センター



恵本涼太郎（えもとりょうたろう）

1971年　6月21日大阪府生まれ
1997年　京都工芸繊維大学工芸学部
　　造形工学専攻博士前期課程修了
1997年　㈱日建設計入社
現在　　㈱日建設計設計室
●業績
1998年　テクノアークしまね
1999年　三友常盤橋ビル
　　（山口銀行東京支店）
2000年　出雲村田製作所独身寮
2000年　次世代技術研究開発センター
2001年　名古屋学芸大学メディア造形学部棟
2002年　中西学園コミュニケーションプラザ
2003年　神戸栄光教会
2005年　新見市健康増進施設
2005年　神戸学院大学PIキャンパス

■青年技術者のことば

建物の設計という仕事は人々に（少なくともクライアントには）喜ばれるとてもシアワセな職業だと思います。経験はまだまだ浅いですが、今までの自分のレベルを一つでも多く超える提案を行えるよう、取り組んでいきたいと思います。

■すいせん者

中井　進
日建設計常務設計部門代表





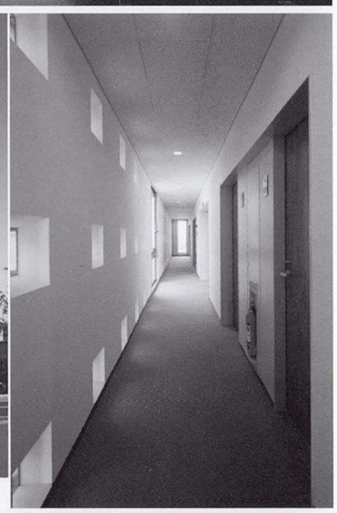
名古屋学芸大学　メディア造形学部棟





神戸栄光教会





出雲村田製作所　独身寮





中西学園　日進キャンパス　コミュニケーションプラザ



桑島由美子（くわじま ゆみこ）

1976年　8月24日生れ
2001年　京都工芸繊維大学工芸科学研究科造形工学専攻博士前期課程修了
2001年　㈲桃李舎入社
●作品経歴
2001年　四条畷ビル計画（低層棟）
　　老司野田クリニック（プール棟）
2002年　此花の長床
　　宇治デイサービスセンター
2003年　づぼらや道頓堀店
　　連続屋根の家
2004年　タカハシクリニック
　　西有田町タウンセンター総合施設

■青年技術者のことば

今回の物件では、建物全体についての設計の考え方から解析の方法、さまざまな応力状態の想定とそれに対する検討など、アドバイスを受けながら一通り考えることができた。そのため、施工時の変更や現場監理でもすみやかに対応できる部分が多かった。

また、意匠設計者が構造の考え方を理解し、それを生かしてデザインに反映させてもらえたため、とても勉強になり楽しく仕事ができた。今後自分自身でも、意匠設計者がさらに良いアイデアを引き出せるような構造の提案ができるように努力したい。

これまでは、この作品を含め、ある程度の設計期間があるものが多かったため、全体を把握した上で、細かい部分の考え方や納まりまで検討する十分な時間が与えられていた。今後どのような条件下であっても、これらの積み重ねを生かし、その上で新しい技術にも挑戦していければと考えている。

■すいせん者
桝田洋子
桃李舎代表

新大江の住宅―意匠設計者との打ち合わせを重ねて―

住宅地に建つ、３姉妹とその家族のための３世帯コレクティブハウスである。建物全体は厚さ30cmの壁と屋根で包み込み、その中にまず筒状の３世帯の個室をそれぞれ確保した。個室によって切り取られた残りの部分が共用室となり、そこに天井高や外部とのつながりが異なるいくつかの場所を設定している。

●構造計画

テラスを除く平面形状は12m×12mの正方形、高さ９mの空間に、３m×12m×３mの箱（個室）を３本並列に配置し、その隙間が共用スペースという空間構成が、そのまま構造躯体の構成になっている。12m×12m×９mの空間は、厚さ30cmのRCのボックスカルバート構造で、その内側に３m×12m×３mの３つのRCカルバートが内接している。開放された南北の壁面はガラスである。

個室の２つは１階の両端に平行に置かれ（Y1-Y2間とY3-Y4間）、はさまれた空間は水廻りと収納スペースのために細かく区切られている。その間仕切りは用途の性質上RCとする必要があるため、耐震壁として利用した。残る３つ目の個室は、屋根に内接するかたちで空中に浮いている。

構造的には、この箱の長期荷重の処理と、Y方向の地震時の耐震設計がポイントであった。空中の箱は、南北ガラス面の方立てを兼ねたスチールの間柱で支持し、屋根の負担を軽減した。２～３階が吹き抜けとなるため、Y方向は約６mの門型ラーメンとなるが、東側（Y3-Y4間）の２階に水廻りの小部屋があるため、その間仕切りを耐震壁として扱い、外殻のカルバートに作用する応力を軽減した。

基礎は一方向のマットスラブとし、直接基礎にするため重量の軽減を図り、ボイドスラブを採用している。

●構造設計者として果たした役割

３階の個室３が宙に浮いた配置になっているため、この個室のつくり方が課題であった。屋根スラブから吊り下げるために、①個室３を鉄骨で組む、あるいは木製のユニット（j.Pod；現在共同開発中）を採用して床組みを軽量化する、②個室３をコンクリートでつくり、PC鋼棒により屋根スラブにテンションをかける、などの提案を行ったが、意匠のコンセプトや、工事金額、施工性などの点から、個室３はコンクリートとし、できるだけ一般的な工法でつくることになった。

そこで、個室３のコンクリートの筒を大きなU字型の梁とみなして積極的に利用することとし、この梁からの軸力はガラスサッシ取り付けのための方立てを間柱として支持することにした。外部に対して開放的な空間を損なわないために、この間柱は存在感の小さいものにしなければならない。できるだけサイズを落とすため鉄骨部材で検討し、大きな曲げがかからないよう両端をピン支持とした。個室３の床レベルでの地震力を直接本体に伝えるため、個室３から共用室へと渡るブリッジを利用して水平力を伝達させ、床の揺れを抑えた。また、間柱弱軸の座屈止め材が必要な位置には、意匠設計者にガラスサッシの割付にあわせて横材をうまく配置してもらうことができた。このような対処をし、間柱は最終的に無垢の角材150㎜×75㎜に決定した。

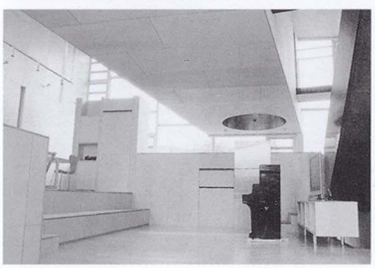
このようなアクロバットな構造計画の場合は、いろいろな条件を想定して検討し、脆性的な崩壊は避けなければならない。そのため、この個室３を間柱に期待せず屋根スラブから吊り下げた状態でも、たわみはするが崩壊して落ちるという終局状態は避けられるように設計している。意匠設計者と打ち合わせを重ね、最終的に意匠計画を損なわず、構造的にもシンプルな計画になった。

特別な技術を使わず一般的な方法でも、工夫して使うことで、より良い建築になったのではないかと思っている。

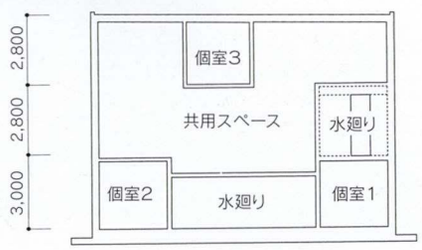


南側全景

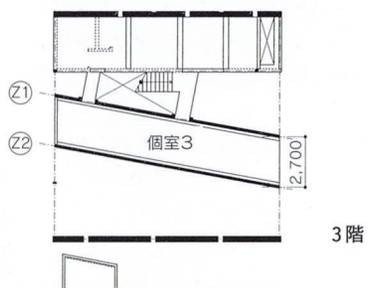
設計／NKSアーキテクツ
構造／㈲桃李舎



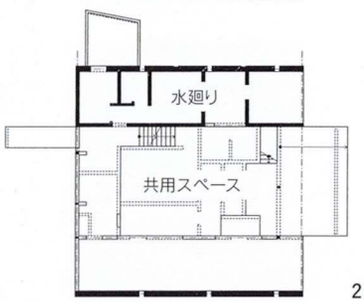
２階共用室



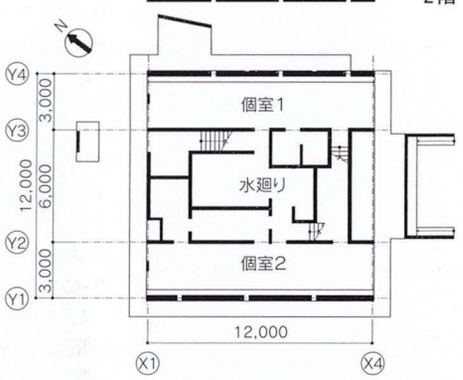
断面図



3階



2階



基礎，1階床伏図



澤井祥晃（さわい よしあき）

生年月日　1971年5月22日
学　　歴　1994年大阪大学工学部建築工学科卒業
　　1996年大阪大学大学院工学研究科建築工学専攻修了
業務経歴　1996年㈱竹中工務店入社
　　1997年大阪本店設計部構造部門
　　現在に至る
●作品経歴
1999年　P&G JAVA Project
2001年　大拓メゾン吉野（免震構造）
2002年　ダイヤモンドシティ五条ショッピングセンター
2003年　トタニ技研工業本社社屋
2004年　YKK蘇州工場　2期
2005年　（仮称）住之江物流センター
●発表論文
2002年　「等価モーメントによる床版の耐火性能評価法」
2004年　「方杖ダンパーを用いた柱梁高力ボルト接合構造の実大骨組実験（その2）接合部の設計」

■青年技術者のことば

現代社会の中で建築行為を行うことは、資源を消費し、ある意味地球環境を破壊する行為である。環境問題に対して、構造設計者も部外者であることは許されない。環境に優しい建設資材を使用することや、建設資材を低減することもひとつの解決策である。しかし構造設計者としてできる最大の地球環境保護は、地震動による被害を限定的なものとし、地震後も建物を使える状態（サステナブル）に残すことであると考える。地震動にどう対応するかということは避けることのできない課題である。その課題に構造設計者は、耐震や制振、免震構造などの技術の中から最適な解法を駆使して立ち向かう。私は、常々「建物を地震動に対してどのように‘壊す’か」ということを念頭において設計に取り組んでいる。エネルギー吸収機構を想定し、限定的な地震被害にとどめることが、構造設計者としての醍醐味であり、究極の目標であると信じている。
この究極の目標に対し精進を続け、「建物の挙動を把握した構造設計」を実現することのできる技術者を目指し、チャレンジしていきたい。

■すいせん者

天野直樹
竹中工務店大阪本店設計部長

サステナブルローコスト大型物流倉庫の構造システムの開発

●鉄骨造+RC耐震壁+免震構造

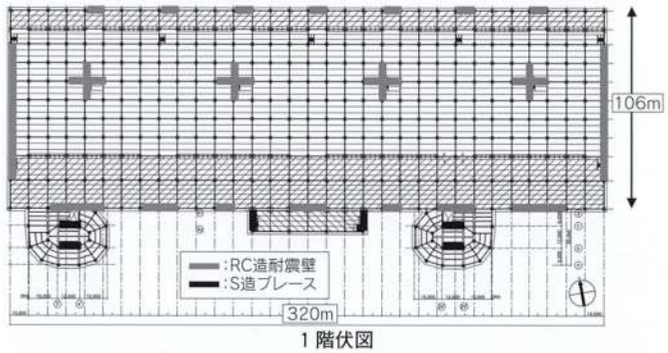
住之江物流センターは、大阪市住之江区の湾岸地域に位置する大型物流倉庫である。1995年の兵庫県南部地震を契機とし、来るべき南海地震に対する防災の気運が高まる中、地震時における物流倉庫機能の維持と、倉庫内の荷物に対する耐震性能に対し、より一層の地震対策が求められた。その一つの指標として、地震時における建物被害による不動産の資産価値の予想最大損失率（*PML*）を15%以下に抑えることを、本計画の大きな設計課題の一つとして挙げていた。
その一方、倉庫内空間において自由度の高いレイアウトが必要であり、耐震要素を限定的に配置する必要があった。さらに、早期に物流拠点を建築主が必要としているため、工期の短縮を図る構造計画が必要であった。
その構造計画的解決として、基礎免震構造を採用することにより、耐震性に優れ、倉庫機能を持続可能とする物流倉庫とした。また、上部構造を梁S造、柱SRC造、RC耐震壁構造とすることにより、工期短縮が可能で、倉庫機能を阻害しない構造計画を提案し、設計を行った。



完成パース

●免震構造による持続可能（サステナブル）建築物の設計

建物を免震構造化することにより、建物への入力地震動の低減を実現するだけでなく、持続可能（サステナブル）な建築とすることが可能となる。
住之江物流センターにおいては、免震材料については高減衰ゴム系積層ゴム支承（349基）、天然ゴム系積層ゴム支承（52基）の計401基の免震支承を採用している。これにより建物周期と変形を制御し、地震時における建物被害を柱・梁の主架構に発生させず、耐震壁に集中させることにより地震後の建物補修を限定的なものとするように設計している。さらに免震構造化により、このRC耐震壁もレベル2地震時において若干のひび割れは発生するものの、ほぼ健全な形であることが地震応答解析結果によって確認されている。これにより、大地震においても上部構造にほとんど損傷はなく、地震後にも物流機能を維持し、持続可能な建築とすることが可能となった。
また本建物において、地震応答解析による詳細な*PML*（建物被害による不動産の資産価値の予想最大損失率）解析を行った結果、1.6%と非常に小さい地震被害となることが予想され、15%以下を目標とした設計命題に対して問題解決を図ることができた。



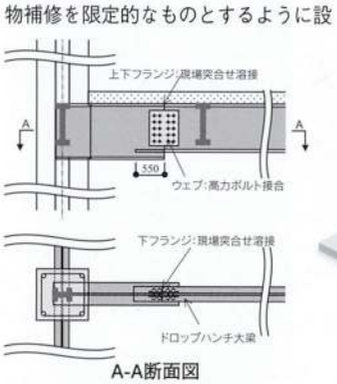
1階伏図

●合理的な上部構造の設計

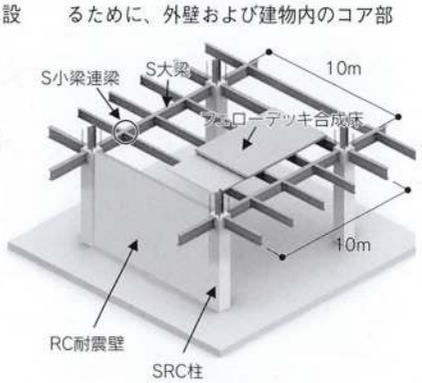
大型物流倉庫の設計において、上部構造には大スパンと重荷重という相反する設計条件を要求される。そのため、RC梁によって設計を行う場合には梁せいが大きくなり、梁下有効を確保するために階高が大きくなってしまう。梁せいを小さくする場合にはPC梁とする必要があるが、工期が長くなり、コストが非常に高くなる。またRC梁・PC梁のどちらの場合においても建物重量が大きくなり、耐震性にとっては不利となってしまう。一方、柱にとっては重荷重を支える必要があるため、S造とした場合大型鉄骨を使用する必要があり、高コストになってしまう。
そこで筆者は、柱SRC造、梁S造とすることにより、大スパンと重荷重の両立を図った。また倉庫内のレイアウト変更に対応でき、空間の自由度を高めるために、外壁および建物内のコア部分に配置した十字型の耐震壁のみとし、大きな平面的偏心を生じさせることのない安定した架構計画としている。この耐震壁により剛性が高くなり、免震構造としての効果を十分に発揮することが可能となった。また上部構造の水平力の80%以上を負担し、レベル2地震時において柱・梁部材を弾性にとどめることが可能となり、建物の長期利用が可能な設計となっている。
筆者は、いくつかの鉄骨造の建物において、鉄骨の省力化およびローコスト化を実施してきた。住之江物流センターでは、10m×10mのスパンにおいて、小梁を受ける大梁をドロップハンチ梁とすることにより、部材断面の低減および鉄骨加工の省力化を図った。さらに小梁を現場溶接により連梁化することにより、小梁断面の低減を実現することができた。鉄骨数量を極限まで低減することにより建築行為における環境負荷を低減し、延べ面積あたり52kg/㎡の鉄骨量による重荷重に対応した物流倉庫を実現することができた。

●構造設計を終えて

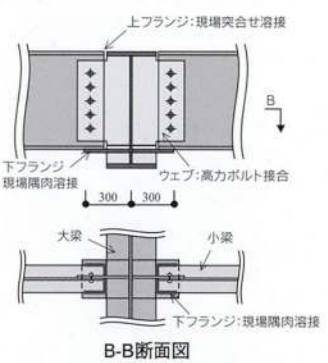
（仮称）住之江物流センターの構造設計を通じて、合理的かつ経済的な鉄骨構造システムを開発するとともに、免震化により上部構造を弾性域にとどめることで、地震時に物流機能を維持する安心・安全な物流倉庫のプロトタイプ設計法を示し、実践した。それにより、建設コストを低減するだけでなく、地震に対する付加価値を与え、持続可能な環境にやさしい建築を実現することができた。



A-A断面図
ドロップハンチ大梁詳細図



構造計画概念図



B-B断面図
連梁小梁接合部詳細図

構造部門



かたおか ひろゆき
片岡弘行

生年月日　昭和45年5月18日
最終学歴　九州大学工学部建築学科修士課程
（平成8年3月修了）
●業歴
平成8年　㈱鴻池組入社
大阪本店建築部
平成9年　大阪本店建築設計部
平成13年　本社建築本部
エンジニアリング部
平成17年　大阪本店建築設計部
現在に至る
●主な作品経歴
池田五月丘パークハウス
近畿大学雨天練習場
IPSX EASTビル
サニックス宗像
濱田酒造濱田屋伝兵衛蔵
天龍寺大方丈、慈慶庵ほか寺社仏閣の耐震補強
Y邸、T邸ほか木造住宅の耐震補強

■青年技術者のことば

私が勤務する鴻池組が木造軸組建物の補強デバイス「仕口ダンパー」を開発したのを機に、4年前から木造建物に接する機会が多くなりました。将来の我が家の建設に向け木造の勉強をしていたので、今はそれが役に立っています。

既存の木造建物の耐震性能を検証するとき、建設当時の資料がほとんどありません。しかし、押入の点検口から天井裏に、また畳を外して床下に潜入し比較的容易に細部を調査できます。精度の高い診断結果を出し最適な補強を提案する上でも、自分の知識を養う上でも、現地調査は重要な項目と考えています。

ここ数年、木造建物にかかわりましたが、まだまだ経験面・技術面の不足は否めません。社内に木造の経験が豊富な人が多いとは言えませんが、現場で大工や材木メーカーと接する機会は多くあります。彼らから得る知識は、木造建物を補強する上で大いに役立っています。

今後経験を重ね、技術を磨き、さらに合理的かつ経済的な補強提案ができればと考えています。それが社会貢献に繋がれば幸いです。

■すいせん者

太田　寛
鴻池組大阪本店建築設計部部長

限界耐力計算による木造軸組建物の耐震補強

東海・東南海地震、宮城県沖地震など巨大地震の発生が予測される状況で、所定の耐震性能に満たない木造建物が全国に1000万棟以上あると言われている。木造建物の耐震化が進まない理由の一つが、費用の問題である。合理的で経済的な補強を提案するために、安価なダンパーなど新しい補強デバイスはその一助となる。また、新しい補強デバイスを組み込んだ建物を評価できる検証手法が重要となる。木造建物を構成するほぞ、小壁、土壁、筋かい、及び補強デバイスの復元力特性がわかれば、限界耐力計算を応用し、耐震性能を評価することができる。

限界耐力計算を木造に適用した場合の特徴は、次の通りである。

・現代構法から伝統構法の建物まで適用できる。
・新しい補強デバイスを補強計画に取り入れやすい。
・地震時の変形を定量的に示すことができ、施主の理解を得やすい。

以下に、筆者が限界耐力計算を木造に適用し、プロジェクトマネージャーとして補強を提案した事例について紹介する。

●補強事例1―住宅―

■現代住宅Y邸



現代木造住宅Y邸

築約30年の2階建て木造住宅。限界耐力計算により安全限界レベルの地震でも倒壊しない結果を得た。仕口ダンパーで補強し、さらに耐震性能を向上した。

■伝統木造住宅T邸

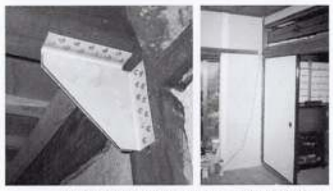
昭和12年に建てられた2階建て伝統木造住宅。壁は土壁で、継手・接合部はすべて伝統構法が用いられている。1階の耐震性能が不足しており、仕口ダンパーと荒壁パネルで耐震補強を行った。

1）仕口ダンパー

柱梁接合部に専用木ねじで取り付ける小型ダンパー。地震時に2枚のステンレス鋼板で挟まれた粘弾性体が変形する仕組みになっている。鴻池組開発。



伝統木造住宅T邸



T邸の仕口ダンパーと荒壁パネル

2）荒壁パネル

土などの自然素材のみを原料とする既製パネル。土壁と同様の履歴特性を示し、変形性能に富む。シックハウスの要素を含まない。丸浩工業ほか開発。

●補強事例2―寺院―



全景

築100年、延床面積約140㎡の寺院本堂。木部材に蟻害・経年劣化などの損傷は見受けられず、全体的に健全な様子がうかがえた。しかし耐震要素が不足しており、補強を計画した。



床下での補強例



補強計画図

●補強事例3―濱田屋伝兵衛蔵（焼酎蔵）―



補強前全景



建て入れ直し



水平筋かい補強

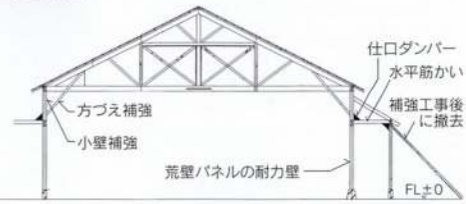


方づえと小壁補強



耐力壁の増設

濱田屋伝兵衛蔵は張間15m、桁行33mの切妻屋根で、同様の架構3棟が連なっている。大空間を有する本建物は屋根が重く、柱・壁ともに少ないため、耐震性能に問題があった。過去には、台風による被害を受け建物は傾斜し、瓦屋根は部分的に波打っていた。柱頭部が最大約100㎜変形していたため、建物の傾斜を修復後に耐震補強を行う計画とした。補強内容は仕口ダンパー、荒壁パネルのほか、水平筋かい、方づえ、小壁の設置とした。



補強計画図



なかむら よしひで
中村吉秀

生年月日　1973年7月3日
最終学歴　1999年京都大学大学院工学研究科修了
業務経歴　1999年㈱大林組入社
1999年大宮大門町工事事務所
2000年本店建築設計部

●主な作品経歴
CGM新築工事
ライオンズタワー葵
ホテルモントレ仙台
千種台センター地区
国際医薬品臨床開発研究所ビル

■青年技術者のことば

構造設計者として、解析により理論的裏付けを行った上で建物を設計することは、当然のことです。しかし、それは法律で規定された最小限の項目について最低限の性能を確保していることを確認するためだけのものであってはならない、と私は考えます。

近年、常時使用時の居住性能など、性能を明確にするべき領域はますます増えてきています。性能とは本来、法律ではなく建物の所有者が決定するべきものであり、われわれ構造設計者は建物の性能を数字で把握することに努め、所有者に対し構造性能について説明し、納得してもらえるように努めなければならないと考えています。また、現代社会においては、技術的な裏付けなしに技術者の感覚だけで全く新しい概念の構造物の実現が許されることはなく、裏付けがあってはじめて、従来の常識では実現困難だった空間の創造が可能になるのであり、今後は性能を数字で具体的に把握することを基本とし、新しい空間の創造や新しい構造技術の開発に取り組んでいきたいと思います。

■すいせん者

藤田佳広
大林組本店建築設計部部長

ホテルモントレ仙台～制震構造による高い耐震性能の付与～

ホテルモントレ仙台は、仙台駅前に計画された18階建てのホテルで、2003年3月に竣工した。仙台周辺は、宮城県沖地震に代表されるように地震活動が活発な地域であり、制震構造を採用することで、高い耐震性能を確保した。

●全体構造計画

本建物は、客室のほか、多種用途の部屋から構成されている。上層の客室階は柱・梁とも鉄骨造によるラーメン架構とし、宴会場・和神殿などが配置され、高階高・吹抜・無柱空間の確保が要求された低層階は、剛性の高いCFT柱を採用することで、高さ方向の剛性のバランスの確保に努めた。

3階以上のラーメン架構内には、制震装置を組み込んだブレースおよび間柱を配置し、地震入力の低減を図った。制震ブレースはEVシャフトなどコア周りに配置し、制震間柱は客室の戸境部に配置し、建築計画との融合を図った。

●ブレーキダンパーの採用

制震装置としては、大林組が開発した高力ボルト摩擦接合滑りダンパー（ブレーキダンパー）を採用した。ブレーキダンパーは、ブレースや間柱の継手部に摩擦材と滑り材を挟み込み、一定以上の力が作用すると継手部が滑ることで、摩擦力により地震エネルギーを吸収する機構となっている。ボルトを締め付ける軸力によって滑り耐力を調節することができ、設計の自由度が高い。本建物では、階によって滑り耐力を変化させることで、ダンパーの耐力分担率が各階とも同程度となるようにした。また、地震時にも損傷しないため、取り替えやメンテナンスの必要がない。

●制震装置のエネルギー吸収効果

ブレーキダンパーのエネルギー吸収効果を、エネルギー応答によって確認した。比較のため、本建物と初期剛性および終局耐力が等しくなるような制震装置なしのモデルについても検討を行った。入力地震動はTAFT EWとし、入力レベルは超高層性能評価委員会で要求される最大級の地震であるLEVEL2およびLEVEL3とした。

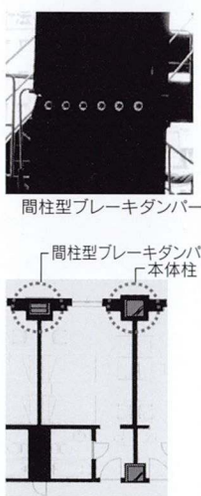
LEVEL2地震動に対しては、制震構造の場合は主架構の損傷はほとんど生じず、制震装置で50%以上の地震エネルギーを消費している。一方、制震装置がない場合は、主架構の損傷による長周期化により入力エネルギーそのものは低減されているものの履歴エネルギーへの依存が大きく、制震装置の効果が確認できた。

さらに大きなLEVEL3地震動に対しては、制震装置の吸収エネルギーは50%以上あり、架構の損傷は小さく抑えられている。一方、制震装置がない場合は50%近くの非常に大きな地震エネルギーを架構の履歴吸収エネルギーで消費しなければならず、大きな損傷が発生する。

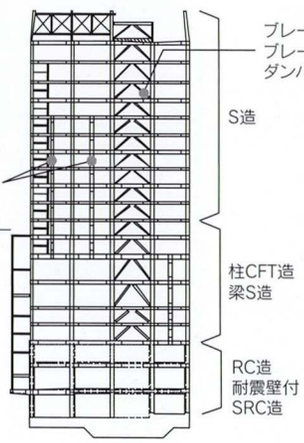
このように、本建物で採用した制震構造は、地震入力が大きくなるほどエネルギー吸収効果が高くなり、たとえ超高層建物であっても、一定の地震力レベルで設計している現在の耐震設計の中で耐震性能上の余力を与えているということができる。



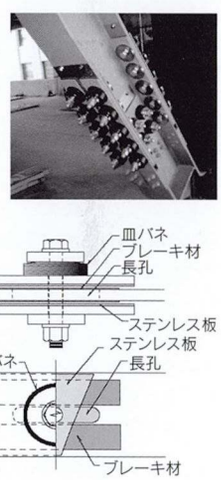
階　　数　18F、P1、B1
延床面積　16223.26㎡
最高高さ　75.84m
構造種別　S造
（一部SRC造）
架構形式　ブレース付ラーメン構造



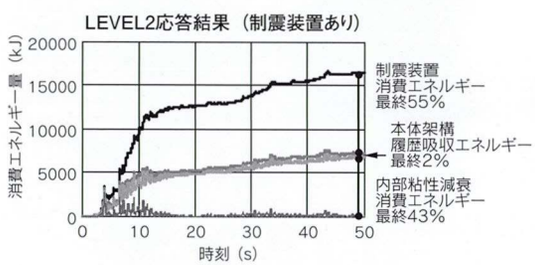
客室プランに合わせた制震間柱の配置

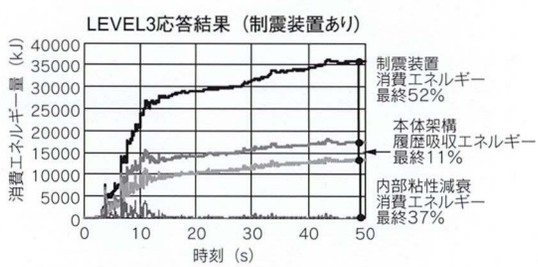


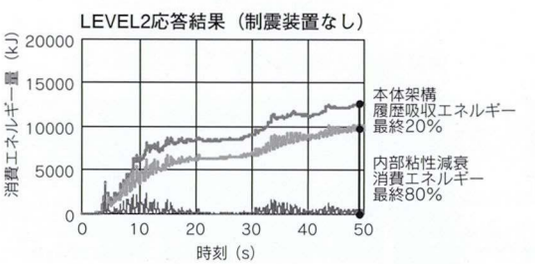
軸組図

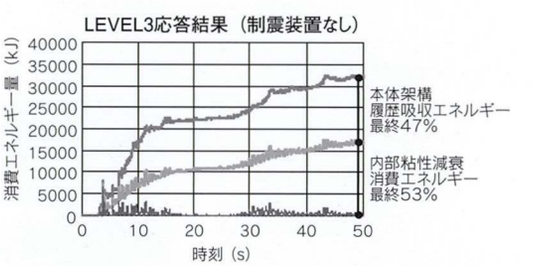


ブレーキダンパーの構成









制震装置のエネルギー吸収効果



加登美喜子（かとうみきこ）

生年月日　1970年10月26日
最終学歴　1995年神戸大学工学研究科
　　環境計画学専攻修士課程修了
業　　歴　1995年㈱日建設計入社
　　東京本社構造設計部
　　1996年大阪本社構造設計部
　　現在　構造設計部門構造設計室

●主な作品経歴
1997年　鹿児島県県民健康プラザ
　　住友倉庫南港R倉庫
1998年　大手前大学伊丹キャンパス
　　京阪神不動産淀屋橋ビル
1999年　鹿児島県県民交流センター
2000年　京都大学桂キャンパスAクラスター
2001年　名古屋学芸大学メディア造形学部棟
2002年　芝蘭会館
　　大阪医科大学附属病院
2003年　清風寺新本堂

■青年技術者のことば

「建築」とは、建築主、設計者、施工者、そしてそれを利用する人たちのそれぞれの想いが融合したもので、構造設計者はその中の一人であることを忘れてはならない。一方で、構造設計者は、軀体だけでなく建築物としての性能および品質の確保や向上に努め、さらには、空間の豊かさを追求し提案しなければならない。「建築」に携わる一人ではあるが、その役割は非常に大きい。

・自分自身の中で勝手に定義した狭義の構造設計に陥っていないか。
・なぜ、構造設計を続けるのか。
・構造設計者として、私だからこそできる建築へのかかわり方があるのではないか。そして、構造設計者として何を目指すのか。
・構造設計者の社会的使命とは何か。社会に対してどのように貢献するべきか。

構造設計を始めて10年。少し立ち止まって考えてみるのも悪くはないと、最近思う。

■すいせん者

多賀謙蔵
日建設計 構造設計部門副代表

プレストレストコンクリート・プレキャストコンクリートによる意匠と構造の融合

京都大学 桂キャンパス Aクラスター

京都大学工学研究科の移転計画で、1999年にA，B，C，Dクラスターからなる桂キャンパス全体のマスタープランを作成し、引き続きAクラスターへ移転する化学系および電気系の５棟からなる施設の実施設計を行った。

●建築計画

建物規模は４～６階建てで、各棟の延床面積は約8000㎡である。建物は実験室と研究室から構成される。中庭側に、すべての実験室に面したテクニカルスリットと呼ばれる設備専用の外部空間を設けている。実験室群の外周には廊下、さらにその外側に研究室を配置している。実験室の中には、下階に影響なく変更可能な配管・配線ピット式システムを導入している（図）。

●構造計画

構造形式はプレキャストプレストレストコンクリート構造で、耐震壁付きラーメン構造としている。基礎は杭基礎である。

●プレキャストプレストレストコンクリートの採用による課題解決

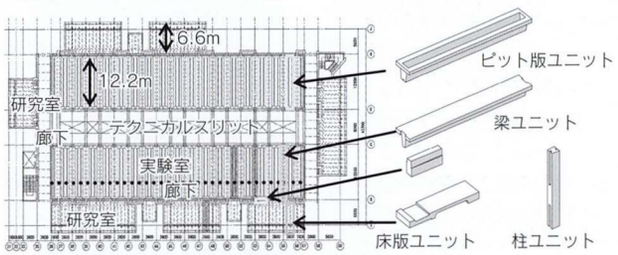
実験室、研究室、廊下からなるシステム化された建築計画をどのように構造計画に反映するかが課題となり、架構形式をプレキャストプレストレストコンクリート構造（圧着工法）とすることを計画の初期の段階から提案し、採用に至った。

①プレキャスト化のスタディ
圧着工法の場合、柱、梁にプレストレスを導入するため、部材の目地位置を自由に決められる利点がある。柱、梁、ピット版の組み合わせ方法を選定するために、架設方法、コストに影響を及ぼす圧着目地の数、実験室ならではの配管ピットの納まり、意匠的な見え方などを整理し、意匠、構造、設備の整合性を図り、プレキャスト部材としてのシステム化を図った。

②意匠材のプレキャスト化
構造部材以外の部位にもプレキャスト化を図った。バルコニーは、研究室の床版と兼用し、前面にプレキャストコンクリートの柱と目隠し壁を取り付けることとした。また、屋上の庇やパーゴラもプレキャストコンクリート部材を圧着して製作し、システム化の徹底を図った。



建物外観



プレキャスト版伏図

京都大学医学部百周年記念施設　芝蘭会館

芝蘭会館は、京都大学医学部の同窓会組織芝蘭会の施設で、医学部創設百周年を記念して建設された。

●建築計画

建物規模は地上２階、地下１階建てで、延床面積は約2500㎡である。１階はエントランスホールと産学情報交流の拠点となる施設、２階は直径約16mの円形ホールと約15m×18mの矩形ホールからなる。外部空間と内部空間の連続性を重視し、１階エントランスホールと車寄せ、２階ホールロビーと矩形ホール、またその先にある南側の庭をそれぞれ開放的な連続した空間として計画している。２つのホールの独立性を高めるため、ホールを２階床から立ち上げ、ホール周囲にはトップライトを設けた。

●構造計画

構造形式は鉄筋コンクリート構造で、耐震壁付ラーメン構造とし、建物内部の柱には鋼管を採用している。２階床および屋根において、スパンの大きな大梁・小梁・片持ち梁については現場打ちプレストレストコンクリート構造としている。

●各種構造要素の組み合わせによる課題解決

①構造体と空間
建物内部と外部との関係を重視した空間とし、構造体が視界を妨げない開放的な空間とした。鉛直荷重だけを支持する鋼管柱と鉛直・水平荷重を支持する鉄筋コンクリート壁の組み合わせで、軀体形状を空間そのものとして表現したシンプルな空間とした。

②内部と外部の連続性
ホールロビーと庭への連続性をもたせるため、矩形ホールはガラス張りとし、ホール南側の外部の庭に通じる外壁面は、柱のない32mの横連窓とした。いずれもプレストレスを導入することで、空間に要求される形そのものを軀体として活用することとした。

③ホールの独立性
ホールの独立性を高めるため、屋根スラブと２つのホールをトップライトで縁をきり、梁型のないフラットな天井とした。屋根を天井と兼用した400㎜の厚いスラブとボイドスラブを併用することで実現した。

●意匠と構造の融合とは

これらのプロジェクトは、いずれも意匠材と構造材が同化しており、意匠設計者の空間的アプローチと構造設計者の技術的アプローチを融合させた建物である。

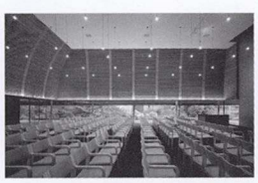
このような設計をする場合、設計者同士が熱意をもち、意匠設計者は構造技術を、構造設計者は空間のありかたや、部材形状の詳細を互いに理解し、かたちを作り上げていく必要がある。一般的な建物よりも、設計段階でも施工段階でもエネルギーが必要である。しかし、完成したときの感動は忘れられない。



建物外観



２階ホールロビー



ガラス張りの矩形ホール



矩形ホールと32m横連窓



なかにしよしゆき
中西剛行

生年月日　昭和46年5月27日生まれ
学　　歴　平成8年関西大学大学院工学研究科電気工学専攻博士課程前期課程修了
職　　歴　平成8年㈱昭和設計入社
現在に至る

●業務経歴
京都市勧修寺第二市営住宅
洲本市健康福祉館
新長田駅南地区大橋4第1・3工区再開発ビル
社団法人近畿建設協会京都支所庁舎
2002年FIFAワールドカップ長居陸上競技場（改修工事）
和歌山県立情報交流センタービッグ・ユーウッディタウン市民センター

■青年技術者のことば

入社時に、「一人前の設計者になるには10年かかる」と言われました。これまで仕事に取り組む中で、常にその言葉の意味を考えてきました。一人前の設計者とはどういうことなのか。物事をあらゆる視点・立場に立って考えることで、様々なことが見えてくるのではないか。

①建築主からの要求事項を満足した設計を行える技術力

②要求事項の背後に隠れた要望を酌み取り最適な提案を行える力

③エンドユーザーからの要望に対する配慮を行える力

設計者として取り組むべきことが広範囲になってきている今日では、これらの力を兼ね備えることが、一人前の設計者への近道のように思います。

電気設備設計者でありながら専門的なネットワークシステムの構築に対応できる技術知識を得られたことは、今後の設計において多いに有益であると考えます。この経験をもとに、電気設備設計とネットワークシステム設計をうまく融合させ、運用者がより使いやすいシステムを提案していければと思います。

来年でその入社10年目を迎えるのですが、電気設備設計者として一人前になれたのか自問自答を繰り返し、日々努力していきたいと思います。

■すいせん者

高津章雄
昭和設計 執行役員

和歌山県立情報交流センターにおけるネットワークシステムの構築

和歌山県の地理的特性や高齢化の進展等に起因する情報格差（デジタルデバイド）の解消、県民の幅広いITの活用とそのメリットの享受を目的とし、様々なIT活動の情報発受信拠点となるような複合的な機能を有する施設として、和歌山県立情報交流センタービッグ・ユーは計画された。この設計業務において、電気設備全般の基本設計、実施設計及び工事監理に携わった。

●要求される性能条件・機能

ネットワークシステム構築を進めるには、施設の機能・技術的要件・運用上の要件を整理する必要がある。

＜施設の機能＞

IT人材育成／SOHOの支援／最新情報技術の体験利用／動画配信拠点／地域iDC機能／IX（Internet eXchange）機能／ASP機能

＜技術的要件＞

ボトルネックへの配慮／トラフィック増加への対応／システムの信頼性確保

＜運用上の要件＞

セキュリティの確保／障害時の即時対応

これらの要件・機能を踏まえて、対外的なアクセスや情報管理について、和歌山県庁の相互補完の役割も果たせるよう館内・館外のネットワークシステムイメージをまとめた。

●システムの仕様設定

大学時代には自分自身でネットワークシステムの構築・管理を行った経験もあったので、そのときの知識をベースに建築主と協議を重ねていった。しかし、建築主の担当者の中には情報システムの専門家もおられたため、ネットワークの論理的階層構造といった専門的知識は非常に難解であった。この状況を打破すべく、最新技術の知識を調査・吸収し、以下の仕様を設定した。

＜施設の機能への対応＞

館内全域に無線LAN（54Mbps）を設置することでユビキタス環境を提供し、最新情報技術の利用が可能となっている。またネットワーク上でテレビ会議システム等を利用するため、MPEG2の動画データをストレス無く配信できる計画とした。さらにe-learning等のASP機能提供のために、サーバーファームの設置やDMZ（非武装地帯）に対応したシステム構成とした。この構成により地域iDC機能やIX機能の導入も可能となっている。

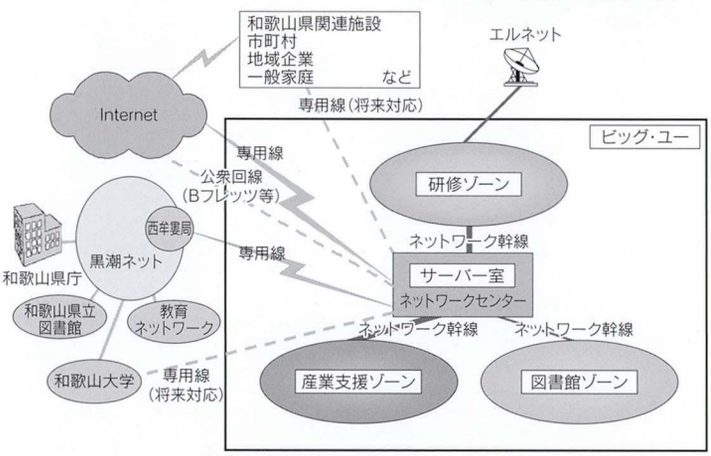
＜技術的要件への対応＞

基幹ネットワークのうちコアSW～フロアSW間は、1Gbps（全二重）を8回線まで接続できる光ケーブル（GI）を敷設し、芯数の設定は64芯（8Gbps×二重化×2芯＋拡張・予備用32芯）とした。フロアSW～エッジSW間は、光ケーブル（GI）6芯（1Gbps×2芯＋拡張・予備用4芯）により1Gbps（全二重）の回線を確保した。さらに、すべての機器はQoS（Quality of Service）制御に対応したものとした。これらによりボトルネックの解消とトラフィック増加への対応が可能となっている。

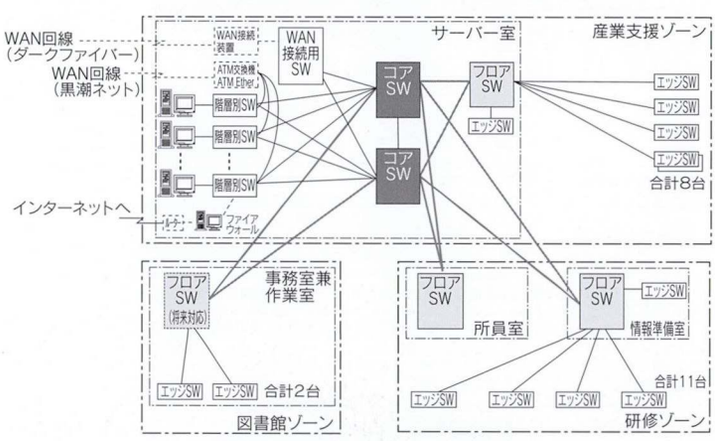
システムの信頼性確保のために、コアSW～フロアSW間についてはネットワーク回線の二重化、物理リンク回線障害時の再リンク構成機能、ロードシェアリングによる負荷分散、スイッチの二重化によるスパニングツリー構成等を導入した。またコアSWの電源についてはホットスワップ対応の電源モジュール二重化、発電機・UPSによるバックアップを行った。

＜運用上の要件への対応＞

ファイアウォール・ルータやVPN装置の設置により、外部接続に対するセキュリティを確保した。内部的には、無線LAN用に認証サーバーの導入や運用形態に合わせたVLANの導入も行った。ネットワーク障害時には光ケーブルの予備芯を利用し、コネクタ差し替えを行うことで、障害時の即時対応が可能となっている。



館内・館外ネットワークシステムイメージ



基幹ネットワークシステム配線系統図



外観写真

●仕様設定から性能確保へ

ネットワーク機器は製品のモデルチェンジ期間が非常に短く、設計時点から機器納入までの時間経過により機器の性能・コストも大きく変化する。建築主からの新たな要望への対応や最新技術の導入にも配慮し、コスト的にも満足した最新機器へと現場段階で見直しを行っていった。ここで苦心したのは、ネットワーク機器のスペックはすべて詳細部品の組み合わせが決められており、少しの仕様変更が大幅な仕様変更となることであった。よって、仕様変更・コスト調整には相当な時間を費やした。

また、ネットワーク性能は機器の性能だけでなく、ネットワークケーブルの性能にも依存する。この性能を確保するためには、光ケーブルの融着作業や成端作業が重要となる。この作業は想像以上に細かな作業であった。機器の技術革新の裏には人間の地道な努力が隠されているのだと感心させられた。

設備部門



佐々木（ささき）　尚（たかし）

生年月日　1970年3月14日
最終学歴　宇都宮大学大学院工学研究科
　　建設学専攻修士課程修了
業　　歴　1994年㈱安井建築設計事務所
　　東京事務所入社
　　1996年大阪事務所設備部
　　2001年大阪事務所技術管理室
　　2003年大阪事務所設備部
　　2005年東京事務所設備部

●主な作品経歴
神戸市営地下鉄海岸線新長田駅
神戸市営地下鉄海岸線駒ヶ林駅
播磨町蓮池保育園・子育て支援センター
播磨町蓮池幼稚園
精華町庁舎・図書館
呉市広公園体育館
仁丹ミラセル工場びわ湖
東大阪市庁舎

■青年技術者のことば

学生時代より建築をかじるようになって、17年以上が経過しました。

今の時代の環境空間設備技術は、ある意味で、自然ではない空間を建物の中に構築するという、人間生活の欲求を満たすものだと感じるようになりました。

いかに地球環境を大事にするか、どうしたらエネルギー消費を最小限にとどめておくシステムが構築できるか、そういう意識が学生の頃から根底にあったからこそここまで続けられたのかと、それを振り返るいい機会となりました。

この東大阪市庁舎のプロジェクトは、ほぼ6年にわたり、計画から竣工までかかわってきました。竣工への道のりで、確実に要求事項を満たすべく、様々な検証を重ねて目標を達成してきました。その原点には、建築主との心からの会話により、理念・要望を共有できたことがあると思います。意匠・構造・設備と建築主とがタッグを組んで、目標を達成できたことは忘れられない経験となりました。

よりよい“ものづくり”を念頭に、今後もこの経験を財産として設備設計に生かしていきたいと思います。

■すいせん者

松浦　肇
安井建築設計事務所
東京事務所設備部長

省資源・省エネルギーで快適な庁舎を目指して

●東大阪市新庁舎計画

計画のコンセプトを以下に定め、計画に着手した。

・都市環境向上及び地域の活性化に積極的に寄与するシンボル性のある庁舎
・高度情報化に適切な対応が可能で、積極的に情報発信ができる庁舎
・行政サービス水準の向上に努め、サービス機能の多様化に柔軟に対応できる庁舎
・来庁者、執務者に魅力的で快適な空間を創出し、市民に親しまれる庁舎
・長期的視点に基づき、省エネルギーやライフサイクルコストに配慮した庁舎
・災害時の広域防災拠点として、庁舎機能が損なわれない耐震性と、バックアップ機能を持った庁舎

●設備計画コンセプト

環境に配慮した庁舎として省資源・省エネルギーに寄与し、地球環境への負荷の小さい建物をつくることが求められた。運用段階のLCCの低減や防災拠点として、バックアップ機能を確保することも要求事項であった。（図1）

●空調熱源システム

氷蓄熱熱源システムは内融式の利点を生かし、チラー→氷蓄熱槽→熱交換器→チラーというシンプルなシリーズ回路を構成させた（図2）。チラーを上流側（高温側）、氷取り出しを下流側（低温側）とすることで、機器側の*COP*が、高い運転で可能となった。

また冬期に、日射負荷の多い南側ペリメータゾーンの冷房要求に対しては、氷蓄熱を熱源として利用している。夜間に氷蓄熱槽の3槽のうち1槽のみを蓄熱運転し、昼間に外融式の冷水循環にて取り出すシステムを構築した。

●暖房時の送水温度の検討と検証

40℃の還り温度に対して、冷温水発生機出口温度は45℃となるが、チラー出口温度は42.5℃となる。これらの混合温度43.5℃で2次側の機器へ送り、温度差4.0degで還ってくるとすると、熱源への還り温度は39.5℃となる。経路内の温度は、負荷が一定の場合、単純計算では無限に小さくなる。送水最低温度を設定すべくシミュレーションを行い（図3）、実運転データでも良好な結果が確認された（図4）。



東大阪市庁舎

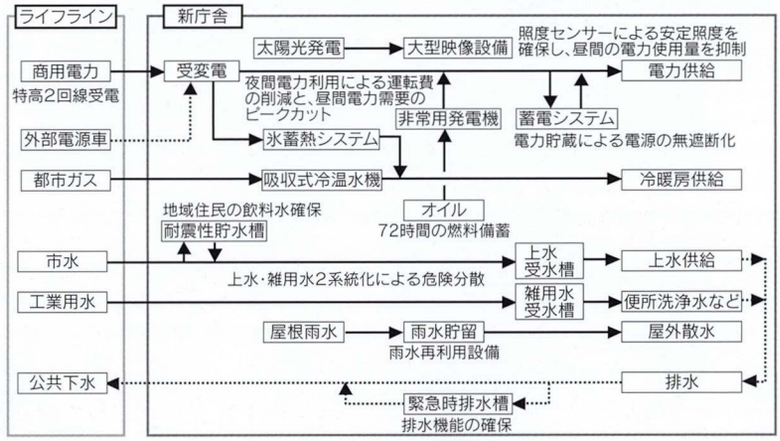


図1　新庁舎のエネルギーシステム

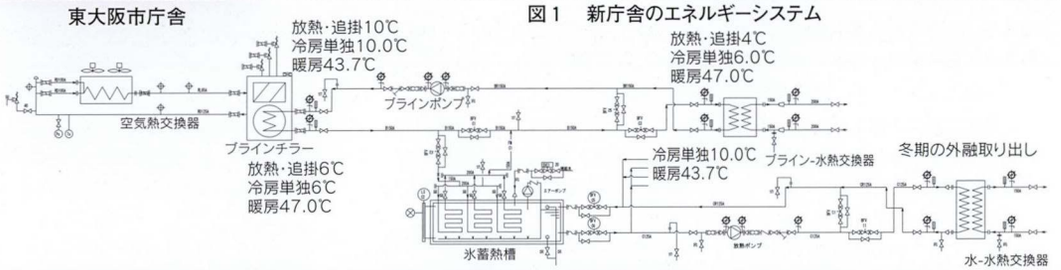


図2　氷蓄熱システムの配管系統図

ある時間tの送水混合温度をTとし、微小時間dt後の混合温度変化dTは
dT／dt＝（Q1×T1＋Q2×T2）／（Q1＋Q2）－T　……①式　にて表される。
Q1：冷温水発生機水量⇒4m3／min　Q2：チラーの合計水量⇒6m3／min
T1：微小時間dt後の冷温水機出口温度℃、T2：微小時間dt後のチラー出口温度℃
Q1＝4、Q2＝6の時、2次側機器の出入り口温度差を4deg＝一定とすると、
　T1＝T－4deg＋5deg＝T＋1、T2＝T－4deg＋2.5degとなる。

暖房機器は入口温度が下がれば能力が少し大きくなる。経験値として5℃の温度変化に対して0.25℃（5%）程度加算された還り温度になるとされている。これを考慮した前述の微小時間の出口温度式は、
　T1＝T－4＋5＋K（補正値）、T2＝T－4＋2.5＋K（補正値）　K＝－0.05T＋2.25で表されることから
　T1＝T－4＋5－0.05T＋2.25＝T（1－0.05）＋3.25
　T2＝T－4＋2.5－0.05T＋2.25＝T（1－0.05）＋0.75となる。①式に代入すると、
　dT／dt＝－0.05T＋1.65　∴dT／（T＋1.65／0.05）＝－0.05　　解はt＝0の時でT＝43.5℃とすると、
　T＝10.5exp（－0.05t）＋33　……②式　で表すことができる。
このままでは無限に計算すると33℃が最低送水温度となる。
熱源機器の容量はピーク負荷に対してある程度余裕をもった設計を行う。よって約10%上がった温度差がついて、2次側機器より還ってくることを前述の式で表すと、
　T1＝T－4＋1.1×5deg＝T＋1.5、T2＝T－4＋1.1×2.5deg＝T－1.25となる。①式に代入すると、
　dT／dt＝－0.15　　解はt＝0の時でT＝43.5℃とすると、両辺を積分すれば
　T＝－0.15t＋43.5　……③式　で表すことができる。
上記の2つの出口温度補正及び機器構成の余裕を組み合わせて考慮すれば、
　T1＝T－4＋1.1×5deg－0.05T＋2.25＝T（1－0.05）＋3.75
　T2＝T－4＋1.1×2.5deg－0.05T＋2.25＝T（1－0.05）＋1　　これらを①式に代入すると、
　dT／dt＝－0.05T＋2.1　∴dT／（T＋2.1／0.05）＝－0.05
解はt＝0の時でT＝43.5℃とすると、
　T＝1.5exp（－0.05t）＋42　……④式で表すことが出来る。
この状態であれば、42℃が最低送水温度となる。

図3　冬期の温水送水最低温度設定のためのシミュレーション

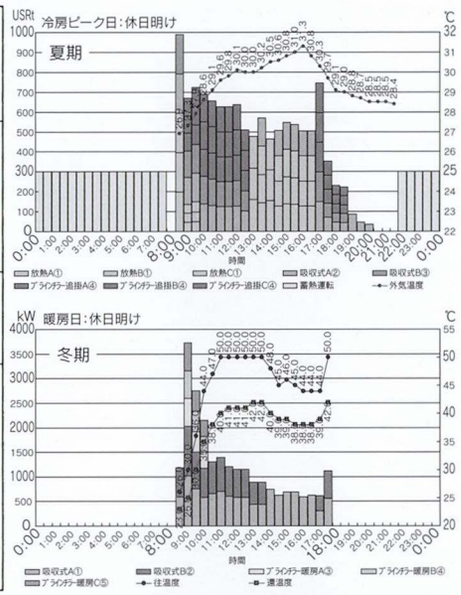


図4　夏期と冬期の実運転データ



春増（はるまし）　崇（たかし）

生年月日　昭和44年12月15日
学　　歴　平成７年京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科修士課程修了
職　　歴　平成７年㈱徳岡昌克建築設計事務所入社

●主な作品履歴
VOビルディング
小石原焼伝統産業会館
能登川町総合文化情報センター
愛東町総合福祉センター
新石切高齢者住宅
甘木市総合福祉施設
今津町歴史文化情報センター
志賀町庁舎新築工事
新旭町第２幼稚園

■青年技術者のことば

設計に携わり、あっという間の10年間でした。企画や基本設計から現場監理まで、様々な過程で多くの建築に携わり、建築にかかわる多くの人々に接し、影響を受け、励まされながらやってこれたことは非常に幸運だったと思います。

建築設備の分野においては、多岐にわたる様々なシステムが開発されていますが、単に機器を組み合わせるだけではなく、空間や環境、運用管理にあたる人々や利用者の考え方まで考慮して設計する必要があり、また、地球環境問題などの社会的要求事項への対応も求められ、その責務はますます大きくなってきているように思われます。

今後は、さらに広い分野における知識と能力を備えられるよう努力し、建築計画と設備計画が調和した、利用者にやさしく、また環境にもやさしい建物を目指して設計に取り組み、社会に貢献していきたいと思います。

■すいせん者

徳岡昌克
徳岡昌克建築設計事務所代表取締役

高島市立静里なのはな園における省エネルギー手法

高島市立静里なのはな園は、幼稚園と保育園の一元化教育を目的とした施設である。私は設計から設計監理まで担当設備技術者として中心的な立場でプロジェクトにかかわり、計画にあたっては、省エネルギーで地球環境にやさしい建物とし、さらに園児や来園者にその効果やしくみが分かるような施設を目指した。

●建築計画への配慮

省エネルギーな建物とするには、まず、建物の負荷を抑制して、無駄なエネルギーの浪費をなくすことが必要となる。建物は東西軸に配置して、年間日射負荷を小さくし、夏の南面からの日射は庇によりカットし、冬はペアガラスの採用など気密性、断熱性を高め、ヒートロスを最小にした。また、屋根は二重屋根とし、夏は自然換気により排熱することで屋根面からの日射負荷を低減し、冬は二重屋根内の暖かい空気を室内に取り込むことによって外気負荷の低減を図った。

●地中熱利用

本施設では環境条件等から、年間を通じて安定した熱を得られる地中熱の利用を積極的に採用することとした。水位が高い場所なので長いパイプの使用や深い掘削は施工性が悪いことや、またコストを考慮した上で、長さ4.5mのアルミ製の二重パイプを地面に打ち込み、ファンにより空気をパイプに通すことで加温・冷却する地中熱循環換気システムを採用した。

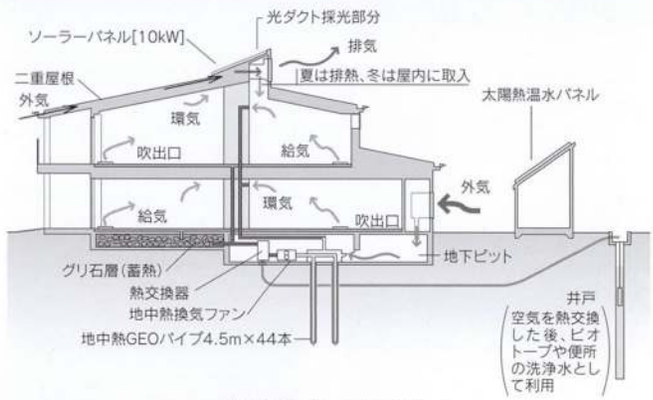
管理諸室や厨房には電気式ヒートポンプエアコンも設置するが、基本的にはこのシステムのみで建物全体の空調換気を行うこととした。制御は、昼はタイマーにより交互に循環換気と外気導入を行い、夜間は１階床下の栗石層や躯体に蓄熱するためにファンの運転を弱運転にし、冬期は循環換気のみ、夏期は外気温が室温より低ければ外気取り入れ運転を行うようにした。

また、夏期は室温が28℃以上の時は井戸水を熱交換器に循環させて冷却し、冬は室温が18℃以下の時はボイラーによる温水を熱交換器に循環させ加温するようにしている。

●地下水（井戸水）の利用

水（地下水）が豊富な場所であるので、地下水（井戸水）を有効利用する計画とし、災害時の防災拠点としての使用も考慮して便所の洗浄水等の雑用水への利用や、ビオトープへの給水、地中熱循環換気システムの熱交換器への循環水として利用した。





省エネルギーシステム図



足洗場（左）と
空気の流れがわかるダクト（右）

●太陽光・熱利用

地中熱循環換気システムの使用電力をまかなえるよう、屋根には10kWの太陽光発電パネルを設置した。また厨房の給湯負荷を低減するために、太陽熱温水器を採用した。１階ふれあい広場（廊下）には光ダクトを通して２階トップライトからの自然光を導き、照明を点灯しなくても最小限の照度が確保できるように計画した。

●園児たちにもしくみが分かるような仕掛け

太陽光発電パネルや太陽熱温水器は、園児たちからも見える位置に設置するとともに、１階ふれあい広場には40インチの液晶モニターを設置し、太陽光発電量や地中熱温度、外気温度、室内温度を表示した。また、地中熱循環換気システムのダクトの一部を透明アクリル製として、中にリボンをいれて空気の流れが見えるようにしたり、太陽熱によって水を温める太陽熱温水器のしくみを体感してもらえるように外部足洗い場の上部外壁面にステンレスパイプを設置し、その中に水を通して晴れた日は足洗い場のシャワーから温かい水がでるようにしている。

●省エネルギー手法の効果

地中熱循環換気システムにおいては、竣工時の測定では外気温度32.6℃のとき室温は約27℃～28℃と、計画どおりの室内温度環境を達成している。園の先生方からは昼寝の時間に園児たちがよく眠れるようになったとの評価を頂いている。

竣工したばかりで、実測データーの検証等はこれからであるが、前述の省エネルギー手法の採用により、シミュレーションでは二酸化炭素の排出削減量は年間33.1ton、約58％の削減効果が期待できると考えられる。

●建築的手法と設備的手法

省エネルギー手法の採用は、建物の配置や構造、空間、使い勝手、気象条件、環境条件、効果やコストを総合的に考慮した上で決定していかなければならない。また、建物における省エネルギー・自然エネルギーの活用という点において、建築的な手法と設備的な手法がうまく組み合わされてはじめて効果をあげることができる。

本施設においては、地中熱の利用を主体として、その効果が最もよく得られるような建物とすることができた。

設備部門



長南裕一（ちょうなん ゆういち）

1969年　12月15日生まれ
1992年　関東学院大学工学部建築設備工学科卒業
1992年　㈱東畑建築事務所入社
●主な作品
1993年　ディスカバリーパーク焼津「水夢館」
1994年　ディスカバリーパーク焼津「ときめき遊星館」
1995年　小倉競馬場 競走馬総合研究所
1997年　和田ふるさと館
1998年　埼玉県営熊谷スポーツ文化公園 陸上競技場
1999年　岩本町二丁目複合施設
2001年　新潟県南魚沼地域振興局

■青年技術者のことば

今回の応募は、入社してから現在まで設計してきたものを見直すいい機会となりました。

設備設計をするにあたり、機能を満足させることとともに、省エネルギー、環境問題及び資源の有効利用に配慮することを心掛けてきました。振り返ると、毎回そうですが試行錯誤を繰り返し、竣工までたどり着いてきました。

今回応募した建物のひとつに、雪冷房システムを採用した新潟県南魚沼地域振興局があります。

それを設計するにあたっては、雪がどのように活用できるのか、情報を集めることから始まりました。手探りでの設計でしたが、多くの方々の協力・アドバイスを得て実現することができました。また、その効果を検証する機会にも恵まれ、非常に貴重な経験となり、満足のいく結果も得られました。

今後も幅広い視野を持ち、社会に貢献できる設計活動を行っていきたいと考えています。

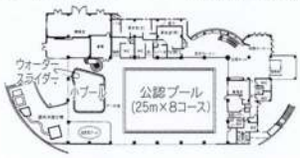
■すいせん者

前田弘幸
東畑建築事務所設備部長

省エネルギー・環境負荷削減手法の導入と検証

●設備設計者として

■ディスカバリーパーク焼津「水夢館」



・プールの昇温には、プールを蓄熱槽とする深夜電力による蓄熱を利用。
・プール室のシステム型空気調和機に、顕熱交換器を組み込み、エントランスホールの空調機は、熱回収ヒートポンプチラーを採用。
・雨水利用、プール入替水の有効利用、ソーラパネルによる太陽熱の給湯利用。

■ディスカバリーパーク焼津「ときめき遊星館」



・内部発熱が多く、年間の大半を通して冷房要求のあるプラネタリウム，展示室の熱源には、深夜電力を利用した氷蓄熱ユニットを採用。

■和田ふるさと館

・「交流」「生活」「文化」「省エネルギー」をキーワードに、子どもから高齢者まで幅広く利用、地域住民の知識及び技術を習得、歴史民俗資料の展示・貯蔵、環境に優しい施設を目指す。
・メインの熱源には深夜電力を利用し、通常時とイベント時それぞれに対応可能な氷蓄熱ユニット方式を採用。
・雨水利用、ソーラ発電を行っている。



■岩本町二丁目複合施設



・暖房要求期間の長い老人福祉施設には、地下ピットを利用した水蓄熱方式を採用。

■新潟県南魚沼地域振興局

・六日町は有数の多雪地域で、この地域特性を生かし、降った雪を雪室に貯めて、その冷気を夏季の冷房に利用した。
・雪冷房システムを用いて冷房を行う範囲は、圏域住民に開放され体感ができる1階エントランスホール・県民ホール（アトリウム）、講堂・第一会議室とした。
・空調方式は床吹出＋壁吸込方式を採用し、すべて居住域空調とした。

●省エネルギー・環境負荷削減手法「雪冷房システム」

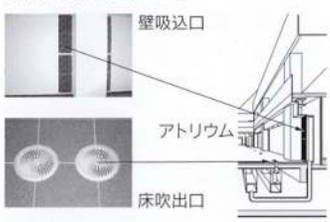
蓄熱方式として雪冷房方式を採用した南魚沼地域振興局は、既存建物の老朽化に伴い新しく計画されたもので、プロポーザル、基本設計、実施設計、現場監理まで携わった。

雪冷房システムを採用するに際し、「雪室への投入方法」「一時堆雪場所の確保」「投入した雪の密度」を解決する必要があったため、北海道や北信越地の類似事例調査や現地での気候調査、大学の研究者とのワーキングを重ねた。また、「雪室等にかかる建築コストとのバランス」も解決する必要があったため、雪冷房システムの一部は、新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の「地域新エネルギー導入促進事業」の補助を受けた。

雪冷房用の雪は、12～3月の間に敷地内駐車場に降り積もる雪を、敷地内駐車スペースの一角に一次堆積しておきながら、2～3回に分けて除雪用の重機（ロータリーなど）を使用して利雪棟の雪室へ雪を投入。約4～5カ月雪室内に貯雪した後、7～9月の冷房期間約2カ月以上にわたり、雪だけを冷熱源として冷房を行っている。

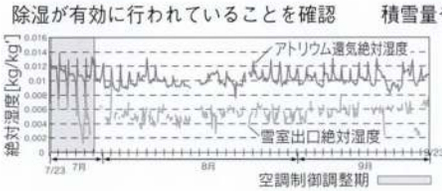
■雪冷房システムのプラス効果

雪冷房システムの採用は、環境資源の有効活用と除排雪量の低減を図るとともに、室内環境においても絶対湿度の低い雪を使うことによる除湿効果で過ごしやすい室内環境が形成され、雪のもつ保有湿度による粉塵の吸着効果やCO_2吸着による空気質向上も期待した。また、融解水（雪の解けた水）は、ピットに貯めて利雪棟の屋上にポンプアップ散水を行うことで、雪室への屋根面侵入熱の低減を図り、雪の長期貯雪化に貢献している。



■除湿効果の検証

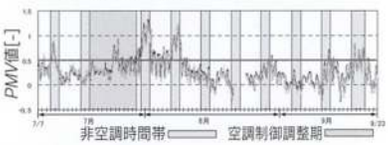
雪冷房システムのアトリウム還気絶対湿度と雪室出口絶対湿度を検証した。雪冷房システム稼動期間中において平均0.005kg/kg'の差がある。このことから雪室内の絶対湿度が低い特性により、雪冷房システムによる空調空気の除湿が有効に行われていることを確認した。



■*PMV*による温熱環境評価

*PMV*による手法を用いて、雪冷房時の室内環境の温熱環境を検証した。

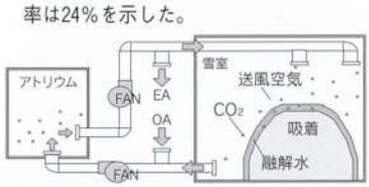
非空調時間帯の夜間に1を超える時間帯が見受けられるものの、空調時間帯においては*PMV*値が概ね-0.5≦0.5を示していることから、雪冷房システムによる快適性の高い室内環境を実現できていることを確認した。



■空気清浄効果の検証

1日の空調運転状況におけるCO_2処理効果（雪室入口空気と雪室出口空気のCO_2濃度の差）を検討するため、空調が安定した時間帯で検証した。

雪冷房システムにおいてアトリウム還気の一部がアトリウムにもどるためのバイパスファクターがない（バイパスMD閉）と仮定した場合、空調が安定した時間帯における雪によるCO_2処理率は24%を示した。



このことから、CO_2処理効果があることを確認した。

■エネルギー削減効果、CO_2削減効果の検証

平成16年度7～9月の解析2カ月間の雪冷房による消費エネルギー削減量は、原油換算1日当たりで18.6ℓ/dayの削減となった。また、CO_2削減量は49.3kg-CO_2/dayの削減となった。

庁舎サービスは当初土日も行う予定ではあったが、平成16年度については行われなかった。来年度以降は当初の予定通りの運営となる予定で、その場合は、今年度の結果から推測すると来年度の冷房期間約2カ月半の消費エネルギー削減量は2,100ℓ/年、CO_2削減量は5,587kg-CO_2/年の削減が期待できる。

＊

エネルギーの削減効果、CO_2削減効果の検証からも省エネルギーに効果があることが確認できた。

他の地域・施設への導入については、積雪量や建築用途、コスト検討などの与条件の十分な整理検討は必要であるが、雪冷房システムは、積雪地域の省エネルギー手法として有効な手法だといえる。



みずいできたろう
水出喜太郎

生年月日　1969年12月22日
最終学歴　東京都立大学大学院工学研究科
　　建築学専攻修士課程修了
業　　歴　1994年株日建設計に入社
　　大阪 設備計画室

●主な作品業歴
西鉄ソラリアステージビル
大阪市住まい情報センター・住まいのミュージアム
ガーデンシティタワーズ大阪中央病院
ニッセイ新大阪ビル
堺ガスビル
鹿児島県県民交流センター
読売神戸ビル
丹波市立氷上中学校
四国新聞ニュース・フロー
岡山県立岡山病院（建設中）
西脇市立西脇病院（建設中）
高松地方合同庁舎（建設中）

■青年技術者のことば

建築環境設備の計画に携わるようになってから12年になります。担当したいずれの建築においても、常にそのケースに適したテーマを設定し、取り組んできました。

理想の形としては「意匠・構造・環境が真に協働してつくりこむ環境建築」をイメージしています。環境建築とは快適性と機能性を維持しながら省エネルギーを実現する建物であると理解し、それらの意図が運用時に確実に効果を発揮するシステムを構築することが、環境エンジニアに求められていると認識しています。

ここで報告した建物では、提案から運用に至る各段階に主体的かつ中心的にかかわり、魅力ある環境建築の計画手法として、「居住者の快適性と執務空間としての機能性の維持」「自然を受容しながらエネルギーを消費して稼動する設備システムの運転を抑制する省エネ手法」を両立させることに注力し、運用後の検証によってその実効性を確認しました。

今回の選考にふさわしい設備技術者として、永く使われる建物の魅力と機能の創出をめざすとともに、省資源・省エネルギーを確固たる実効性をもって実現することを心掛け、努力を惜しまず建築・設備設計に精進していきたいと思います。

■すいせん者
大原千幸
日建設計 設備設計部長

堺ガスビルにおける快適性と機能性、省エネルギーの両立

建築設備設計に携わる一人として、居住者や建物管理者が使いやすく、住みやすい室内環境の計画を目指している。具体的には、自然エネルギー利用や高効率設備による省エネルギーシステム、長寿命化技術などを採用した環境建築について常に探求している。

以下に、自ら主担当者として設備設計を担当した設計事例の中から、「堺ガスビル」を取り上げ、居住者の満足する快適性と機能性を確保しながら、自然エネルギーの活用と高効率熱源システムによる省エネルギーを実現した建築設備システムについて示す。

●ハイブリッド空調の計画

都市型の環境共生オフィスビルとして、機能性と快適性を兼ね備えた省エネルギービルの実現をめざし、以下の2点を基本方針とした。

(1)自然換気を最大限活用したパッシブデザインによる建築設備の実現

(2)実効的な省エネルギー手法を用いた、快適性と省エネルギーの両立

都市部という立地条件に配慮しながら自然換気を最大限に活用し、天井に設置したシーリングファンによる気流感と、自然換気を活用して、これらと床吹出し空調の3種類を組み合わせたハイブリッド空調を計画、採用した。

これにより中間期には熱源運転を伴わない空調時間帯をできるだけ長くする空調システムを構築した。さらに夏期には28℃設定で快適感を損なわない空調システムを実現している。

●ハイブリッド空調制御手法

室内設定条件にある幅を持たせ、中間期の冷房は室内温度24℃までは自然換気のみで賄い、24℃以上26℃までの間はシーリングファンを追加運転し、26℃を超えたときに床吹出し空調が追加される。このように熱源機器と空調機の運転を伴った空調の開始を可能な限り遅延させ、室内の熱環境を維持しながら、省エネルギーを図る制御システムとしている。負荷が減ればモードを変更し、より少ないエネルギーで稼働する冷房モードに切り替える制御を行っている。

例えば「自然換気＋シーリングファン＋床吹出し空調」の空調モード時に負荷が減り、コイル弁開度が20%となれば減段して「床吹出し空調」を停止する。さらに減れば「シーリングファン」も停止し「自然換気」のみの空調に戻る制御としている。このようにカスケード的な空調システムの計画において、刻々と変動する自然を受容し、許容される範囲の幅で室内環境を緩やかに維持することをめざした。

●空調モードの運用実績検証

運用段階において、BEMSによるモニタリング機能とデータ解析機能を活用して、ハイブリッド空調の制御が正常に機能し、省エネルギーのための多様なモード変遷が実現されていることの検証を行った。

代表データとして、中間期10月の空調時間帯のうち熱源と空調機を用いずに56%の空調を賄った。また自然換気を活用した時間帯は全体の66%となった。

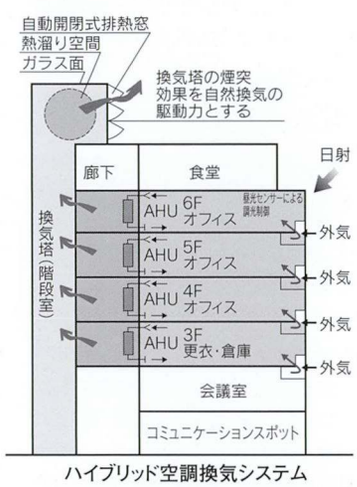
●コージェネ排熱のカスケード利用

熱源設備についてはエネルギー利用の高効率化を基本方針とし、マイクロガスタービンによるコージェネレーションシステムを採用している。

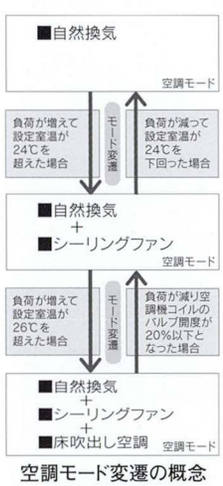
その排ガスを排ガス投入型ガス冷温水機にて熱回収した後、排ガス熱交換器により温水に変換して、冷房期間にはデシカント空調機の加熱源として、暖房期間には暖房用温水熱交換器の加熱源として、また通年の給湯負荷に対して給湯用熱交換器のそれぞれにて排熱回収を行い、排熱のカスケード利用を行っている。

排熱のカスケード利用を徹底し、高効率な運用を行った結果、年間を通して各月とも概ね60%の総合効率で推移し、安定した省エネ運用が確認できた。コージェネレーションシステムにおける年間の一次エネルギー換算省エネルギー率は、8.4%となった

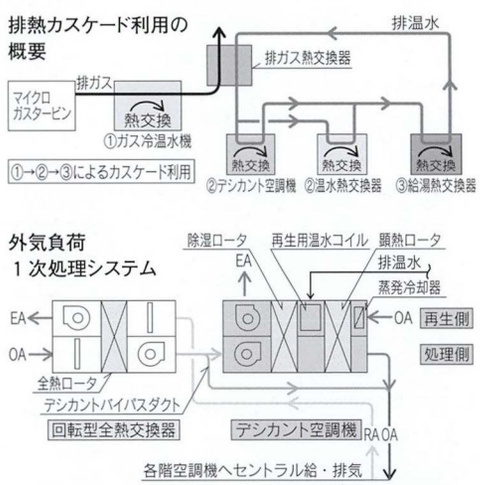
ここに報告した建物では、提案から運用に至る各段階にかかわり、魅力ある環境建築の計画手法として、「居住者の快適性と執務空間としての機能性の維持」「自然を受容しながらエネルギーを消費して稼動する設備システムの運転を抑制する省エネ手法」を両立させ、運用時検証により実効性を確認した。

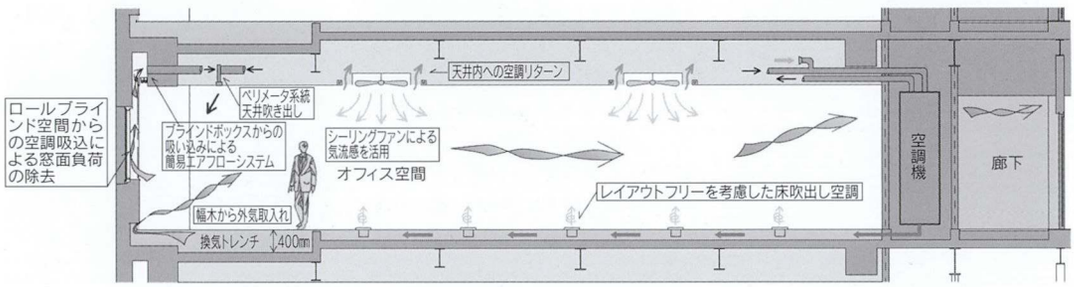


ハイブリッド空調換気システム



空調モード変遷の概念





基準階のハイブリッド空調

施工部門



中馬宏明（ちゅうま ひろあき）

生年月日　1972年4月15日生まれ
最終学歴　1997年兵庫県立姫路工業大学大学院
　　電気電子工学専攻修了

●業歴
1997年　鹿島建設㈱入社
　　本社建築技術本部
1998年　広島支店建築部設備課
1998年　広島支店住友重機械工業㈱
　　PTC岡山第二工場
1999年　広島支店住友海上岡山ビル（改修）
2000年　広島支店大正製薬岡山工場（増改築）
2001年　広島支店ニッセイ同和損保岡山ビル
2002年　関西支店武田薬品工業三技3棟
2003年　関西支店鹿島OBPビル

■青年技術者のことば

現場が抱える問題は、熟練作業員をはじめとした優秀な労務調達の困難さ、材料の価格高騰と品不足による資材供給遅れ、作業員の長時間労働による疲弊と私病等、多岐にわたっているなか、われわれは厳しいコストと工程に挑みながら、日々刻々と変わる施主要望に応え、さらに設計や自社ブランドが要求する品質を維持しなければならない。

このような局面において「安定した品質を守るために」は、「後の余計な費用の支出を防ぐ」試みが必要である。つまり、労務面での無理・無駄を排除することである。特に、設備工事は先行施工やプレファブ化などによる先行投資や計画・方策の徹底した追求が可能であり、『手間がかからない（簡素化）』、『間違わない（平準化）』、『メンテナンス性の良さ』の追求は、現場で改善の余地がある。また、この計画立案こそ、われわれゼネコン設備系社員の得意とする分野であり、ものづくりを担う者として重要な役割であると認識している。

今後とも設備工事における簡素化、平準化を推し進め、問題点に対し積極的に改善していく姿勢を持ちつづけ、社内外諸先輩の知恵、経験を生かしながら、建設業の管理レベル向上を目指していきたいと考えている。

■すいせん者

森田博信
鹿島建設関西支店建築部部長

労務平準化を目的とした設備の先行・プレファブ採用

鹿島OBPビルは高層にホテル、低層にオフィスを持つ複合商業施設である。工事には逆打工法を採用し、着工後約1年間は躯体・外装等の工事、竣工までの約1年間で延床約7万㎡の仕上・設備・外構工事を完了させる必要があった。

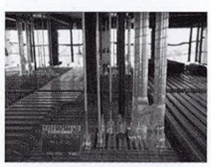
設備工事は労務面と調達で優位さを見出し、電気及び空調設備についてはホテル部分・オフィス部分・共用部分に分けて3社に発注を行った。なお、衛生設備のみはスプリンクラ設備をはじめとして機能が建物全体で連続することと竪管等の先行施工により比較的労務が平準化できるという予測により1社への発注とした。

着工後約10カ月を過ぎた段階で、高層ホテル部分はできるだけ集客部分を広げたいとの施主の意向でプランが変更され、本来あるべき位置・大きさにシャフトや機械室が配置されず、問題が増える傾向にあった。さらに婚礼利用のため、できるだけ早くお披露目したいという施主要望を解決すべく、役所竣工検査時期が当初より1カ月前倒しになり、仕上以降の工程を圧迫した。

●先行施工と省力化工法の試み

■先行施工

後工程の流れをスムーズにすることの重要さを協議し、



PS部先行施工状況

スラブ構成の変更を行い、先行できるものはスラブコンクリート打設に先行して施工した。

これら先行施工の効果は、十分な時間と安全な足場上での作業を可能としたため、品質低下を招く危険性を除去でき、安定した労務人員で作業が進行できた。

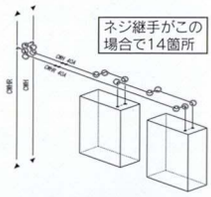
■省力化工法

省力化施工は、建設現場が抱える『人手不足』や『能力（技能）不足』を補い、『短工期』を可能にするものである。さらに、『施工者瑕疵』を回避する目的もある。その内容は、以下のパスワードで要約できる。

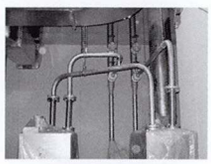
・品質を容易に確保する。
・ヒューマンエラーの機会を減らす。
・現場の労務を減らし品質を確保する。

⑴冷却水ベンダー配管

オフィス空調には水熱源ヒートポンプパッケージエアコンが採用されており、冷却水の有効活用のために1台目で利用した冷却水を2台目でさらに利用する方法が取られていた。また、場所の制約により2段組みで熱源機が設置されるものもあった。図に示す配置で在来のネジ継手を採用した場合には、この部分のみで14箇所の継手が存在し、非常に狭い空間であるために、施工段階での品質管理が重要となった。



一般的なネジ接合の場合



配管取付状況

これを改善したのがベンダー配管（加工管）である（写真）。工場加工により安定した品質が確保でき、同じパターンがいくつか連続してある場合（10フロア共通）にはコスト的にも有利となる方法であった。

⑵電気幹線へのバスダクトの採用

オフィスフロア各階の内装工程では、廊下の天井施工が最下階と最上階で最大3カ月半程度ズレることが分かった。このズレは、上下で見ると耐火被覆吹き付け中と仕上のOAフロア施工中という大きなギャップとなり、一般的な幹線方式では建築的に“ダメ”となる部分をつくるか、ぶつ切りの幹線施工となり、非常に不経済となる。

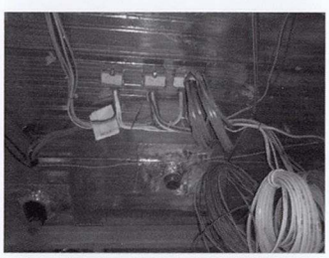
よって、バスダクトを採用した。工程のふらつきに左右されずフロアごとの仕舞がついたこと、人手不足やテナント入居フロアにおけるプラン変更等が原因の施工遅れにも問題なく対応でき、在来工法なら幹線をどこかでまとめて集積するためスペースや養生面で現場の支障となる部分が多いのに対し、コンパクトな上、施工上の“ダメ”をつくらないことで余計な費用が発生しなかったことに大きなメリットがあった。



バスダクト施工

⑶客室内ケーブルのプレファブユニット化

ホテルフロアの電気設備は客室内がOA化やIP化、キーシステム連動等IT化の影響で複雑になっており、短工期でかつ誤配線防止を図るには作業員の技能だけでは対応できない。これを回避する方法として、プレファブユニットケーブルを採用した。ケーブルの色別等により認識しやすく間違いにくいことが最大のメリットで、建築副産物の抑制もできた。耐火被覆施工前に施工したことで、大勢の人工の投入等余計な支出の防止に大きな役割を果たした。



プレファブユニットケーブル

⑷簡易ライザー配管

冷却水管は竪管が400A、定尺5.5mで、重量約500kgであった。また、当該シャフト寸法が非常に狭い上に、デッキ構造を変更することが場所的に不可能であったため、コンクリート強度発現後ようやく鉄板の切断を行えるという条件から、本格的なライザー配管は採用できなかった。



簡易ライザー配管

よって、スラブ強度発現後に施工でき、単体のスリーブに挿入する方法として、配管同士を堅固に結ばず、吊治具のみ共有させることで、3層分の工場加工配管を同時に3本吊り上げる簡易ライザー配管を採用した。

事前に穴位置と天候（風）を確認の上で実施した結果、非常にスムーズに施工ができた。また、現場溶接箇所を足場上の作業とならないよう計画したことで、安全面及び品質面で確実な作業が行えた。

●効果と今後の課題

当工事では、前述した省力化工法の採用をVEの実現を足がかりに目に見えない労務人工の膨れ上がり防止と、元積人工の見直しに対して約10%の労務削減を実現できた。これらは特に後工程での労務を削減できたため、手待ち作業の緩和と流れ作業の実現、危険作業の削減を可能とした。

現在の建築現場における問題を逆に利用して、労務の平準化を行いながら品質を確保するという観点で、省施工の可能性について手順や品質に立ち戻りながら検討・実施を推し進めてきた。その結果、厳しい工期とコストに対し、余分な費用の発生を抑える、つまり無理・無駄・手戻りの排除とともに、安心できる施工管理でQCDSEすべてにおいて良好な結果を得ることができた。

今後の課題としては、「2007年問題」を見据え、人材育成をもう一つの柱として、前向きな意識への改革と自己啓発ができる体制づくりに励み、協力会社社員をマネジメントしながら主体性を持った動きに変えていくことが必要であり、かつ、新たな現場管理の手法として役立つことになると思われる。



入江真吾（いりえしんご）

生年月日　昭和46年5月28日
最終学歴　神戸大学大学院自然科学研究科
　　建設学専攻修了
●業歴
平成8年　㈱大林組入社
平成8年　札幌支店営業第一部見積課
平成8年　札幌支店工事現場
　・国際電気千歳新築工事
　・(北) 弘電社本社新築工事
平成12年　大阪本店工事現場
　・NHK大阪放送会館建設工事
平成13年　本店建築生産技術部

■青年技術者のことば

当工事のような特殊な施工計画および施工技術検討に携わることができたことは、私個人にとって非常に貴重な経験になったと考えている。

一連の計画立案、技術的検討を実施する際、自分の知識不足、計画に対する配慮の無さ、判断時の根拠となる実施経験不足を痛感することが多かった。

また、全体計画を実施計画レベルにブレークダウンする際の困難さ、多岐にわたる技術的問題の多さには、閉口させられた。

しかし当工事における個々の技術的検討の経験とそこから得られた考え方は、類似計画だけでなく、他の計画の技術検討にも、応用できるものと考えており、貴重な知識的財産となった。

今後も、技術者として社会に貢献できるように、日々の研鑽を積み、技術的知識の向上に努めていきたい。

■すいせん者

奥田和弘
大林組本店建築生産技術部
グループ長

大規模鉄骨造素屋根工事のスライド工法による施工

真宗本廟両堂等御修復御影堂仮設素屋根工事は、歴史・文化的価値の非常に高い東本願寺御影堂全体に、長さ90m×幅80m×高さ49mにわたる大規模鉄骨素屋根を架設する工事である。工法としては、一カ所にて鉄骨屋根の一部分を組み立て、連結して、順次片側へ移動させていくスライド工法が採用された（写真1）。

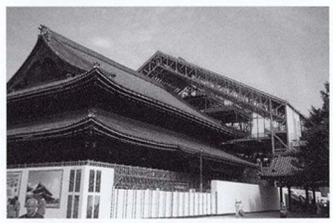


写真1　施工中の素屋根外観

この大規模鉄骨素屋根のスライド工法を実施するにあたり、様々な技術的課題が生じた。

●全体計画の概要

素屋根は、御影堂片側に設置した作業構台上で、2スパン（14.1m）ずつ組み立て、連結し、順次6回に分けてスライドさせた（図1）。素屋根断面形状は、素屋根の柱脚部（スライド支承レベル）が、片側（東側）は地面レベルであるが、一方（西側）は周辺既存建屋の上空にスライド用の構台を組み、その上をスライドさせるため、左右非対称となった（図2）。

スライド1ブロックの重量は約300トン、最終のスライド牽引力は約220トン程度である。

●素屋根組立柱の弦材形状検討

スライド方向に直交する断面形状が左右対称ではないため、柱脚部に素屋根自重および変形による大きな水平力が発生することが想定され、その処理方法が技術的課題となった。特に、この素屋根の水平反力に対し、西側のスライド用構台が構造的に成立しないことが判明した。

そこで、素屋根の柱トラス架構および脚部支承位置を全面的に見直すこととした。数パターンの構造解析を実施して、その結果、素屋根の変形・傾斜が若干大きくなるが、発生する水平力を小さくすることができる柱トラス架構形状と支承位置の組み合わせを採用した。次に、組立柱に作用するこの水平力をどのように処理するかを検討した。脚部の水平反力方向への変位を許容すれば、発生する反力は小さくなるが、非常に大きな変位を許容する必要があり、スライド工法を念頭に考えた場合、現実的ではない。そこで、相応の水平力は発生するが、水平反力方向の変位を拘束した状態でスライドさせる計画とした。

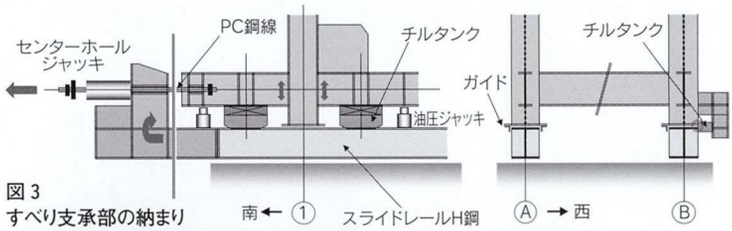


図3
すべり支承部の納まり

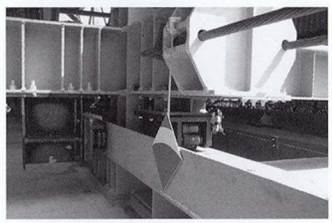


写真2　すべり支承前面

●すべり支承の検討

すべり支承部（写真2）には、スライド方向の摩擦係数を小さくするため、ローラー型の支承（チルタンク）を採用し、鉛直荷重方向と水平変位拘束方向に設置した（図3）。

また、スライドレールと柱脚部ローラー支承のディテールを工夫することにより、スライドレールH鋼を鉛直および水平両方向の走行レールとして機能するように計画した。

柱支承部は、鉄骨建方時には鉄骨柱下にプレートを挿入して、直接スライドレールに接地した状態とし、スライドを実施する際に、ジャッキアップしてプレートを撤去し、ローラー支承に荷重を伝達するようにした。この荷重伝達機構の盛り替えにともない生じる脚部変位・回転変形に対し、すべり支承が追随できるようにチルタンクの取り付けディテールを検討し、硬質ゴムを挿入するなどの対策を実施した。

●スライド牽引計画

スライド牽引装置（写真3）は、PC鋼線を素屋根柱脚部に緊結し、センターホールジャッキでジャッキストロークごとに手繰り寄せる機構とした。スライド中は、各柱にローターリーエンコーダーを取り付けてスライド量を自動計測し、各柱のスライド量の差異が10㎜以下となるように、ジャッキの油圧およびストロークをパソコンにて自動制御した。

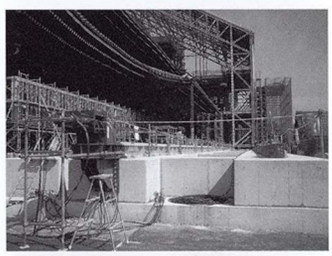


写真3　牽引装置



写真4　ダミーによる加速度実験

牽引する際、PC鋼線の長さが非常に長くなる（最長時約78m）ことから、牽引時のPC鋼線の“延び”と“もどり“による素屋根地切り時のしゃくり挙動が当初問題視された。対策として、事前にこの”しゃくり“による素屋根の揺れ（加速度）がどの程度になるかを実験にて確認した（写真4）。

実験の結果、“しゃくり”挙動による加速度は最大でも30Gal程度とわかり、素屋根スライド実施にはほとんど影響はないと判断した。念のため実施においては、PC鋼線を配線する架台を設置し、極力たわみを少なくする対策をとった。

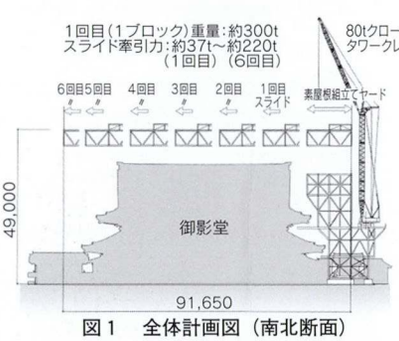


図1　全体計画図（南北断面）

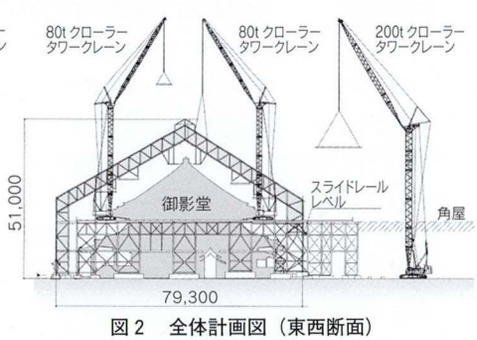


図2　全体計画図（東西断面）

●まとめ

素屋根スライド工事は極めてスムーズに完了することができた。局部的な検討結果等は、様々な計画に応用できるものと考えており、実施計画への水平展開が可能と期待している。

第３次大阪府建築物安全安心実施計画

菊川　亮
大阪府建築都市部建築指導室建築企画課企画推進グループ技師

平成７年１月に発生した阪神淡路大震災を教訓に、平成11年に大阪府、府内特定行政庁及び関係団体で構成する「大阪府違反建築等防止推進会議」を設立し、「第１次大阪府建築物安全安心実施計画」を策定、さらに平成14年に計画を見直した「第２次計画」を策定し、違反建築物対策を推進してきた。

一方、成熟社会を背景にした既存建築物の有効活用対策や、欠陥住宅や悪質リフォーム対策、住宅の防犯対策、六本木ヒルズの自動回転ドア事故を契機とした事故防止対策、さらに社会問題となっているアスベスト建材による健康被害問題への対策など、建築物の新たな安全安心に対するニーズも高まってきており、従来の建築基準法の最低限の技術的規制だけでは、対応できない時代となってきている。

このような状況を踏まえ、これまでの施策に、建築物の新たな安全安心のニーズに対する施策を加え、より幅広く安全で安心な建築物を確保することを目的に、『第３次大阪府建築物安全安心実施計画』を策定した。

今後取り組む具体的な施策

本計画では抽象的な表現は避け、可能なかぎり具体的に記載している。これは、最初にできるだけ具体な施策を提示しておくことで、実施時点での各論反対を避け、施策を確実に実施し、後のフォローアップに繋げる効果を狙ったものである。

施策は合計57あり、大きく以下の６つの体系に整理し、施策ごとにその実施主体も明記している。

１）工事監理制度のさらなる普及啓発

工事監理制度は違反建築対策の根幹であり、欠陥住宅や手抜き工事の被害防止にもつながるものである。しかし、工事監理の必要性に対する建築主の認知度はまだまだ低く、工事監理が形骸化している場合が多い。このような事態を避け、適正な工事監理がなされるよう、工事監理者と建築主の双方に対し工事監理の普及施策を推進していく。

２）中間検査及び完了検査の受検促進



建築工事の途中段階及び工事完了時に特定行政庁または指定確認検査機関による検査が義務づけられているが、大阪府内での完了検査率は平成16年度実績で約75％と、いまだ十分ではない。このため、中間検査の徹底及び完了検査率80％以上の達成を目標に、特定行政庁と指定確認検査機関などの関係団体等が一体となった受検促進の取り組みを行う。

３）違反建築物対策の総合的な推進〔早期発見、早期是正の徹底〕

違反建築を未然に防止する事前対策と、違反建築物に対する事後的対策の両面から対策に取り組む。また、完成後の不適切な維持管理や改修等により違反状態となっている既存建築物に対する取り組みも重要であり、既存の違反建築物に対して、警察機関及び消防機関と連携し、是正の取り組みに努める。

４）既存建築物対策の推進〔定期報告制度の拡充と、既存建築物再生の推進〕

成熟社会においては、既存建築物（ストック）をいかに有効に活用していくかが大きな課題となっており、平成16年の建築基準法改正においても既存建築物への対策が強化された。この法改正の趣旨も踏まえ、既存建築物に対して適切な措置を講じていく。

５）建築物の新たな安全・安心対策の推進

・欠陥住宅やリフォーム工事等におけるトラブルの防止

近年、欠陥住宅問題や、住宅のリフォーム工事におけるトラブルが多発し、社会問題となっている。被害事例の収集や、適正な工事見積金額や契約方法など工事前に注意すべき事項の検討を行うとともに、消費者団体と連携し、消費者に対する周知・啓発に取り組む。

・建築物における防犯対策

大阪府内では毎年約２万件の侵入盗が発生しており、近年増加傾向にあることから、建築物の防犯対策が重要な課題となっている。このため、防犯の設計指針の改定や、防犯対策の周知に取り組む。

・建築設備における事故対策への取り組み

建築物には自動回転ドア等、自動運転による設備が設置され利便性が向上しているものの、これら設備における事故も多く発生している。このため、事故に関する情報を収集・分析し、この情報を設計者や建設事業者、建築物の所有者・管理者及び利用者が共有する「大阪府建築物に附属する特定の設備等の安全確保に関する条例」の運用を図るなど、事故の再発防止対策に取り組む。

・建築物におけるアスベスト問題への取り組み

近年、アスベストによる健康被害が社会問題となっているが、これまで、建築物においても「吹付けアスベスト」や「アスベストを含有する建材」が多く用いられてきた。特に吹付けアスベストは、劣化や損傷した場合アスベストが飛散する恐れがあると言われている。

このため、アスベストに関する正確な情報を広報するなど、府民への情報提供・啓発に取り組む。

６）府民への広報と情報開示の推進

本計画で推進する各種施策及び、各種情報の閲覧方法等について、ホームページ、広報紙、会員の会報誌等、様々な媒体を通じて広く府民や建築関係者への周知に努める。

目標の達成に向けて

本計画の策定にあわせて、より幅広い対策を行うため、これまでの計画の推進組織である「大阪府違反建築等防止推進会議」に新たに府の消費者関係部局を加え、名称も『大阪府建築物安全安心推進会議』に改正した。

本計画を推進していくためには、行政だけでなく、関係団体との密接な連携が重要である。推進会議には、行政、警察、消防、指定確認検査機関及び建築士、建設業、不動産業等の業界団体など、計69団体に参画していただき、行政以外のメンバーの方が多くなっている。官民一体の取り組みの重要性が唱えられて久しい中、大きなマンパワーを有するこの会議の役割は大きいと考えられる。

（きくがわ　りょう）

＊

本計画は、下記ホームページからダウンロードしていただくことができます。

http://www.pref.osaka.jp/kenshi/kikaku/anzen/ihankaigi/index.html

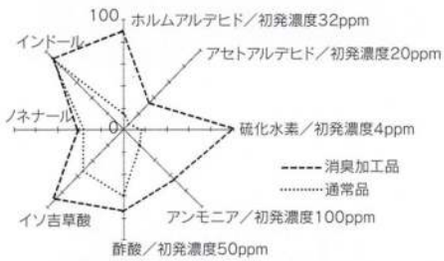
抗菌・防汚のカーテン

蒲田恒彦
㈱川島織物インテリア事業部商品開発部技術開発チーム



2005年9月に発売した川島織物の新しい見本帳「assecelyst（アッセセリスト）」は、掲載の203柄のうち、シャワーカーテンなどを除く200柄、570アイテムに、VOC（揮発性有機化合物）分解、抗菌、消臭機能に優れる光触媒技術を応用したセリスト加工を施している。また、白地の多いレース商品には、汚れの付着や黒ずみを防ぐソイルシャット加工商品のアイテム数も増やし、洗濯時に汚れが落ちやすい加工であるフレッシュコート加工商品、導電性繊維を使用し、㈳日本インテリアファブリックス協会（NIF）の認定する制電マーク商品などをラインナップする。

続く10月発売の医療・福祉・教育といったコントラクト市場向け見本帳「green days」では、上記セリスト加工商品などのほか、㈳繊維評価技術協議会が、医療機関およびそれに準ずる施設での使用を対象とする繊維製品として認定するSEK赤ラベル〈制菌加工（特定用途）〉取得商品を充実。さらに、抗菌剤を繊維に練り込みSEK赤ラベル〈制菌加工（特定用途）〉商品認定取得で求められる洗濯耐久性を一層向上させたマーサクリーンシリーズ、SEK赤ラベル〈制菌加工（特定用途）〉に消臭機能を付加した“SEKプラス消臭”商品など、抗菌・防汚さらには消臭機能を強化したカーテンやロールスクリーン商品を紹介している。



【実験方法】
検知管法／5ℓのテドラーバッグに試験ガス3ℓと100㎠の試料（生地）を入れ、2時間後の濃度を検知管で測定する。

green daysで登場したSEK+消臭の新商品の各臭気成分に対する効果（2時間後の消臭率%）

カーテンと抗菌・防汚加工

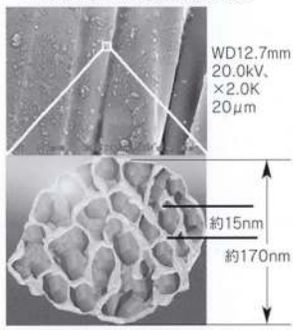
1990年代半ばに起こった抗菌製品ブームに先立つ80年代初頭、病院・医療施設向けに抗菌加工を施したカーテンを発売。以来、色柄などデザイン面で求められるクオリティに応じ、また防炎性能や耐光性、洗濯やクリーニング適合性など、抗菌・防汚以外にカーテンに求められる他の機能との整合性を実現しながら、医療施設以外の一般向け商品にも抗菌・防汚機能の拡大・充実を図ってきた。1995年のフレッシュコート加工商品発売に続き、2000年には、交通量の多い関東地区の消費者からの要望に応え、繊維表面のミクロ単位の凸凹を埋める特殊加工を施し、カーボンブラックや関東ローム粉など7種類の汚れ成分を対象にした自社防汚性能試験で性能を確認した防汚加工、ソイルシャット商品を発売。

2003年7月の改正建築基準法施行に先立つ2001年、主にホルムアルデヒドなどのVOCの室内放散に起因すると考えられるいわゆる「シックハウス」への対応機能加工として、抗菌・防臭機能のほかにVOC分解機能も優れるセリスト加工商品を発売。

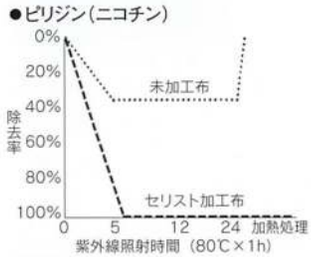
ナノテクを駆使したセリスト加工

日本が誇る先端科学、光触媒技術を応用したセリスト加工は、発売以来技術開発を重ね、より微弱な紫外線での反応効率を上げることに成功し、現在バージョンⅢが発売されている。

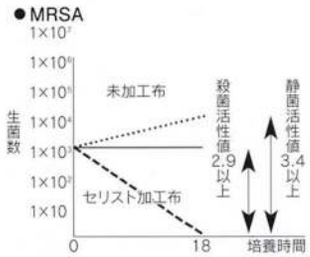
▼セリスト加工された繊維表面上の光触媒電子顕微鏡写真



▲セリスト加工用に開発した光触媒のイメージ図



【実験方法】
1. 試料の質量と異臭成分・空気の混合ガス量1リットルに対して試料6gを臭気袋に入れる。
2. 暗所に24時間静置し、装置・試料への吸着分を安定させた後、紫外線照射を開始。
3. 所定の時間紫外線を照射した後の混合ガス中の悪臭成分の残留濃度を測定する。
紫外線照射強度：約3.0mW/㎠



【実験方法】
紫外線3.0mW/㎠を照射しながら培養した。

繰り返しとなっている。一方セリスト加工を施したカーテンは、光触媒作用により、そこに紫外線があれば、生地に吸着された有害物質が分解され、水と炭酸ガスに分解される。有害物質は絶えず生地へ吸着されているので、これの繰り返しにより次第に有害物質が低減する。

セリスト加工に用いている光触媒は、1つの結晶の粒子径が約15㎚前後の超微粒子を結合させ約170㎚前後の固まりにし、独自開発のバインダーでファブリック表面に固着させている。反応効率の良い超微粒子にすることで、光との反応効率を高めることが可能になるが、セリスト加工に用いる光触媒は、1グラムあたり約100㎡前後の表面積を持ち、優れた効果を発揮する理由もここにある。光触媒は有機物をことごとく分解する特性があるので、生地そのものあるいは染料分子をこの作用からガードする必要がある。セリスト加工は、高度な photocatalyst applied chemistry（光触媒応用化学）、nano technology（ナノテクノロジー）、celamic science（セラミクス科学）、fabric engineering（ファブリック技術）といった科学技術を駆使し、この保護剤に関しても繊維用として最適化しており、生地そのものの強度を劣化させるとか、染色堅牢度を低下させることはない。

現在、来年発売の商品への展開を睨み、さらに機能強化を図ったセリスト加工Ⅳを準備中である。また、最先端科学の知見、繊維加工技術などを統合的に応用した本年発売の“SEKプラス消臭”商品に続く統合型抗菌・消臭機能加工商品の開発にも力を入れ、抗菌・防汚機能加工がより強く求められる高齢社会時代のインテリアシーンのクオリティアップに応えていく。（がまた つねひこ）

REPORT－1

建材委員会主催

工場・商品PRセンター見学―日本インシュレーションを訪ねて―

松本　章
建材委員／東畑建築事務所

建材委員会では毎月の委員会の中で新建材・話題の建材を取り上げ、委員の賛同を得られた建材を「建築と社会」を通じて紹介している。その一環として、9月13日に建材工場見学会を、本部(20名)と東海支部（10名）による合同開催として行った今回の見学先となった日本インシュレーション㈱は、今アスベストで話題になっている鉄骨の耐火被覆材料を主力商品として製造販売をしているが、アスベスト問題をいち早く見据えノンアスベスト建材の開発に早くから取り組んだ会社であることから、製造過程の視察を踏まえた工場見学をお願いした。



一行はまず岐阜県にある商品PRセンターと中央技術研究所を視察した。ここでは、同社が欧米17カ国で特許を持つゾノライト系けい酸カルシウム建材の説明を受け、実際の使用例を見学したが、耐火被覆材としての機能だけでなく意匠材としても優れた材料であることを一同再認識をした。また、ゾノライト系けい酸カルシウム建材とトバモライト系けい酸カルシウム建材との性能比較の実験ではゾノライト系けい酸カルシウム建材の優秀さが実証された。中央技術研究所では、商品開発のための最新の分析・試験装置や試験方法の解説を受け、商品開発にいたる過酷な実態を体験することができた。次に三重県にある北勢工場へと向かい、タイカライト（ゾノライト系けい酸カルシウム板）の製造を視察した。大規模な工場に入ると各工程の全てが自動化され、人間の仕事はコンピュータによるチェックがほとんどであることに驚いた。



設計活動の中での材料選択における情報収集についてはカタログやメーカーからの説明によるものが大半であるが、今回の見学会を終えて感じたことは、原材料から製造方法までを実際に目にすることにより、より深い材料選択ができるのではないかということである。建材委員会では、年１回建材工場見学会を開催しているので、多くの会員の参加をお待ちしている。

（まつもと　あきら）



REPORT－2

企業からの発信

建築物の火災安全に対する問題提起を

金子一郎
日本インシュレーション株式会社

鉄骨耐火被覆材は、日常あまり意識することがない機能材料であるが、火災時に耐火被覆材が機能しなかったことが要因の一つとなり建物が崩壊したWTC崩壊やマドリード市高層ビル火災の事例に見るように、鉄骨造建築物の安全は構造材のみでなく、耐火被覆材等とのシステムによって守られていることを物語っている。そして、テロや放火のような故意による火災の脅威は、最低基準を提示している現行の防災法令の基本概念の修正をも提起している。

今回ご見学頂いた商品PRセンターは、わが国けい酸カルシウム耐火被覆材市場のシェア80％を有するトップメーカーである当社が、上述のような建築耐火の諸問題に対して情報発信すべく平成16年６月に開設したわが国でも類を見ない耐火被覆材の展示場である。耐火被覆材等の実大モックアップを展示の中心として、耐火性能を保証する材料組成や品質管理の仕組みから施工後の仕上がりまでを、実物に触れてご理解頂けるような展示としている。主力製品「ニュータイカライト」の基材である「ゾノトライト系けい酸カルシウム材」の開発史についても展示している。





本年10月には、不燃内装材「タイカライトウッド」を用いて展示室のリニューアルを行ったところであるが、当社は商品PRセンターを通じて、商品PRのみならず、「建築耐火ミュージアム」を目指して、耐火材料メーカーの立場から建築物の火災安全に対する問題提起と新技術の情報発信を行っていく所存である。

（かねこ　いちろう）

●大正時代の建築と建築人

ワシントンは政治の地



世界一の図書館にて

石田潤一郎

大正元年12月8日（日曜日）

朝飯后海岸散歩。例の桟橋式歩道の上は車馬の往来を禁ず。只老少婦女の為ローリングチャーと称するゴム輪の車に二三人乗せて後押しなして見物せしむ。此後押車夫は多くは黒奴なれども白人もあり。日本の人力を悪くは云ひ（へ）ない。中には二躰連れがひっ付て乗て行くものもある等怪しからぬ。午后十二時半ホテルの馬車に送られて停車場に至り、電車に乗りてヒラデルヒヤに着。三時半の急行にてワシントンに向ふ。

午后六時半ワシントンに着。直に一のルームを見付けて一泊す。二人にて二弗。

お神三に教えられて八時頃議会図書館を見る。壮麗目を驚かす。ホールは都て以太利大理石の丸柱数百本並列し（伊太利ルネーサンス式）、惣坪440'×470'にして1888年より97年に亘る建築にして建築費6,180,000弗。床及び天井はモザイクの極彩色。閲覧室は丸形にして中央に事務処あり。注文の本は床下より自動的に上てくる。四百万より五百万部の書冊を蔵する丈けの広さを有すれども、現在は百五十万部を蔵すると云ふ。使用人三百人なりと云ふ。

大正元年12月9日（月曜日）

ワシントンは十哩平方の廣さあり。海岸の尤近き（大西洋）処迄185哩あり。今より百二十年前の奠都にして、政治的の土地にして商工業の地にはあらず。お役人の数約四万人。人口258,000人。

午前十時自動車を雇て市中見物をなす。国会議事堂に入る。1827年に落成せるものにして設計者はT.U.Walterと云ふ。クラシックスタイルである。



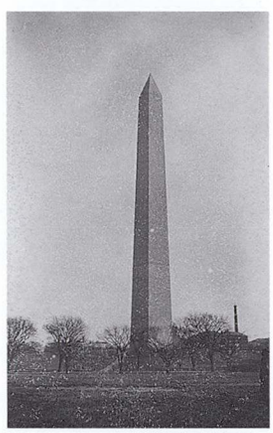
連邦議会議事堂

ドームの高さは268'ありて上に自由の神像を安置す。像の大さ19'あり。建築費16,000,000弗を要せりと云ふ。地所は五十エーカーある。パークの中に立てり。大統領即位式は当玄関前の石壇の上にて挙行されると云ふ。玄関の銅の扉はテンドルフロジヤーと云ふ名工の作にてコロンブス一代記を高彫に彫刻せり。こんな永たらしい講釈を書て居ては迚も書切れぬからやめる。

貴衆両院の議場等を一覧して博物館、美術館、ホワイトハウス等有名なる建物を歴覧して、扨是にて一通りの名所見物お約束の金丈けの義務を尽せり。是から市中を見物するにはもー壱弗宛と例の通御者の定文句。又かと腹も立つが見たさも見たしと云ふ訳にて、足元を見られつつ市中を乗廻す。其寒き事鼻も耳も落ちん計り、人間のアイスクリームたらんとして自動車を御免蒙り、ランチに飛込んで腹を拵へ宿に帰りて休息す。

大正元年12月10日（火曜日）

午前宿を立出。南北戦争記念倶楽部に至る。さしたる立派なるものにあらず。中坪の構造一寸気に入ったり。出てモニュメント・オブ・ワシントンに登る。是は大理石像の真角なる記念碑にして、地上十間角、高555'、内部はエレベーターにて頂上に昇降す。五百尺の上に登れば華府一望の中にあり。実に大観なり。階段にて登れば二十分程を要すべし。段数凡そ八百五十級。下りは試みに徒歩して下る。こむらがびりびりする。



モニュメント・オブ・ワシントン

午后三時ニューユニオンステーションに至りて紐育行急行車に乗りて帰る。午后八時半紐育着。此間250マイル。一時間50マイルを走る。此旅行四日間一日20弗を費す。

1912年12月7日から4日間、設楽貞雄はニューヨークを離れて、アトランティックシティに1泊、ワシントンに2泊する。彼はロサンジェルスからあとは柴田という滞米歴13年という人物と行動をともにしているが、この時も柴田氏と一緒である。掲出した分の冒頭、12月8日の朝「海岸散歩」とあるのは、「米国中比肩すべき処なしと云ふ」アトランティックシティの海水浴場である。同市からフィラデルフィア経由でワシントンに向かっている。

ワシントンでは、連邦議会、ホワイトハウス以下、まさに「一通りの名所見物」を済ませているが、その中で、彼が最初に訪れた議会図書館は今日の建築ガイドブック類では取りあげられることが少ないので、簡単に説明しておきたい。

議会図書館は連邦議会議事堂の背面側（東側）にある。現在は3つの建物からなるが、この当時は現在ジェファーソン・ビルディングと呼ばれている館だけであった。1800年に連邦議会の附属図書室として設置され、設楽が記すように、1897年に現在の建築物が竣工した。設計はJ. L. SmithmeyerとP. J. Pelzである。

「世界で最も大きく、最も高価で、最も安全な図書館」と称されてきただけあって、「壮麗目を驚かす」という設楽の感想は今日でもそのまま当てはまる。ホテルの「お神三」＝おかみさん（すばらしい宛字！）に勧められてというのがおかしいが、誰もが知る名所であったのだろう。なにしろ中央のドームは23金でメッキされているというのだ。この時代から夜8時すぎても入館できたというのもすばらしい。なお、日本の国会図書館は占領下の1948年にこの図書館をモデルとして設置されたものである。

12月9日の項の結びの、ギャグのかまし方にも注目。適当にひらがなに開いて引用しよう。「またかと腹も立つが、見たさも見たしというわけにて、足元を見られつつ市中を乗りまわす。その寒きこと、鼻も耳も落ちんばかり、人間のアイスクリームたらんとして自動車をごめんこうむり……」。10日にワシントン・モニュメントに登り、「下りは試みに徒歩して下る。こむらがびりびりする」も、元祖「何でも見てやろう」というべき設楽的行動でおかしい。

（京都工芸繊維大学教授）

美術館の遠足9/10

「美術館の遠足」は、アーティスト藤本由紀夫氏によるサウンドオブジェ、サウンドインスタレーション、ワークショップ、レクチャー、関連コンサートで構成された一日だけの展覧会で、1997年から始まり、９回目を迎える。



2004年の『美術館の遠足』会場風景

美術館は「芸術を体験する空間」として、ハードとソフトの両面において積極的な役割を担い、作家は「日常の空間を変換する装置としての作品」を用意し、鑑賞者は全感覚でアートとかかわることが要求される。

西宮市大谷記念美術館の様々な所に配された藤本氏の作品を、来館者は自ら探し体験して、作品、美術館との新しい出合いの場をつくり出す。

会　期　2005年12月23日(金・祝)11：00～21：00
会　場　西宮市立大谷記念美術館
　　西宮市中浜町4-38　阪神電鉄「香櫨園」駅
入館料　一般500円、大高生300円、中小生200円

「柳宗悦の民藝と巨匠たち」展


柳宗悦　58歳ごろ

濱田庄司や河井寛次郎との交流の中で日用の雑器に美を見出し、大正14年、「民衆的工藝」を表す「民藝」を創始した柳宗悦（通称・そうえつ、1889～1961）は、日本各地を踏査し、幾多の民藝品を蒐集した。

柳宗悦の蒐集した民藝品、民藝運動にかかわった巨匠たちの作品（約150点）を取り上げ、「民藝」の意味を再考しようとする展覧会が京都文化博物館で開かれる。

会　期　2005年12月17日(土)～2006年１月29日(日)
　　10：00～18：00
　　月曜日と12月28日～１月３日は休館
会　場　京都文化博物館・４階特別展示室
　　京都市中京区三条高倉　TEL075-222-0888
入場料　一般1000円、大高生700円、中小生400円
展示品　柳宗悦「無有好醜（好醜有ることなし）」等
■講演会「柳宗悦の仕事とその根本思想」
講　師　日本民藝館学芸員　尾久彰三
日　時　2006年１月14日(土)　14：00～15：30
会　場　京都文化博物館・別館ホール（定員200人）
申込み　往復ハガキに、住所・氏名（返信面にも）、電話番号・参加人数（２名まで可）を明記し、〒604-8183京都市中京区三条高倉、京都文化博物館「柳宗悦の民藝と巨匠たち」係へ。
※参加には、同展もしくは常設展の入場券が必要。
招待券希望者は日本建築協会(TEL06-6946-6981)へ。

「ミュシャ財団秘蔵 ミュシャ展」


「ボヘミアの唄」1930年頃
©Mucha Trust2004

チェコ共和国東部モラヴィア地方の小さな町イヴァンチッツェに生まれたアルフォンス・ミュシャは、1894年に当時の伝説的な女優サラ・ベルナールのポスター《ジスモンダ》を制作し、一躍、時代の寵児となる。

その後、流れるような髪をもち華やかに着飾った美しい女性などのポスターや版画で一世を風靡し、アール・ヌーヴォーを代表する作家として、華々しい活躍を見せた。

本展覧会では、ミュシャ財団の全面的な協力を得て、ポスター、版画、油彩画、彫刻、アクセサリー、ミュシャ自身が撮影した写真など240点を展示する。

会　期　2005年11月19日(土)～2006年１月29日(日)
　　10：30～19：30
　　月曜日と12/31休館(ただし12/26、1/2、1/9除く)
会　場　サントリーミュージアム〔天保山〕
　　大阪市港区海岸通1-5-10
　　TEL06-6577-0001
入場料　大人1000円、大高生・シニア700円、中小生500円
招待券希望者は日本建築協会(TEL06-6946-6981)へ。

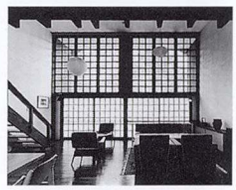
「ナポレオンとヴェルサイユ展」

1804年12月２日のナポレオン皇帝戴冠から200年を記念し、ヴェルサイユ宮殿美術館が日本のために企画した大規模なナポレオン展である。ヴェルサイユ宮殿美術館を中心に、宮廷画家ダヴィッド、ジェラール、グロらの絵画、彫刻、宝飾品など150点を集め、フランス革命からナポレオンが皇帝として活躍した激動の時代までの美のスタイルを一堂に展観する。また会場では、当時のインテリア、装飾様式を再現し、ナポレオンの時代の息吹を甦らせる。


ダヴィッド《サン＝ベルナール山からアルプスを越えるボナパルト》 ©Jean-Marc Manaï,Château de Versailles

〔神戸展〕
会　期　2005年12月３日(土)～2006年３月19日(日)
　　9：30～17：00（ルミナリエ中19：00まで）
　　月曜日休館(1/9開館、1/10及び12/29～1/3休館)
会　場　神戸市立博物館　TEL078-391-0035
　　神戸市中央区京町24
招待券希望者は日本建築協会(TEL06-6946-6981)へ。
〔東京展〕
会　期　2006年４月８日(土)～2006年６月18日(日)
会　場　江戸東京博物館　TEL03-3626-9974
入場料　一般1,300円、大高生950円、中小生500円

前川國男建築展と講座


前川國男自邸 1942年
撮影・吉村行雄

パリでル・コルビュジエの下で２年間、モダニズム建築を学び、帰国後アントニン・レーモンドの日本事務所に入り建築の基礎や技術を学んだ前川國男（1905～1986）の独立後の初仕事は「森永キャンデーストアー銀座売店」（現存せず）。時間の流れに耐えて豊かに成熟し、環境に溶け込みながら風景を形づくることができる建築のあり方を模索した。

本展では建築図面約150点、模型約30点のほか、スケッチ、写真、資料に、前川がかかわったコルビュジエやレーモンドの建築図面も加え、約250点を展示する。

■モダニズムの先駆者 生誕100年 前川國男建築展
会　期　2005年12月23日(金・祝)～2006年３月５日(日)
　　平日10：00～19：00、土・日・祝10：00～18：00
　　ただし12/24～31は19：00まで開館
　　月曜日休館（ただし年内と1/9は休まず開館）
　　1/1～1/7と1/10は休館
会　場　東京ステーションギャラリー
　　JR東京駅・丸の内中央口下車・赤煉瓦駅舎
入場料　一般800円、大高生600円、中小生400円
■東京ステーションギャラリー美術講座
⑱「日本近代建築の巨人・前川國男の求めたもの」
日　時　2006年１月24日（火）14：00～16：00
講　師　松隈　洋（京都工芸繊維大学助教授）
⑲「前川國男と赤煉瓦建築」
日　時　2006年２月７日（火）14：00～16：00
講　師　藤森照信（東京大学教授）
いずれも会場は、赤煉瓦駅舎の東京ステーションホテル。参加費は1200円。
応　募　⑱は１月９日締切、⑲は１月22日締切。
　　はがきに、名前・〒・住所・TEL・年齢・性別・申込み人数・希望日を明記して郵送。
応募先　〒177-8691石神井郵便局私書箱37号
　　「東京ステーションギャラリー美術講座」係
■前川國男建築展記念シンポジウム
①「前川國男のモダニズム」
日　時　2006年１月19日（木）18：30～20：30
司　会　布野修司（滋賀県立大学教授）
パネラ　林昌二／鬼頭梓／松山巖（評論家）
②「前川國男と現代」
日　時　2006年２月３日（金）18：30～20：30
司　会　鈴木博之（東京大学教授）
パネラ　槇文彦、富永譲、内藤廣
いずれも会場は東京海上日動ビル・新館大会議室（JR東京駅・徒歩５分）。参加費無料。定員200名・当日先着順。シンポジウムに関する問い合わせは、前川建築設計事務所内本展事務局（TEL03-3351-7101）へ。

「小さな骨の動物園」

カメ、コイ、モグラ、コウモリ、ペンギン…。身近にいるのにあまり目にすることのない動物たちの骨の美しさや面白さを紹介しながら、生態ごとにあらわれた機能やデザインの違いなど様々な視点から骨の魅力を考察する。入場無料。

会　期　2005年12月2日(金)～**2006年2月17日**(金)
10：00～18：00　水曜日、12/28～1/4休館

会　場　INAXギャラリー大阪　06-6539-3518
大阪市西区新町1-7-1 INAXショールーム2F



ブタの足(豚足)
食べ残した骨も組み立てれば、美しい骨格標本になる
撮影：大西成明

本展は、INAXギャラリー名古屋・INAXギャラリー1（東京）と巡回予定。なお、INAXギャラリー2（東京）では2005年12月1日（木）～24日（土）まで「大西康明展ー呼吸星雲ー」を開催している。

ワタリウム美術館では…

2006年2月26日までワタリウム美術館で開催中の「フェデリコ・エレーロ」展関連のシリーズ講演会が11月から2月にわたって7回企画されている。

第3回講演会には、建築家の隈研吾氏を予定している。

●「場所の再生」隈　研吾（慶應義塾大学教授）
ー建築はもっと弱く柔らかくなれないのか。「負ける建築」は、環境を優先し、場所を優先する建築である。場所の歴史、文化、素材を大事にする建築である。

日　時　2006年**1月10日**（火）　19：00～21：00
会　場　ワタリウム美術館　TEL03-3402-3001
東京都渋谷区神宮前3-7-6
参加費　1回につき2500円
申込み　ワタリウム美術館へ氏名・住所・TEL・FAX・Email・職業、および参加日時を明記してFAX(03-3405-7714)で申し込むと同時に、参加費を三井住友銀行青山支店(普)1033281、(名)ワタリウム美術館へ振り込む。

詳しくはhttp://www.watarium.co.jpで。

被災宅地危険度判定士講習会

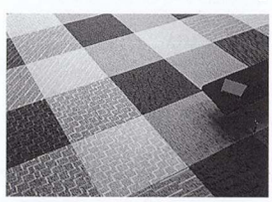
地震、降雨などにより大規模かつ広範囲に被災した宅地の危険度を判定する技術者の講習会が、大阪府内に居住または在勤している技術者で、受講要件を該当する人を対象に開催される。なお受講要件等詳細については、受講申込み書類かホームページを参照。

日　時　2005年**12月19日**(月)　13：30～17：00
会　場　エル・おおさか（大阪府立労働センター）
南館5階・南ホール
大阪市中央区北浜東3-14
受講料　無料（テキスト代1500円別途）
http://www.hisaitakuti.jp/download.htmlからテキストをダウンロードも可。
定　員　200名（定員になり次第締め切り）
申込期限　2005年12月13日必着
申込書類　大阪府建築都市部建築指導室および府内市町村の開発指導担当部局。大阪府建築指導室http://www.pref.osaka.jp/kenshi/index.htmlからダウンロード可。
申込先　大阪府建築都市部建築指導室建築企画課内
大阪府開発指導行政協議会事務局
〒540-8570　大阪市中央区大手前2-1-22
TEL06-6941-0351（内線4318）

「ソコイタリ」グッドデザイン賞受賞

東リ㈱の東リ グラフィック タイルカーペット GXシリーズ「ソコイタリ」が、10月3日、㈶日本産業デザイン振興会が主催する「2005年度グッドデザイン賞」（Gマーク）を受賞した。

「ソコイタリ」は「底至リ」（一見何の変哲も無いが、よく見ると行き届いている）という江戸時代の美意識をコンセプトとしており、3種のモノトーンカラーと日本の美意識をイメージした5種の模様の、合計15アイテムは、Gマークの審査においては「シンプルにまとまっていて、かつバリエーションが多く美しい」という講評を得ている。



3色5柄の施工例

長崎歴史文化博物館、11月3日にオープン

旧長崎県立美術博物館、県立長崎図書館、長崎市立博物館の3つの施設に収蔵されていた資料48000点を一堂に集め、新しく長崎歴史文化博物館がオープンした。本建物は、かつて幕府の直轄地であった「長崎奉行所」の一部を復元するなど観光的魅力を併せ持ち、黒川紀章氏の設計になるもの。運営面でも全国に先駆けて指定管理者制度を導入していることが注目される。

開館記念特別展「長崎大万華鏡展」は11月3日から始まり、長崎で生まれた美術工芸品、絵画、小物類や、オランダ人が収集し海外へ紹介された日本を、ライデン国立民族博物館所蔵資料を合わせて約400点で紹介する。

会　期　2005年11月3日(木)～2006年**1月9日**(月)
8：30～19：30　第3火曜日休館
会　場　長崎歴史文化博物館　http://www.nmhc.jp
長崎市立山1-1-1

■新刊紹介

『白井晟一空間読解ー形式への違犯ー』

“白井晟一の設計した建物は、あまりに「哲学的」に語られ、そのため白井の謦咳に接した者にしか理解できないこととして語られて来すぎたのではなかろうか。…中略…白井は図面を徹底して描いてきた。そればかりではない。建物竣工後、それを主として建築雑誌に発表してきた。つまり作品完成直後に定着された新鮮な図面である。それが残ることになる”。

白井晟一が残した図面の分析と実空間のディテールにふれながら、安原盛彦氏は“形式への違犯が白井の方法であった。しかしその違犯によって近代建築側から批判され、さらに「異端」、「哲学的建築」と棚上げされる。違犯と「罰」が白井の作品を巡って現れる”（まえがきより抜粋）ことを見出す。

白井対丹下健三、白井対吉田五十八のくだりは、作品を通してのそれぞれの人物像が生き生きとよみがえり、読みがはかどる。

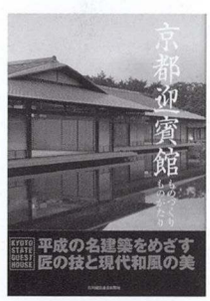


著者　安原盛彦（秋田県立大学建築環境システム学科教授）
発行　学芸出版社
体裁　四六判・176頁
定価　1890円(本体1800円)
発行　2005年9月10日

■新刊紹介

『京都迎賓館　ものづくり　ものがたり』

企画・編集●「京都迎賓館ものづくり　ものがたり」編集チームおよび社団法人公共建築協会



体裁　A5判変形　200頁
発行　日刊建設通信新聞社
定価　本体2,400円＋税
発刊　2005年11月

赤坂の迎賓館が片山東熊による洋風宮殿建築であるのに対し、2005年4月に開館した京都迎賓館は「現代の和風建築」。その建設、調度備品には日本文化の真髄ともいうべき、京都の伝統的技能が数多く活用された。ようやく日本の伝統文化、もてなし方で国公賓を接遇する舞台が誕生したのである。(設計＝日建設計、建築施工＝大林・竹中・鹿島ＪＶ)

本書『京都迎賓館 ものづくり ものがたり』は、建物の紹介というのではなく、計画、設計、施工のものづくりプロセスに重点を置き、「ほんまもん」「平成の名建築」をつくりあげるのに、職人、匠、技術者、設計者、施工者、発注者、学識経験者たちはどのような思いで取り組み、技、技術、ノウハウ、知恵、システムをどのように結集したのかなどを、インタビュー、対談、座談会などで明らかにしている。

名建築の見方、和風住宅の味わい方や、数奇屋大工、左官、建具など伝統的技能の現状と今後を知るうえでも、大いに参考になる書物。

日本建築協会

月間の動き

【平成17年10月分】

理事会

第５回常任理事会
10月26日（水）15：00～16：30
出席者　佐野会長ほか５名
議　事（１）平成17年度収支予算執行状況について
（２）後援・協賛名義の使用について
（３）就業規則等の改正について
（４）監事監査実施要領の制定について
（５）第52回青年技術者の選考と表彰式について
（６）第51回工高生デザインコンクール入選作の決定について
（７）その他

編集委員会

第７回編集委員会
10月12日（水）18:00～21：15
出席者　設楽委員長ほか６名・伊藤彰カメラマン
議　事（１）11月号「私の空間作法」特集報告
（２）12月号「第52回青年技術者」特集報告
（３）１月号「六甲道再開発」特集経過報告
（４）２月号「地方空港の時代」特集経過報告
（５）３月号「東海支部」特集の件
（６）作品作風、広告企画、シリーズ頁の報告・検討
（７）来年度４月号以降の特集スケジュール
（８）来年の表紙デザイン
（９）第５回読者と選ぶ「建築と社会」賞
（10）収支状況報告
（11）90周年事業への提案
（12）設備分科会からの報告
第１回計画分科会
10月31日（月）18：30～20：05
出席者　松田幹事ほか６名
議　事　2006年４月号「関西の都市再生」特集（案）の企画
第６回構造分科会
10月７日（金）18：00～20：00
出席者　肥嶋幹事ほか２名
議　事（１）「構造の頁」の企画
（２）来年の構造特集に向けて
第３回設備分科会
10月５日（水）18：00～20：00
出席者　梶井幹事ほか５名
議　事（１）「設備の頁」の企画
（２）設備特集に向けて
（３）来年のセミナーやシリーズ頁の企画
第４回施工材料分科会
10月６日（木）17：00～18：00
出席者　平田委員ほか３名
議　事（１）新委員の紹介
（２）平成18年度施工材料分科会の方向性
第７回法令分科会
10月18日（水）14：00～15：20
出席者　溝上幹事ほか３名
議　事（１）「法令コーナー」の企画
（２）法令特集の企画
（３）情報交換
第７回作品作風小委員会
10月27日（木）19：00～20：00
出席者　中村副委員長ほか５名
議　事（１）作品の選定
（２）作品の掲載状況並びに掲載予定の報告
（３）「gallery」掲載報告・予定
（４）前回の編集委員会の報告
第７回広告企画小委員会
10月12日（水）17:00～18：00
出席者　設楽委員長ほか１名
議　事（１）11月号「私の空間作法」特集報告
（２）12月号「第52回青年技術者」特集報告
（３）１月号「六甲道再開発」特集の経過報告
（４）２月号「地方空港の時代」特集の企画
（５）３月号「東海支部」特集の件
（６）年度後半の単発広告頁ものの企画
（７）広告企画
（８）収支状況報告
2006年１月号「六甲道再開発特集」打ち合わせ
10月14日（月）18：00～20：00
出席者　井口勝文氏ほか１名、設楽委員長
議　事　１月号「六甲道再開発」特集の編集調整

出版委員会

第６回出版委員会
10月20日（木）18：00～19：00
出席者　上原委員長ほか７名
議　事（１）＜プロのノウハウ＞と特装本の経過報告
（２）今後のテーマと執筆者選定
（３）90周年記念出版
（４）京都支部の「建築協定事例」「町屋再生事例」データの活用

教育委員会

第１回工高生教育小委員会
10月11日（火）18：30～20：30
出席者　山形委員長ほか９名
議　事　第51回工高生デザインコンクール応募作品の予備審査
第51回工高生デザインコンクール審査会
10月22日（土）13：30～17：40
場　所　安井建築設計事務所
出席者　竹原義二審査委員長ほか13名
山形教育委員長ほか12名

近代建築を学ぶ会

「近代建築共同企画」打ち合わせ（第８回）
10月14日（金）18：00～20：00
場　所　阪急電鉄㈱本社
出席者　坂本勝比古・神戸芸術工科大学名誉教授ほか４名
議　事（１）「異人館のあるまち」実施打ち合わせ
（２）「和風邸宅の精華」打ち合わせ
（３）その他
「近代建築共同企画」
2005秋・関西の住文化を訪ねて①
異人館のあるまち　神戸・山手
10月22日（土）９：30～16：30
10月29日（土）９：30～16：30
場　所　神戸北野町界隈
講　師　坂本勝比古（神戸芸術工科大学名誉教授）
久保八郎（東天閣元支配人）
参加者　25名/22日　46名/29日

●訃報
時山　龍太郎　９月12日逝去
蔦谷　政寛　９月30日逝去　（元　㈱錢高組　大阪）
吉田　隆一　10月７日逝去　（元　㈱東畑建築事務所）

●11月号の訂正とお詫び
11月号34頁に掲載の広告原稿に誤りがありましたので下記のように訂正するとともに深くお詫び申し上げます。
本誌12月号では60頁に掲載しています。
正・東光電気株式会社関西支社　支社長　竹澤秀昭

建築クラブの休会に思う

ご挨拶



建築クラブ代表
元日本建築協会会長
佐野正一

昭和47年６月からはじまった建築クラブ朝食会は、平成16年６月の第381回をもって休止のやむなきに至りましたことをご報告申し上げます。皆様のご理解とご支援により開設以来30年を超える長期にわたり、年末年始を除き毎月確実に開催をつづけることができましたことは、大きな喜びであり、深く感謝申し上げます。特に開催について講師の選択、依頼の交渉、会場の設営、当日の執行、講演記録の整理など直接当たられた歴代の運営委員の方々のご尽力に厚く敬意を表します。

順調な開催をつづけてこられたものを休止したことは誠に残念ですが、直接には昨今の建築不況に関連して来会・聴講者の激減、平成16年に入ってクラブ会員の退会が急増したことから講演会の将来に大きな不安を感ずるようになったことが原因です。もっと大きくは母体の建築協会が経営不振状態にあり、近年関係業界では専門職能を核とする団体強化の動きが伸展するに対し、職種の総合、協同によって建築という結実を形成する過程を前提とする立場にありながら、強力な指導性を発揮していないままに時代の動きからとり残される状況になっていることにあると申してよいでしょう。

これは、いわば構造的な欠陥です。この結果として会員の退会、事業の不振、経費の節減といった当面対策が重なって更に景況悪化の結果、梅田事務所の売却という極めて遺憾な事態に追い込まれるに至りました。ことここに及んでは、建築クラブの運営は本会財務になんら負担をかけていたものではありませんが、副次的な事業として無関係な姿勢をとりつづけることが正しいか、否か。この結果、建築クラブ朝食会の開催を休止することに決定したものであります。苦しい決断でした。

建築クラブ朝食会をはじめたのは当時の建築協会の会長・塚本猛次さん（昭和46年から56年まで協会会長）の発案によって、戦前のある時期設けられ、のち廃止となった建築クラブの制度を参考に、これとは別に毎月１回朝食をともにして有識者の講演を聴き、建築にかかわる技術者として知識を豊富にすることをねらいにはじめた新しい制度です。参加するには建築協会の会員であればよく、開催に必要な実費を会費として納付してもらい「建築クラブ」会員として登録し、この会員の中から運営委員を選んで運用するものとし、クラブ代表には建築協会会長または歴代会長経験者が当たる。協会と付かず離れずの関係ながら、自主的な運用と財務維持をする。事務局は協会事務局におく。発足に当たって、この制度の進め方をこのように決めました。

クラブの初代代表は塚本猛次さんで、平成３年から佐野正一に交代しました。佐野は昭和59年から平成６年まで協会会長でした。新しく考えた構想によって建築クラブは順調な経過だったと考えます。感銘ひとしおという思いです。平成16年６月まで381回を数える例会開催は、誇るに足る偉業と言ってよいかもしれません。会場は中之島のリーガグランドホテル、のちに堂島浜の全日空ホテルの宴会場を使用しました。講演は政治、経済、思想といった命題に限らず、文芸、スポーツ、美術、歴史、環境、海外事情など広く関心ある話題とし（講演記録参照）、極めて多彩、ユニークな講師に出演をお願いすることとなりましたのは大きな喜びです。それはそのまま独特な知識として聴く人に豊かに吸収蓄積されるからです。なかでも中国の砂漠地帯でひたすら緑化に努力をつづけている澤井敏郎氏の感銘深い講演や、クラブ忘年会で東畑謙三氏の卓抜な十二支についての説話の聴講ができたのは忘れがたい思い出になりました。

末尾として、建築クラブ朝食会の休会を極めて遺憾なことと重ねて申し上げ、皆様のご諒承をお願いいたします。

なお、会員の皆様から頂きました16年度会費につきましては、本来でしたら、休会以後の月相当分を返金するべきでございますが、ご承知のとおり近年の会員の減少に伴い数年前から赤字が続いており、その累計赤字を解消するため、会費の残額を補填いたしたく、誠に申し訳ございませんが、ご諒承の程よろしくお願いします。

（さの　しょういち）

建築クラブの休会に思う

朝飯会雑感

伊丹隆俊



㈱日刊建設通信新聞社
取締役西日本統括

20年ほど前、団体が多く、よく分からないという声を受け、建築関係団体の現状と今後をテーマに、簡単な文章を纏めたことがありました。そのとき、再認識したのは、専門分化が進む建築界で、日本建築協会は異色な存在だということでした。それは創立からの個性的な歴史、軸となって活動された方々のパワー、運営においても建築に関与する人々すべてを会員の対象にするという、懇親会的で、ゆったりと構えているというか、懐の深さに魅力を感じたものです。

それから数年後、当時の関西支社駐在役員から、「建築協会の朝飯会（建築クラブ）に大阪府副知事の西村さんが講師に来るよ」という話を聞きました。早起きは苦手な年頃だった？のですが、「朝飯会の見学も兼ねて、一回行かせてください」と頼み、出席したのが最初でした。記録を見ると192回、昭和63年４月でした。当時、西村壮一氏は新空港男の異名を持ち、関西新空港プロジェクトに集中しておられましたが、強く印象に残ったのは、講演の内容よりも、朝飯会に出席する人の数の多さと、その顔ぶれでした。朝飯会は創立から16年、景気が上昇し、関西新空港の建設が本格化していた背景があったにしても、「この朝飯会はすごい集まりだ」と感激したのを覚えています。

中部で万博、新空港のプロジェクトが進むなか、平成11年に大阪に舞い戻り、建築クラブの会員となりました。前任者が会員だったので、そのまま引き継いだ格好でしたが、以来、そこそこ欠席をしながらも、出席率は６割以上だったのではないでしょうか。かつてのパワーは感じられませんが、いつも感心させられたのは佐野正一会長が講演の後に話される一言。時には一言ではなく、少々長いのもありましたが、その仕切り方はさすがでした。

しかし、会員の減少で、朝飯会は休会やむなし、ということになりました。実際、大阪の建築を取り巻く環境は、かつてのような、ゆったりとした状況ではなくなっています。しかも、大阪のローカル化が加速し、人の出入りがよどんでいます。コスト意識が優先し、建築系のほとんどの団体が会員減の難題を抱えています。

「伝統は創造することで継続する」と言われていますが、建築協会も、建築クラブも、建築に関係する各分野が集まれることが強みであり、反対に弱みにもなっています。私どものビジネスにも通じるのですが、この強みを生かし、今の時代に求められる切り口、工夫、仕掛けが必要なのでしょう。建築と社会７月号の1000号特集は、そういう意味では面白い内容がありました。

（いたみ　たかとし）

建築クラブの休会に思う

次の一歩をどう踏み出すか

大辻眞喜夫



元㈱竹中工務店

日本建築協会の諸活動の中でもユニークで関係者に愛された、建築クラブの朝食会が休会のやむなきに至ったことは、時代の流れとは言え、会員にとり、惜しみて余りある残念なことと思う。

33年間、381回というシリーズの回数もさることながら、その卓話のジャンルが、建築・都市問題、社会全般を網羅した幅広い内容にわたり、かつ克明な記録として収録、出版されてきたことは、激動の時代の記録として稀有な宝を残したと言える。

日本建築協会が、関西に本拠を置き、建築に関する教育・行政・計画・設計・構造・設備・建築生産にまつわる全分野、さらには都市及び生活の各分野を網羅して、互いの有機的な連携を図ることを意図した存在であったから、建築クラブの活動もそれを反映したのは当然のなりゆきであった。

クラブの朝食会は単に卓話を聞くための会にとどまらず、会員の業種や仕事の枠を超えた人間的交流、相互理解、意思疎通に大きい役割を果たした。会員それぞれが培った人格、知恵、知識の世界を互いに理解、共有する場であったし、切磋琢磨の場でもあった。書、俳句、絵画、陶芸など芸術的な世界にお互いを目覚めさせ、よい磁場を提供しあった。会員の所属する企業や専門分野の立場を離れ、それぞれが多彩な能力に磨きをかけて精進している様を知り、知己を得ることが出来た。

卓話の話題に制限がなく、幅広い分野から選ばれた興味深いテーマとその卓話者が、幅広く提案、採択されて、勢いがあった。当番で司会を仰せつかると、おのずと卓話者と肝胆相照らす仲になる機会も増え、自分の視野、世界が広がる悦びを感じた。勤務に支障のない朝食時間を利用した卓話の場がその時代の情報源であり、自己拡大の柱となった。

ところが、バブルが崩壊し、経済が沈滞したこの十年の間に、一方でインターネットが急速に普及し、世界中の情報がいながらにして瞬時に収集できる情報化社会に変化した。必要な、欲しい情報が、いとも手軽く自由に入手可能になった。時代の流れとは言え、心のぬくもりや人間性を培う余裕やゆとりが、利便性や軽薄短小化の追求で疎外されるようになってきたのである。

人と人が触れ合い、会話し、理解し合う、成長の糧を生み出す営みが、どう変わっていくのか、いささか懸念を覚える今日の状況である。高度成長から安定成長の時代に変わり、建設投資の伸びが抑制される中、日本建築協会の活動のあり方はおのずと品質問題、環境問題にシフトされ、高齢化社会への対応に軸足を置くことになる。協会発足の理念であった建築社会全体の有機的連携と成長を図る意図を堅持しつつ、時代を見据えた次の新たな一歩をどう踏み出すのか、深い知恵が求められている。

（おおつじ　まきお）

建築クラブの休会に思う

建築クラブを“楽しむ”

尾亀清四郎



㈱三晃空調相談役

塚本会長から招集がかかったのは、編集や事業委員会でご一緒した人たちではなかったか。すなわち小林清、星廣文、平田作太郎さんらが記憶にある。

「日本建築協会朝食会」ではいかにも名が堅いので、私が「建築クラブ朝食会」を提案した。朝日ビル（1931－昭和６年）が出来たとき、協会はその６階へ移った。事務局の部屋の隣東北角の1/4円形の部屋をクラブ室とし、会議はもちろん外国雑誌閲覧のほかバーカウンターもあって、なかなか豪華であったのを思い出し、将来そんな展開が出来ればと思っての提案であった。

余談であるが当時、朝日ビルの西隣に朝日会館があり、朝日ビルとの連絡階があって、「映画アーベント」で名画（例えば巴里の屋根の下、嘆きの天使、モロッコなど）の再上映があったり、新劇（例えば夜明け前、土など）やセーラー服姿の辻久子のユモレスクなどを聞いたりで、協会建築クラブ室共々愛用した覚えがある。

例会日は、塚本会長が月曜日は各社会議があったりするから火曜日がよかろうと、第２火曜日と決まった。

さて当初十数年間は会員の数も多く非常に盛会であった。欠席会員の食費が剰余金となったので協会の本会計へ寄付したり、自主出版書籍の売れ残りの整理を引き受けたりして、協会の財政に寄与したのであった。

会場は最初「新大阪ホテル」―本年70周年を迎える―現朝日新聞ビルの西隣ではじめたが、リーガロイヤルホテルが出来て解体されるので、すぐ近くのリーガグランドホテルに移った。間もなくグランドホテルが宴会はすべてリーガロイヤルへ移ってくれと言うので、止むなく比較的近い堂島の全日空ホテル大阪へ移って今日に至ったのである。

講演筆記録は当初とらない講演もあったが、後にすべての講演の記録をとって頒布した。講師は日本建築協会の名において各界の第一人者を得ていろいろの耳学問をさせて頂いたが、何と言ってもクラブメンバーが月１回顔を合わせ得たことは最大の成果であったと思う。

そこで集まることに意義があるので、今度事務局が移ったOMMには貸会議室がたくさんあるので、そこに集まり地階の食堂街から朝食を取ればいかがかと思う。時に講師があればそれもよし、月々の会合には２，３の人の話題提供などがあれば十分だと思うのだが、いかがであろうか。

グランドホテル時代、私の座っていた円卓には岡田孝男、小川正、小林得志、久田良吉、前野慶太郎氏らがおられたが、すべて故人となられた。冥福を祈りながら擱筆する。

（おがめ　せいしろう）

建築クラブの休会に思う

建築クラブの健全運営に悩む

川口順弘



元㈱竹中工務店

私が、田村様、大辻様お二人の大先輩のお薦めによって建築クラブに入会したのは、平成11年であったと思います。その頃は、中之島の大阪グランドホテルの宴会場が会場でした。和気藹々の雰囲気の中で、講師のお話と佐野代表の講評への期待で、いささか緊張した記憶が残っています。その後まもなく大阪グランドホテルから、全日空ホテルへと会場が移りました。朝っぱらから、新地のど真ん中へ行くのには、なんだか気恥ずかしい思いがしたものです。

その頃から、母体の日本建築協会でも会員の減少傾向から、財政面の問題が大きな課題として表面化してきました。情報の発信・交換の手段の変化や建築にかかわる業界団体の細分化、そして大阪経済の地盤沈下が、会員減少の大きな原因となっていると考えられます。建築クラブも同様、会員の減少から会の運営が苦しくなり、当初の趣旨であったと聞いていた建築協会を支援することも難しくなりました。

そのような状況の中で、平成12年から運営委員長を務めることになり、どのようにして建築クラブを継続していけばよいのか、事務局長（当時）の杉山様とともに頭を悩ますこととなりました。会費の値上げはむしろ会員の減少につながることになるため実行ができず、ホテルとも、いろいろと運営原価の軽減策を折衝しましたが、あまり効果をあげることができませんでした。開催回数を減らすなど、むしろ、会員の方々にご迷惑をおかけしたことを残念に思っています。そして、平成14年に運営委員長を伴様と交代いたしました。

その後、平成16年に建築クラブが休会にいたるまで、その間、大変なご努力とご苦労をいただいた伴委員長をはじめ運営委員の皆様そして事務局の杉山様に深く感謝を申し上げまして、拙文を終わらせていただきます。

（かわぐち　としひろ）

建築クラブの休会に思う

定年後活動の原動力を貰った朝食会

澤井敏郎



NGO緑の協力隊・
関西澤井隊　代表

定年１年前の平成４年６月、第242回朝食会に、大墨正氏のご紹介で「連珠RENJUの国際交流」、平成７年第275回に、大辻眞喜夫氏のご紹介で「中国沙漠緑化実践隊に参加して」、平成９年、308回「遊びの文化と歌かるた」、平成12年、341回「わが実践整理学」、平成15年、374回「環境問題を考える」と、くしくも33回間隔で５回も違ったテーマでスピーチをさせて頂きました。

この間、故･遠山正瑛翁(当時92歳)、作家の高田宏氏、国際日本文化研究センターの安田喜憲教授､高名な木津川計氏､猪熊兼勝氏、戸出武氏ら、13人の講師を紹介させて頂き、私自身も先生方との親交をより深めることができました。

それにもまして、実社会はもちろん、人生経験の豊かな諸先輩、会員の皆様に接することができ、私の定年後人生の活動に、大きな示唆・教訓・原動力を与えて頂きました。

建築クラブの良かったことは、早朝８時（冬は８時半）から始まり、10時には会社に出勤できたことでした。定年後フリーになっても、10時以降の訪問等、計画が立てやすい。現在私は、京都のホテルで月１回、朝７時から９時に開かれる東山政経塾の勉強会に、有効に出席しています。

次に私が最高に活用させて頂いたのが、講演記録の小冊子です。毎回600冊ずつ増刷し、私の「連珠」「かるた競技」「切手収集」などの趣味活動や、植樹・環境問題等の実践・スピーチ等の読本として、今も役立たせて頂いています。特に２回目の「中国沙漠植林実践」の小冊子は、前後10刷、2500冊増刷し、植樹初参加や協力の方々に進呈し、活動の原動力として活用できていることを心から感謝しています。

初めて出席した平成４年の朝食会は、出席者80人を超していました。建設業界の不振、苦悩とともに出席者は漸減をつづけ、平成14年には20人台となり憂慮していました。僭越ながら、事務局には再三の運営改善の提案をしてきましたが、十年一日、考慮されることなく、朝食会は休会になってしまったこと、誠に残念至極と思っています。

このレポート依頼案内によりますと、朝食会は第381回で休会になったとか。381→サワイの語呂合わせにご縁を感じています。

㈳日本建築協会の再発展を祈念するとともに、ぜひ企画を新たにして、建築クラブ朝食会の復活を期待しています。皆様のますますのご健勝を祈っています。

（さわい　としお〈元・永大産業㈱・朝日ウッドテック㈱〉）

建築クラブの休会に思う

建築クラブ運営委員長として

伴　昭秀



㈱西原衛生工業所取締役

私は「建築クラブ朝食会」の会員として、平成４年４月より参画しました。それまでは、父（故 伴 一郎）が創立当時から出席していたかと思います。昭和63年に病を患い亡くなるまでは「建築クラブ朝食会」をこよなく愛し、毎月の例会を楽しみに出席していたのを思い出します。親子二代でお世話になろうとは考えてもいませんでした。

当時、会場は「大阪グランドホテル」（現在リーガ・グランドホテル）で開催されていました。出席メンバーといえば父ぐらいかそれより年上の方で、当時、私は最年少の会員で、出席するたび緊張感でいっぱいでしたが、何人か顔見知りの方がおられたことで多少すくわれた面もありました。そのころは欠席がちでしたが、出来るだけ出席するよう心がけ、早朝より多種多様の講師の方々による卓話を聞き、知識、雑学を肥やすことが出来ました。またいろいろな面で勉強させて頂き、それに皆さま方との親交・交流を深められたことはいい思い出にもなりました。

会場の「大阪グランドホテル」がリニューアル工事の関係で、平成11年８月より「大阪全日空ホテル」へと会場を移し開催することになりました。平成12年６月に運営委員会のメンバーとして参画することになり、川口委員長の補佐役として副委員長にあたることとなり、平成14年６月には川口（委員長）が退任後、運営委員長に携わることになりました。

バブル崩壊後の建設業界の環境は年々激変し、関西経済の地盤沈下もあいまって、建設業界は苦境を余儀なくされ、「建築クラブ」の母体である日本建築協会の会員の減少により、同「クラブ」も同じく会員の退会減少から運営が厳しい状況になってまいりました。

運営委員会では何とかこの厳しい状況から脱却するために、会員増強を募り、また会費の値上げ等をも考えましたが、この環境ではとうてい無理な話でありました。会員の方々からのアドバイスも頂き、事務局を交え検討して、例会の回数を年間２回減らすことで種々のコストを削減してまいりましたが、会員のさらなる減少へとつながったため、佐野代表を交え打開策を検討致しました。しかし今後運営を継続することは事実上困難であるとのことで、平成16年６月をもって一時休会せざるを得ないとの結論となりました。

皆さまには、このような結果となったことは運営委員長としての力不足からと、今、改めて悔い、心苦しく申し訳なく思っている次第です。今日まで支えてくださった佐野代表をはじめ、会員の皆様、そして事務局の方には深い感謝の念に堪えません。長期に渡りご支援ご鞭撻、ご協力くださり本当にありがとうございました。

いつの日か、新たなる「建築クラブ」が再開できることを心から願ってやみません。

（ばん　あきひで）

建築クラブの休会に思う

「21世紀」

三木敏男



㈱サングローブ
代表取締役

1928年（昭和３年・辰年）生れの私は、戦後の焼け野原、荒れ果てた山野の時代に大学（建築学科）で学び、1952年（昭和27年）に卒業して社会人となりました。

勤務した㈱奥村組で建築クラブの仲間入りをさせて頂き、建築の各分野のメンバーの方々と第２火曜日に朝食を摂りながら談笑し、ユニークな講演を聴くという月１回の集まりは、当時多忙を極めた日々の中で待ち遠しいものでした。

1994年（平成６年）退職後、独立してからも会員として参加しておりましたが、７年後には21世紀を迎えるという実感もなく、ましてや72歳になるであろう自分の姿など、考えもしておりませんでした。

世間で次第にミレニアムという言葉が使われ始めた1998年８月４日（平成10年）、第316回朝食会で、国際日本文化センター安田喜憲教授の「日本の未来のヴィジョン」という講演を聴く機会を得ました。21世紀の未来像と、私の生まれ年である龍のお話でした。本来、古気象学の研究者である氏によると、今のように10年、20年の短い単位で気象の変化が起こるとは予想もしなかった。地球の平均温度が上昇し、海面の上昇、暴風雨の増大による水不足・旱魃で、穀物の収穫が激減し、食糧をめぐって戦争が起こるであろうというのが、21世紀のシナリオとのこと。

氏は、憂鬱な話の後で、元気になって貰おうと龍の話をされました。十二支で唯一の想像の動物である龍の話を聞くと寿命が長くなり、お金も儲かるというのが日本・アジアの定説である。しかしヨーロッパでは、龍は邪悪なものとして扱われており、キリスト教・イスラム教の、自分に反対する者の存在を許さないという不寛容の思想が、森の神である龍の「再生と循環」「共生と融合」の知恵を阻んでいると。

さて、21世紀になってからを振り返ってみると、新潟の大地震・台風による洪水・水不足の後の大雨、また今夏は「クールビズ」という言葉が生まれました。一方、世界では2001年9.11ニューヨーク同時テロ・イラク戦争・2005年7.7ロンドン同時テロ等々、宗教思想の違いによる争い・惨事が後を絶ちません。

ミレニアムの鐘を聴き、77歳・喜寿を迎えた私ですが、21世紀文明の衝突がどこに向かっていくのか気掛かりな今日この頃です。

＊

2012年（平成24年）、第30回オリンピック大会がロンドンに決まりました。ちょうど、私にとって七回り目の辰年になります。共生・融合の森の神「龍」が、世界の平和をもたらしてくれることを祈り、その日を目標に心身ともに精進し、日々感謝をもって歩みたいと願っています。

（みき　としお）

建築クラブの休会に思う

建築クラブ朝食会と私

八木重喜



八木惣㈱会長

日本建築協会の朝食会、建築クラブが発会したのは昭和47年であります。昭和45年「人類の進歩と調和」をテーマに世界77カ国が参加、大阪万博EXPO'70が開催され、その万博景気の酔い覚めやらぬ時期で、大変明るいすばらしいタイミングであったと思います。

私は当時、㈱プロパンで知られた岩谷産業で営業課長をしていました。私の父親が八木惣の社長で、同居していましたので夕食時「明日、建築クラブの朝食会や」といって楽しそうに話していたのを思い出します。

ピンクレディのUFOが流行っていた昭和54年４月、大学卒業以来16年間勤めた岩谷産業を退職し、八木惣常務として入社しました。それから１年ほど経て「重喜、朝食会お前出たらどうや！」ということで、それ以降、父親に替わって建築クラブのお世話になることになりました。

当時の建築クラブは塚本猛次先生、東畑謙三先生、そして佐野正一先生と、日本の全国紙に堂々と載っている大先生方や大手ゼネコンの役員さん方40人～50人がこの朝食会に出席されていたと思います。阪神大震災のあった平成７年、私も建築クラブ朝食会の運営委員長に推薦され、講演してくださる先生を探すことになりました。父親に相談しますと、「同志社の吉武先生にお願いしたらどうか」ということになりました。そこで同志社大学名誉教授　吉武孝祐先生にその４月の講演を依頼致しました。

「話のはなし」……⑤P.119『私の経営道－雲上蒼天－』

吉武先生はユニークな方で、同志社では学生や父兄に大変好かれ、人気抜群の先生でした。

「八木さん、はっきり言って、円高それ自体は悪いことではないんですよ！円は強いんです。かつて日本の円は360円、今は円高80円になったらどうしようとみんな右往左往していますよ！基準がない。円は金融面だけの相場で上がったり下がったりしています。日本人は資本相場に持っていく努力と知恵が足りない。当然、円は安定しない。資本とは精神そして意思なんです」。先生の話を聞いているときは「なるほど」と解ったような気がしていましたが、後で思い出すと「ええ　どういうこと」と大変難しい。今は亡き、先生と父親の大切な思い出であります。

平成17年現在日本は、国、地方、財投の借金1,100兆円。毎年税収45兆円。予算85兆円。もし１％の金利が世界の平均金利５％になれば、さらに30兆円の金利負担が生じ、円は弱くなる。１ドル＝300円にまでになればどんな日本になるのでしょう！日本の高度成長を支え世界一の経済大国を造り上げ、難しいバブル崩壊を経験した世代の一員として、杞憂に終わってほしいと思います。

いつの日か再び次の時代の人のために、建築クラブ朝食会が再開されることをお祈り致します。

（やぎ　しげよし）

建築クラブの休会に思う

私の事業展開と人との交流

和中　勝



㈱和中商店取締役相談役

建築クラブ休会の通牒に接し、突然のことながら誠に淋しく、残念至極に存じる次第であります。中之島のグランド・ホテルで開催された当初は早朝８時の集会で、ユニークな講師陣によるスピーチが楽しい朝食会であり、また日本建設業界の高名な諸先生や建築材料メーカーの技術者と、交流できる大変有効なクラブでもありました。

また講師陣の特色ある講話も朝食会に花をそえ、建築クラブとして33年の永い歴史と伝統を保ちつづけてまいりましたが、時節柄とは申しながらも、会員の急激な減少が原因で突然に休会となったことは実に名残惜しい気持ちであります。

昭和15年、東洋リノリューム株式会社に入社以来第二次大戦を経て、26年、独立して建築内装工事一筋に半世紀の努力をいたしました。大阪を拠点に京阪神・東海・関東・東京に進出し、現在全国的に事業展開をすることが出来たのは、ひとえに日本建築協会並びに当クラブのご指導の賜と深く感謝を申し上げる次第であります。今後も一層のご指導をお願い申し上げ、日本建築協会の更なる御発展と、当クラブが有意義なクラブとして再生出来ますように祈念いたし、今日まで賜わりましたご厚情に深謝を申し上げる次第であります。

（わなか　まさる）

建築クラブ講演記録

回数	年月	演　題	講　師	
1	S47.6	創立総会		
2	S47.7	火災時の有毒ガスと煙	堀内三郎	京都大学工学部教授
3	S47.8	関西新国際空港について	里井達三良	関西国際空港ビル社長
4	S47.9	中国の古陶磁について	東畑謙三	東畑建築事務所社長
5	S47.10	老後の心構えについて	竹腰健造	双星社竹腰建築事務所代表
6	S47.11	大阪の都市計画について	寺田久弥	大阪市総合計画局長
7	S47.12	夢の話	阿倍野竜正	高野山大学教授
8	S48.1	新春放談	南部知伸	阪神百貨店社長
9	S48.2	拓本行脚	久田良吉	東洋建築設計事務所長
10	S48.3	やくざ談義	錢高輝之	錢高組社長
11	S48.4	住宅について	森　薫	阪急電鉄社長
12	S48.5	これからの経営	森下　泰	森下仁丹社長
13	S48.6	遍路	中出定夫	竹中工務店顧問
14	S48.7	私の経営観	佐治敬三	サントリー社長
15	S48.8	時事放談	川勝　伝	南海電気鉄道社長
16	S48.9	俳句雑話	皆吉爽雨	俳人
17	S48.10	教育と音楽についての随想	水川清一	大阪音楽大学理事長
18	S48.11	中国の印象	下川常雄	住友ゴム工業社長
20	S49.1	蘭培養のすすめ	畠中　繁	翼建築設計事務所長
21	S49.2	従業員の企業意識	酒井涼爾	特殊労政研究所長
22	S49.3	老人と福祉	池川　清	神戸女学院大学教授
23	S49.4	海外旅行裏話	松添　壮	富士海外旅行 代表取締役専務
24	S49.5	今後の住宅のコストについて	松田妙子	日本ホームズ 代表取締役専務
25	S49.6	中華人民共和国展覧会について	里井達三良	㈶大阪中国展覧会事務局長
26	S49.7	四天王寺縁起	出口常順	四天王寺管長
27	S49.8	相撲あれこれ	神風正一	ＮＨＫ相撲解説者
28	S49.9	難波宮と山根先生	直木孝次郎	大阪市立大学教授
29	S49.10	つり漫談	作間日出生	建築家
30	S49.11	アメリカの対日政策と日本経済	卜部和義	時局・政治経済評論家
32	S50.1	東欧を見て日本の現状を考える	西山磐	大阪瓦斯会長
33	S50.2	建築設計と海外事情	根津耕一郎	根津建築事務所長
34	S50.3	痔主（地主にあらず）解放物語	黒川幸夫	黒川梅田診療所　所長
35	S50.4	人相と健康	八木喜三朗	観相学者
36	S50.5	高松塚の周辺	有坂隆道	関西大学文学部教授
37	S50.6	良い人間関係をつくる話し方	金井金子郎	関西言論科学研究所長
38	S50.7	台風と建築物	石崎瀧雄	京都大学防災研究所教授
39	S50.8	エベレスト登頂を終えて	久野英子	エベレスト日本女子登山隊長
40	S50.9	私の画商歴と過熱ブーム前後の画商業界	土井憲治	梅田画廊社長
41	S50.10	きょうこのごろ	六條照瑞	蓮土山道明寺住職
42	S50.11	ヨーロッパの造園	岡崎文彬	京都大学名誉教授
44	S51.1	映画（中立国の国防）スイスほか	自衛隊大阪地方連絡部	
45	S51.2	町造りの中の石彫	鈴木政夫	石の彫刻家
46	S51.3	出合いと仕事	池田悦治	大日本塗料取締役社長
47	S51.4	健康管理について	可児一郎	可児歯科診療所所長 医学博士
48	S51.5	七歳の捕虜	光　俊明	南里貿易営業部
49	S51.6	環境と思想（わたしの史観）	新津　靖	大阪大学名誉教授 三洋電機顧問　工学博士
50	S51.7	日本の自動車産業	小田　剛	ダイハツ自動車販売 取締役副社長
51	S51.8	時局放談	森下　泰	参議院議員
52	S51.9	無学の辯	伊藤東海	山鹿聖学養正会々長　書道家
53	S51.9	建築界の諸問題	竹腰　健造	建築家
54	S51.10	ファッションあれこれ	木口　衛	ワールド代表取締役会長
55	S51.11	河内飛鳥とその心	奥野俊雄	大聖勝軍寺住職
57	S52.1	万葉の心	犬養　孝	大阪大学名誉教授
58	S52.2	芝居ウラ話	伊藤邦輔	コマスタジアム社長
59	S52.3	バラの話	伊藤克三	大阪大学教授
60	S52.4	おんなの眼	末次摂子	読売テレビ放送参与
61	S52.5	若さを保つ方法 －60年映画・演劇鑑賞を振返って－	三宅誠一	三和信用金庫理事長
62	S52.6	銅鐸について	田中　巽	甲子園大学教授
63	S52.7	関西新空港の技術問題	佐野正一	安井建築設計事務所社長
63－2	S52.7	河内飛鳥古寺めぐり	安田誠一	安田　会長
64	S52.8	放浪する梵鐘について	橋爪金吉	ユニトーヨー 会社更生管財人
65	S52.9	日本人と土地	扇谷弘一	日本住宅公団関西支社長
66	S52.10	中央アジアを旅して見たこと思ったこと	岡原　茂	居酒屋「山小屋」主人

建築クラブ講演記録

回数	年月	演　題	講　師	
67	S52.11	鶴林寺の壁画	岡崎譲治	大阪市立美術館長
69	S53.1	くらしの中の大阪弁	中村　浩	四天王寺女子大学講師
70	S53.2	刀剣四方山話	永　藤一	錦城薬品社長
71	S53.3	多肉植物について	松井敏夫	日本新薬生産管理室次長
72	S53.4	中国を旅して	今村　騰	中央電気工業会長
73	S53.5	写真あれこれ	杉本一郎	杉本写真場店主
74	S53.6	大阪経済の今昔	八田省吾	東京商工リサーチ関西支社 理事・次長　情報部長
75	S53.7	これからの経済景気の見通し	熊取谷　武	㈶日本証券経済研究所 常務理事　大阪研究所長
76	S53.8	私の見た中国	岸　昌	前大阪府副知事
77	S53.9	ミニ開発に将来はあるか	戎　良男	戎工務店社長
78	S53.10	室町・江戸期の書籍の歴史	中尾良男	中尾書店店主
79	S53.11	三人寄れば	宮里俊一	神戸商科大学教授
81	S54.1	大阪の救世主 鉄眼禅師	鈴木竜珠	鉄眼寺住職
82	S54.2	うるしと漆器	藤田五郎	斎藤常務取締役
83	S54.3	建築用タイルの歴史 (補筆改訂)	柴辻政彦	志野陶石社長
84	S54.4	ビールの話	角谷良一	キリンレモンサービス社長
85	S54.5	文化としての空間	張　光夫	関西学院大学社会学部教授
86	S54.6	大阪城あれこれ	岡本良一	元・大阪城天守閣主任
87	S54.7	ワインの世界	湯目英郎	サントリー中央研究所技師
88	S54.8	趣味と健康	村上　勇	栗本建設工業取締役相談役
89	S54.9	詩人と建築	庄野英二	作家
90	S54.10	中国を旅して	久田良吉	東洋建築設計事務所社長
91	S54.11	不動産よもやま話	安藤太郎	住友不動産社長
93	S55.1	日本の神さまのことなど	寺井種伯	大阪天満宮称宜 四条畷神社宮司
94	S55.2	外地見聞録 (バルカンから中央ヨーロッパあたりを中心に)	伊地知優子	評論家
95	S55.3	芝居よもやま話	菱田雅夫	演劇評論家
96	S55.4	大阪の水・世界の水	八木正一	大阪市水道局技術監兼工務部水質試験所長
97	S55.5	ザイールとの10年	片瀬貴文	日本国有鉄道大阪工事局局長
98	S55.6	お茶の話	岡田孝男	帝塚山学院大学教授工学博士
99	S55.7	無財の七施	麻生恵光	太融寺住職
100	S55.8	最近の国際情勢	中山正暉	自由民主党衆議院議員
101	S55.9	ソ連の教育と住宅問題	藤川重一	吹田市会議員 大阪工業大学短期大学部講師 一級建築士
102	S55.10	父、牧水を語る	若山旅人	歌人・建築家
103	S55.11	21世紀への“かけ橋” ー現代社会と人づくりー	渡部和夫	関西テレビ放送客員解説委員 大阪芸術大学講師
105	S56.1	木の話	村西経三	大建工業社長
106	S56.2	老人ぼけについて	早川一光	堀川病院副院長
107	S56.3	何応欽将軍について	冨中三郎	鴻池組役員
108	S56.4	初老期からの心と体	中埜幸雄	㈳京都精神分析研究所長
109	S56.5	都市再開発よもやま話	顕谷静夫	大阪市街地再開発促進協議会事務局長
110	S56.6	生老病死ーわれわれは如何にこれを受けとめるべきか(健やかに老いるために)	加藤治秀	内科医・医学博士
111	S56.7	ソ連の対日動向	扇　貞雄	共産圏問題評論家元陸軍少佐
112	S56.8	国際化社会と日本人	湯浅叡子	㈶民族学振興会千里事務局長
113	S56.9	長生きするための食事	岡村一弘	大阪市立環境科学研究所附設栄養専門学校長・農学博士
114	S56.10	私の兼業	豊崎　稔	京都大学名誉教授経済学博士
115	S56.11	国際会議の舞台裏ー同時通訳の体験からー	村松増美	サイマル・インターナショナル 代表取締役
117	S57.1	K2から得たもの	松浦輝夫	早稲田大学K2登山隊隊長
118	S57.2	少年の非行と悩みの実体	片桐キク	大阪府警察本部防犯部少年課 少年総合相談センター
119	S57.3	邦楽あれこれ	高木浩志	NHK大阪放送局 芸能部チーフディレクター
120	S57.4	日本刀の基礎知識	森口隆次	大阪市立博物館学芸課長
121	S57.5	血管と健康	白崎龍男	住友生命本社診療所所長
122	S57.6	大阪城の巨石 ーその築造技術を推理するー	渡辺　武	大阪城天守閣主任
123	S57.7	大阪21世紀計画について	加藤良雄	㈶大阪21世紀協会専務理事
124	S57.8	今でも土地は儲かるか	塩見　宙	㈳日本不動産鑑定協会常務理事 近畿会会長
125	S57.9	中国を旅してその3 河西の走廊をゆく	久田良吉	東洋建築設計事務所取締役会長
126	S57.10	激動の中東から日本を見る	宇野正美	中東問題と聖書研究センター 主幹
127	S57.11	日韓関係の深層にあるもの	古野喜政	毎日新聞大阪本社社会部長
128	S57.12	すぐ役立つスピードメモ法	中根正雄	全日本速記教育協会長 中根式速記協会長
130	S58.2	ワイン談義	松山恒太	関西電力常務取締役
131	S58.3	国際化の中の日本	神末佳明	日本経済新聞大阪本社社会部長
132	S58.4	エジプトと日本の間（あいだ）	敷田耕一郎	日建設計東京本社設計主管
133	S58.5	ピアノの兄弟姉妹たち	善積　俊夫 伊地知温子 黒島　和子 田辺　敏男	㈶ヤマハ音楽振興会大阪支部
134	S58.6	陶磁美術館の試み	伊藤郁太郎	大阪市立東洋陶磁美術館館長
135	S58.7	きりえの世界	栗本　昇	きりえ作家
136	S58.8	地名でたどる大阪の歴史	木村武夫	神戸女子大学教授
137	S58.9	心の豊かさを求めて	船本弘毅	関西学院大学教授
138	S58.10	一隅を照らす	葉上照澄	比叡山延暦寺長老
139	S58.11	食べ物と健康予測 ー現代食生活における食べ物の食べ方の間違いと毛髪分析による健康予測についてー	今井良次	フードサイエンスドクター歯学博士 日本リフォーム代表取締役社長 日本予防医学センター研究所長
140	S58.12	関西ビジネス最前線 キャスター裏話	山本堅太郎	テレビ大阪キャスター
142	S59.2	エレクトロニクスとデザイン	坂下　清	シャープ取締役総合デザイン本部長
143	S59.3	揺れ動く内外情勢とこれからの日本	畑山　博	評論家 (元毎日新聞論説副主幹)
144	S59.4	オーケストラと指揮者	野口幸助	㈳大阪フィルハーモニー協会 理事・事務局長
145	S59.5	日本経済の展望と これからの関西	磯村隆文	大阪市立大学教授経済学博士
146	S59.6	能面打ち	金井弘次	日本建築総合試験所 常任理事・事務局長
147	S59.7	環境と資源	本多淳裕	大阪市立大学講師
148	S59.8	日本画の保存と近代建築	丸山石根	日本画家
149	S59.9	必ずできる	藤原一生	児童文学者・日本けん玉協会会長 タロとジロを一緒にさせる会会長

建築クラブ講演記録

回数	年月	演　題	講　師	
150	S59.10	デンマークでの体験 雑役・入院・建築	吉野愼一	ヨシノデザインオフィス代表取締役
151	S59.11	キューバ、ベトナムを訪ねソ連の世界征覇の一端を見る	扇　貞雄	共産圏問題評論家
152	S59.12	折り紙建築	茶谷正洋	東京工業大学教授工学博士
154	S60.2	金融革命と経済見通し	横井義一郎	経済評論家（元共同通信取締役大阪支社長）
155	S60.3	最後の海軍大将井上成美の思い出	佐々木欽也	アサヒビール常務取締役
156	S60.4	住まう立場からの住いづくり	宮本豊子	兵庫県立生活科学研究所 生活科学専門員
157	S60.5	大阪が生んだ井原西鶴の商法と好色文学	桝井寿郎	作家
158	S60.6	続・海外旅行裏話	松添　壮	富士海外旅行副社長
159	S60.7	難波宮跡の調査と保存 ー大阪アクロポリス計画ー	中尾芳治	㈶大阪市文化財協会企画課長
160	S60.8	中国の建築事情について ー16ミリ映画併用ー	水谷俊夫	竹中工務店作業所長
161	S60.9	建築の宗教性ー白井晟一をめぐってー	笠原芳光	京都精華大学学長
162	S60.10	金メダル裏話	半田百合子	東京オリンピック女子バレーボール優勝メンバー 現・田崎真珠京都支店長
163	S60.11	味のある話	楠本憲吉	俳句作家連盟会長
164	S60.12	ビジュアルコミュニケーション（視覚の伝達） ーその考え方	沢村　徹	沢村デザイン研究所代表取締役
166	S61.2	最近における医療の進歩と問題点	石神襄次	国立神戸病院長
167	S61.3	建設業の危機管理	ペンネーム 岩子天下 岩本　宏	労働安全コンサルタント
168	S61.4	中村鋭一パーソナリティ放談	中村鋭一	参議院議員
169	S61.5	水の周辺の見方	森下郁子	㈳淡水生物研究所所長
170	S61.6	建物と日時計…スライド併用	後藤晶男	帝塚山学園天文台
171	S61.7	私の仏教観	奥野俊雄	大聖勝軍寺住職
172	S61.8	レーザー光線と未来社会	山中千代衛	大阪大学レーザー核融合研究所所長
173	S61.9	遊牧民の天幕生活…スライド	磯野義人	太陽工業工事部長
174	S61.10	この道…音楽	林　誠	大阪音楽大学助教授
175	S61.11	ひげ辻の野球人生	辻　佳紀	野球評論家
176	S61.12	中高年の心の健康	小西輝夫	元松下電器健康管理センター副所長
178	S62.2	世紀の転生	清水公照	東大寺長老
179	S62.3	最近の経済状態	植松　敏	大阪通商産業局長
180	S62.4	限界に挑戦	三宅義信	重量挙げオリンピック・ゴールドメダリスト
181	S62.5	都市の経営 ー都市を考えるー	安好　匠	神戸市収入役
182	S62.6	津の国の中の船場	伊勢戸佐一郎	地方史研究家(フリーライター)
183	S62.7	韓国の古寺探訪	山田　修	大阪市立工芸高等学校建築科長
184	S62.8	中央アジアの山と人ースライド併用ー	平林克敏	住友ゴム工業特品事業部長
185	S62.9	人生を限りなくはばたこう	岩田博志	サクセスプロモーションキョウト代表取締役
186	S62.10	我社の経営理念	岡田一男	大和実業取締役社長
187	S62.11	ソ連の本質と実態	平野浤治	自衛隊兵庫地方連絡部部長 陸将補
188	S62.12	大阪大空襲について (映画併用)	小山仁示	関西大学文学部教授
190	S63.2	高麗青磁復元の歩み	谷　敏肇	谷通商取締役社長
191	S63.3	ヨーロッパの国境、国柄、雑感	澤田　清	兵庫県立神戸工業高等学校 建築科長
192	S63.4	ー21世紀の大阪はこうなるー新空港他近畿の大規模プロジェクトを通して	西村壮一	大阪府副知事
193	S63.5	1、スイミングスクールの歴史 2、室内プール建築の注意事項 3、ソウル・オリンピックについて	奥田精一郎	イトマンスイミングスクール 代表取締役会長
194	S63.6	京都の焼物（清水焼）	藤平長一	清水焼製造卸元
194ー2	S63.6	関西国際空港建設地見学会		
195	S63.7	飛鳥岡寺三重の塔の建築記録ースライド併用ー	森　和彦	朝日放送技術局テレビ送出部 主任
196	S63.8	女の目からのものづくり	高橋志摩子	高橋志摩子デザイン研究所 代表取締役
197	S63.9	日本３４年の経験	ブリューネ・アンドレ	元、大阪・神戸フランス総領事
198	S63.10	笑顔教室…リーダーの条件	野坂礼子	「笑顔教室」主宰
199	S63.11	アジアの諸民族と住まい	川島宙次	元・大林組住宅部長
200	S63.12	患者と医者の立場	横井　浩	日生病院理事・超音波検査部 部長
202	H1.2	西欧人気質と日本人気質	井上和雄	神戸商船大学教授
203	H1.3	心の健康と音楽	園山豊幸	ＣＢＳソニーミュージック・プロモーター
204	H1.4	陶工富本憲吉の世界	辻本　勇	富本憲吉記念館館長
205	H1.5	商都大阪の挑戦	柳本卓治	元大阪市会議員
206	H1.6	小売屋の目	正井春吾	フォーサイ・インターナショナル専務取締役
207	H1.7	アフリカの心	森　淳	大阪芸術大学教授
208	H1.8	科学者としての鑑眞和上ースライド併用ー 鑑眞和上生誕千三百年記念	山賀禮一	大阪大学名誉教授
209	H1.9	半年後に迫った花の万博	江上幸夫	㈶国際花と緑の博覧会協会 事務次長
210	H1.10	食物と健康	大塚　滋	武庫川女子大学教授
211	H1.11	日本の近代美術と梅原龍三郎	小倉忠夫	京都国立近代美術館館長
212	H1.12	人間魚雷“回天”	三谷与司夫	統計サービス顧問
214	H2.2	ガンダーラの仏教遺跡 (スライド併用)	西川幸治	京都大学工学部教授
215	H2.3	関西の道路交通と阪神高速道路	豊蔵　一	阪神高速道路公団理事長
216	H2.4	日本人と訴訟	滝井繁男	弁護士
217	H2.5	日本のかるたあれこれ	山口格太郎	㈶山口文化会館滴翠美術館理事長
218	H2.6	少産時代の子供をめぐって ースライド・ビデオー	藪内百治	大阪府母子保健総合医療センター総長
219	H2.7	大阪市内の再開発について	佐々木　伸	大阪市計画局長
220	H2.8	論語と経営	伊與田　覺	㈶成人教学研修所長 論語普及会主幹
221	H2.9	スーパー堤防 ースライド併用ー	紀陸富信	近畿地方建設局河川部長
222	H2.10	ヴォーリズの建築 ースライド併用ー	山形政昭	大阪芸術大学建築学科助教授
223	H2.11	本物と贋物(美術)	三木多聞	国立国際美術館館長

建築クラブ講演記録

回数	年月	演　題	講　師	
224	H2.12	ともかくアメリカは大きいースライド併用ー	藤川重一	吹田市議会議員
226	H3.2	蒋介石の遺産処理に追われる台湾	伊原吉之助	帝塚山大学教授
227	H3.3	デザイナーから見た町づくり	岩井珠恵	クリエイティブフォーラム代表取締役
228	H3.4	今から死ぬまでの人生を太く、長く、豊かに生きるためのヨガ	大槻高弘	大槻ヨガ主宰　日本ヨガ普及協会会長
229	H3.5	美人と人生	井上章一	国際日本文化研究センター助教授
230	H3.6	回教圏におけるプロジェクトから見た人間模様	新鞍清彦	大成建設 大阪支店営業部部長
231	H3.7	女と男のいる古典の世界ー小倉百人一首の恋うたよりー	矢崎　藍	作家
232	H3.8	バルト三国を訪ねペレストロイカの実態を視る	扇　貞雄	共産圏動向研究所所長
233	H3.9	通訳者の裏側 ーうまく使う法	福島真紀子	プログレッシブ・アソシエイツ代表取締役
234	H3.10	弱虫社長学	亀　太郎 (本名 岸 光宏)	レンタルのニッケン代表取締役
235	H3.11	誤解の多い森林資源問題	佐治成男	日刊木材新聞社大阪支社長
236	H3.12	激動ソ連の底流ー多様な民族と文化	長井康平	朝日新聞社編集委員
238	H4.2	大阪フィルハーモニー交響楽団と関西の音楽事情	宮澤敏夫	大阪フィルハーモニー交響楽団事務局長
239	H4.3	地球環境問題と技術開発	小見山　享	通産省工業技術院 大阪工業技術試験所
240	H4.4	日本文化史から見た人権	岩國久弥	日本文化史研究所所長
241	H4.5	上方よもやま話	井澤壽治	上方文化研究家
242	H4.6	連珠（五目並べ）の世界ー盛んな国際交流ー	澤井敏郎	朝日ウッドテック取締役
243	H4.7	近畿の巨大古墳と天皇陵	野口素佐	日動火災海上保険 専務取締役
244	H4.8	侘くーマンテン主義の実践	横田辰三	マンテン代表取締役創長
245	H4.9	虚像と実像の信長	八木雅次	ＮＨＫエンタープライズ チーフプロデューサー
246	H4.10	水と健康	吉住美輪	短歌作家
247	H4.11	常識を見直す	鈴木計夫	大阪大学工学部建築工学科教授
248	H4.12	1990年代の都市開発	加藤晃規	大阪大学工学部環境工学科助教授
250	H5.2	うだつ	中西徹	京阪百貨店取締役社長
251	H5.3	国際先住民年と長髄彦	進藤　治	縄文・アイヌ文化を考える会同人
252	H5.4	日本人と木の文化	小原二郎	千葉工業大学理事・教授
253	H5.5	たたかう男たちのドラマ	植草貞夫	朝日放送キャスター
254	H5.6	甲賀忍者について	望月秀祐	㈲モチケン・コーポレーション代表取締役
255	H5.7	酒のこころ	酒井正司	沢の鶴総社氏
256	H5.8	糖尿病アラカルト	星　充	大阪厚生年金病院副院長
257	H5.9	能について	山本勝一	大阪観世会副会長
258	H5.10	遊びについて	横尾義貫	㈶日本建築総合試験所理事長
259	H5.11	公共性と企業性のはざま	岡　尚平	大阪高速鉄道常務取締役
260	H5.12	ご縁とは不思議なもの	清水公男	けいはんな常務取締役
262	H6.2	色と健康	神田和子	湊川女子短期大学色彩学講師
263	H6.3	頭動けば尾も動く	佐藤安弘	元日刊スポーツ取締役
264	H6.4	舞扇と私の人生	山村楽正	日本舞踊
265	H6.5	生活とデザイン	福岡喜久雄	大阪芸術大学デザイン学科教授
266	H6.6	笑売繁盛	月亭八方	落語家
267	H6.7	杜と日本の文化	上田正昭	大阪女子大学学長京都大学名誉教授
268	H6.8	現代米騒動と日本の幻想	筑波常治	早稲田大学政経学部教授
269	H6.9	ぼけの予防と対策	大國美智子	大阪府立大学教授
270	H6.10	海のシルクロード ースライドー	三杉隆敏	小原流芸術参考館副館長
271	H6.11	素描竹中大工道具館	天道　一	㈶竹中大工道具館館長
272	H6.12	人間とバラのふれあい	藤本　優	
274	H7.2	日本画と洋画	小倉忠夫	元京都国立近代美術館館長
275	H7.3	中国沙漠緑化実践隊に参加して	澤井敏郎	木材開発顧問
276	H7.4	私の経営道 ー雲上蒼天ー	吉武孝祐	東海学園大学学長 同志社大学名誉教授
277	H7.5	光のアート誕生の軌跡ー光は永遠の謎を秘めた宝庫ー	土屋壽満	スマ・ブライトアート研究所
278	H7.6	山と川の話	高田　宏	作家
279	H7.7	終戦50年、大東亜戦争を考える	岡田幹彦	日本政策研究センター主任研究員
280	H7.8	ヨット信天翁（あほうどり）二世号の世界一周	青木　洋	青木ヨット代表取締役
281	H7.9	印象革命	宮内淑子	ワイネット代表取締役社長
282	H7.10	聾唖者との出会い	入江　督	大阪府障害者雇用促進協会会長
283	H7.11	人生と自己実現	廣田君美	関西大学名誉教授文学博士
284	H7.12	旧暦に学ぶお天気予測	小林弦彦	倉敷紡績 常務取締役東京支社長
286	H8.2	スポーツ実況40年ースポーツ放送の舞台裏ー	井上光央	元・毎日放送スポーツアナウンサー
287	H8.3	アトランタ五輪に向かっての日本水泳界の現況	奥田精一郎	㈶大阪水泳協会会長
288	H8.4	自動車開発の裏話	西田　弘	ダイハツ工業顧問
289	H8.5	耳よりなハナシ	松永美子	大北耳鼻咽喉科院長
290	H8.6	阪神大震災・オウム・TBS…「報道の裏側から激動の世紀末を読む」	浜淵節夫	京阪神エルマガジン社社長
291	H8.7	秀吉と大阪城	渡辺　武	大阪城天守閣館長
292	H8.8	人形浄瑠璃の源流を探る	広瀬久也	神戸芸術工科大学教授
293	H8.9	冒険家植村直己の十三回忌を迎えて	辻　一郎	毎日ＥＶＲシステム常務取締役
294	H8.10	現代建築とアート	向井正也	神戸大学名誉教授
295	H8.11	シャル・ウイ・ダンス・苦・楽	大墨　正	ＳＭＩ・ＤＥＳＩＧＮ代表
296	H8.12	自然環境と人工的色彩の共生は失敗のない色選びから	平川麗美	ザ・カラーワークス代表
298	H9.2	デンマークと椅子	島崎　信	武蔵野美術大学教授
299	H9.3	仏像の鑑賞	高橋秀夫	ユーラシア文化研究会会長
300	H9.4	防災論	横尾義貫	京都大学名誉教授
301	H9.5	「染め」の文化	福本繁樹	染色家大阪芸術大学教授
302	H9.6	我国の住宅産業のあり方ー北米住宅生産文化へのー考察	熊田忠夫	神戸インターナショナルハウジング会長
303	H9.7	自分らしさの風潮の中でのお洒落検証	皆美あい	イメージスタイリスト
304	H9.8	建築と音楽の雑話	井上恵子	アンビエンテ三喜谷
305	H9.9	笑顔エネルギーが運命を変える	野坂礼子	笑顔教室代表
306	H9.10	思いの心は人生をつくるー思いの心は企業をつくるー	早川嘉美	サクセス・シミュレーション代表取締役

建築クラブ講演記録

回数	年月	演　題	講　師
307	H9.11	メーソンリーの建築と文化	山下和正　㈲山下和正建築研究所
308	H9.12	遊びの文化と歌かるた ー小倉百人一首かるた競技ー	澤井敏郎　㈳全日本かるた協会八段
310	H10.2	毛利元就あれこれ	毛利祥允　毛利一門・右田毛利家十五代当主
311	H10.3	働く女性が社会を変える	吉井佳容子　読売新聞大阪本社 事業局事業開発部次長
312	H10.4	聞くクスリ…話のはなし	小池　清　MBS企画顧問
313	H10.5	不況を富況にかえるはなし（あさがゆかいになるはなし）	近藤三雄　メンタルコンサルタント
314	H10.6	西鶴に学ぶ商いの原点	桝井寿郎　梅花短期大学教授
315	H10.7	流通業の変革 ー大規模小売店舗を中心としてー	薩摩嘉弘　ダスキン参与
316	H10.8	日本の未来のヴィジョン	安田喜憲　国際日本文化研究センター教授
317	H10.9	お風呂の古今東西	野村廣方　TOTO（東陶機器）デザイン部部長
318	H10.10	水の良いとこ悪いとこ	村岡浩爾　大阪大学大学院工学研究科土木工学専攻
319	H10.11	瓦よもやま話	上田栄一　大佛代表取締役
320	H10.12	大阪弁の使い勝手	もず唱平　作詞家
322	H11.2	21世紀は沙漠の時代 ー沙漠緑化は世界平和への道ー	遠山正瑛　鳥取大学名誉教授 日本沙漠緑化実践協会会長
323	H11.3	漆芸のなりたち	冬木偉沙夫　漆芸家　京都市立芸術大学名誉教授
324	H11.4	最近の社会情勢について ー反社会的勢力の動向を中心にしてー	竹本恒雄　富士火災海上保険総務部顧問
325	H11.5	ビールの話あれこれ	中嶋　貢　元・サッポロビール副社長
326	H11.6	弥生時代のはじまり	進藤　治　東アジアの古代史研究 東大阪市社会教育センター古代史講座講師
327	H11.7	大阪天満宮の回禄と再建 ～焼けたら建てます天神さん～	近江晴子　大阪天満宮史料室員
328	H11.8	朝鮮半島の危機とわが国の対応	菅沼光弘　アジア社会経済開発協力会会長 元公安調査庁調査第二部長
329	H11.9	忘れられた美術都市・大阪 ～近代大阪の画家たち～	橋爪節也　大阪市立近代美術館・建設準備室主任学芸員 愛知県芸術大学非常勤講師
330	H11.10	有酸素運動で心身のリフレッシュ	山本美木子　㈲Feel Fit 代表取締役
331	H11.11	21世紀の女性たち	津村明子　大阪府生活協同組合連合会会長理事
332	H11.12	経営雑感	村井　勉　西日本旅客鉄道 顧問名誉会長
334	H12.2	見方・やり方・考え方　力・エ・ル ー発想の転換ー	黒田クロ　漫画・漫書家・イラストレーター・講演家
335	H12.3	現代日本の造形陶芸と寄神宗美作品について	寄神宗美　陶芸家
336	H12.4	京菓子のこころ	山口富蔵　京菓子司「末富」三代目
337	H12.5	果てしなく漂流する日本語と放送	三好俊行　毎日放送広報室考査部長
338	H12.6	内観による自己探求と自己治療	三木善彦　大阪大学大学院人間科学研究科教授
339	H12.7	不況を打破するためのコミュニケーション進化論	衛藤信之　日本メンタルヘルス協会代表 心理カウンセラー
340	H12.8	ドーバー海峡のもぐらは日本製	宇賀克夫　川崎重工業鉄構・機器事業部 土木機械総括部顧問
341	H12.9	わが実践整理学ー切手収集55年ー	澤井敏郎　㈶日本郵趣協会維持会員
342	H12.10	世界初の陶板名画美術館が国立公園の中にできるまで～その裏話	平田雅男　大塚国際美術館学芸室長
343	H12.11	古都奈良の景観	井上博道　日本写真家協会会員
344	H12.12	風土に生きる金沢の工芸	小松暁一　金沢美術工芸大学名誉教授
346	H13.2	よみがえる空中神殿（古代　出雲大社）	林　章　大林組東京本社・広報室部長
347	H13.3	全国の小中高等学校の校庭芝生化	室　孝幸　イソライト工業専務取締役
348	H13.4	新世紀を迎えて南北朝鮮の今後	古野喜政　元・毎日新聞社ソウル特派員
349	H13.5	生き甲斐のゆくえ	木津川　計　立命館大学産業社会学部教授
350	H13.6	ＩＴ時代のパブリックアート	菊竹清文　情報彫刻家
351	H13.7	ＩＴ革命の功罪 ーインターネット社会の光と陰ー	水本雅晴　大阪電気通信大学総合情報学部 情報工学科教授（工学博士）
352	H13.9	シドニーオリンピック水泳の総括とアテネへの展望	奥田精一郎　イトマンスイミングスクール名誉会長
353	H13.10	いま考えるべきこと、行うべきこと	田口佳史　イメージプラン代表取締役社長
354	H13.11	現代の芸術の周辺	柴辻政彦　美術評論家美術工芸研究所主宰
355	H13.12	干支から占う　新年はどんな年？	戸出　武　十二支研究家経営コンサルタント
357	H14.2	父からの贈りもの	高田都耶子　エッセイスト
358	H14.3	時代の気分を探る	佐藤友美子　サントリー不易流行研究所部長
359	H14.4	ノーマライゼーション社会とバリアフリー化	樋口四郎　社会福祉法人大阪身体障害者団体連合会理事長
360	H14.5	建築に携わる者によるNGO活動	赤尾建蔵　㈶竹中大工道具館館長
361	H14.6	日本の美意識と東洋思想	古館　晋　大阪ガスエネルギー・文化研究所（CEL）
362	H14.7	ヨットマン鹿島郁夫70歳の挑戦～354日世界一周無寄港航海	鹿島郁夫
363	H14.9	これからの日本	田村耕太郎　大阪日日新聞社取締役社長
364	H14.10	沖縄と泡盛について	田中康治　沖縄県酒造協同組合 大阪営業所所長
365	H14.11	都市を目指すディズニー	貴多野乃武次　阪南大学国際コミュニケーション学部教授
367	H15.2	強固な組織作り	小藪　修　新日鉄都市開発大阪支店副支店長
368	H15.3	飛鳥からイースター島へ　石人の世界	猪熊兼勝　京都橘女子大学教授
369	H15.4	小林一三翁のものの考え方	松原徳一　宝塚クリエイティブアーツ取締役会長
370	H15.5	ダイオキシン類の健康影響について	鈴木隆一郎　大阪府立千里看護学校学校長
372	H15.7	大阪の都市再生について	岩本康男　大阪市計画調整局局長
373	H15.9	聖徳太子の伝説	林　豊　旅行ペンクラブライター
374	H15.10	環境問題を考える ークリーンエネルギー国家創生への夢ー	澤井敏郎　NGO緑の協力隊・関西澤井隊代表
375	H15.11	ノーベル賞サラリーマン田中耕一君誕生の背景	真壁英樹　元島津製作所
377	H16.2	世界と日本の大工道具	赤尾建蔵　㈶竹中大工道具館館長
378	H16.3	司馬遼太郎のこと	上村洋行　司馬遼太郎記念館館長
379	H16.4	関西国際空港の過去・現在・未来～営みの時代に向けて～	北田博昭　㈶関西空港調査会常務理事
380	H16.5	アテネ五輪に向かって躍進する日本水泳界の展望	奥田精一郎　㈶大阪水泳協会名誉会長
381	H16.6	孫子のために ー地球温暖化についてー	葉山幸雄　大阪府地球温暖化防止活動推進センター

「建築と社会」誌

特集一覧●1983～2004

大正6年3月に誕生した日本建築協会（当時・関西建築協会）の、機関誌は大正6年9月に「関西建築協会誌」と題して創刊された。大正8年に「日本建築協会雑誌」、さらに1年後には「建築と社会」と改題し、今日に至っている。

取り上げてきた特集テーマは下記のとおりで、バックナンバー購入希望は、日本建築協会事務局（TEL 06-6946-6981、FAX 06-6946-6984）まで。販売価格は1200円（送料・消費税含）。

号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1983 vol.64	●関西の建築文化を考える	●マイコンの建築への利用	●多様化する運動施設＊	●建築と品質管理	●計画におけるコミュニケーションとプレゼンテーション	●大阪駅とターミナルビル	●維持管理と設備更新	●東海の将来と文化を考える	●オフィス・インテリアの変革	●プレストレスト・鉄筋・コンクリート構造	●第30回青年技術者 ●大阪城国際文化スポーツホール＊	●集合住宅と生活音
1984 vol.65	●21世紀への関西―魅力ある まちづくりを問う	●関西の超高層ビル＊	●ビルのリフレッシュ―内外装補修技術の現状と発展―＊	●建設産業とロボット開発＊	●住環境と法制度	●まちの活性化と商業空間 ●京都駅南口再開発ビル＊	●消防設備のポイント	●みどりとそれをとりまく人々＊	●高齢化社会と生活空間	●床の構工法	●第31回青年技術者 ●ディテールの思想	●光応用システムと建築
1985 vol.66	●大阪湾物語＊	●東海の現在と近未来	●自由様式への道―建築家安井武雄 ●建築物の基礎を考える	●情報化をめぐる建築・都市事情	●ホール―それが生みだす文化―	●建物の表情―最近の外壁材料	●大阪国際見本市新会場	●建築と水の演出 ●神戸研究学園都市	●都市と健康・スポーツ	●接合―人体と建築にみる― ●日建設計作品＊	●村野藤吾の一断章 ●伊勢湾をめぐる東海	●第32回青年技術者
1986 vol.67	●これからの住空間―都市型集合住宅にみる	●屋根―そのデザインと素材	●現代デザインーポストモダニズム10年 ●これからの防水工法	●インテリジェントビルの建築・設備計画	●自治体営繕と公共建築	●建築防災と法 ●大阪市庁舎（第2期）	●21世紀の住宅と設備	●開発―その創造的仕掛けの鍵をもとめて― ●ツイン21	●CAD―その応用と展開	●オフィス空間の構成	●第33回青年技術者	●インテリア・イクステンションとリニューアル
1987 vol.68	●入浴物語	●腐食	●創立70周年記念号	●躍動する東海へ	●貯蔵・保管施設 ●大阪府立体育会館	●室内の仕上床	●駅	●行政建築家の可能性	●シティホテルの設備	●宝塚の街づくり＊	●建物と町並みの接点 ●昭和設計作品集	●第34回青年技術者
1988 vol.69	●ホテル物語	●軟弱地盤と基礎 ●文化と伝統―東海からの報告	●設備におけるLCCとリフレッシュ 東畑建築事務所作品集	●建物の外装リフレッシュ＊	●都心居住	●中国地方の展望とひろしまのまちなみ	●21世紀への照明＊	●制振＊	●超高層住宅を考える	●集合住宅のリフレッシュ＊ ●大阪府営善	●第35回青年技術者 ●800号記念＊	●讀賣テレビ
1989 vol.70	●夢をのせる輸送設備	●リゾート事情 ●竹中工務店創立90周年記念	●色の復権 ●東海の新建築と伝統技術＊	●省力化のための材料・工法	●まちづくりと法	●博覧会とまちづくり	●都市環境創造と設備I	●建築とアート	●構造の省力化 ●鹿島建設大阪支店建築設計部作品集	●都市環境創造と設備II ●ユーザー参加のハウジング	●第36回青年技術者	●最近の博覧会パビリオン
1990 vol.71	●商品化住宅のデザイン＊	●ニュータウン・ルネサンス	●東海の都市景観 ●佐賀市文化会館＊	●スケール感	●プレハブ住宅技術の現在と未来	●国際花と緑の博覧会	●建築家のための設備知識―中規模オフィスビルによるケーススタディー	●高強度化―設計の多様化をめざして―＊	●やわらかな住宅管理・ユーザーの役割	●都市のナイス・プレイス ●兵庫県営繕の歩み	●第37回青年技術者 ●和歌山県の展望と景観＊	●高級感―建物の顔：感性の時代を迎えての外装材
1991 vol.72	●新しい都市空間づくり―I― ●オフィス・プレジャー ●新しい都市空間づくり―II― ●建築の風景	●東海支部復活30周年記念	●大阪東京海上ビルディング	●今、京都 ●建築家のための設備知識―複合商業ビルによるケーススタディー	●建築と土木 ●毎日放送本社ビル ●近畿地方建設局営繕部	●一般号＊	●建築をめぐるトラブルとその解決 ●建設現場のイメージアップ作戦	●空間のアイデンティティ ●きんでん写真集 ●大建設計40周年	●自治体住宅政策への提言 ●大林組創業100年記念	●建築と土木―構造技術の世界― ●第38回青年技術者	●スリムでタフなコンクリート ●21世紀の住まいを考えるシンポジウム
1992 vol.73	●夢物語―人がかわる、まちがかわる―	●こだわりのインテリア ●近畿の郵政建築15年の歩み	●建築とデザイン―東海支部―＊	●建築家のための設備知識―集合高層住宅の設備システム―	●地球環境時代の建築	●街創り、住まい創り―住宅・都市整備公団関西支社10周年―	●木構造を使ってみませんか―集成材による構造―	●接着―建築分野への限りなき可能性	●中国地方の町並みと建築家の「語り、夢、作品」＊	●屋台一仮設の魅力に学ぶ― ●ハウジングのメインストリームを探る	●いま建築教育に何が期待されているか	●京のかたちと色
1993 vol.74	●第39回青年技術者 ●東畑建築事務所創立60周年記念作品集	●大阪府営繕	●東海の美術館・博物館	●市民劇場の舞台設備	●環境―限りある自然と建築とのかかわり	●都市のスカイライン	●映画の中のインテリア ●けいはんなプラザ・住友ホール	●建築の再生―構造技術の役割― ●大阪市営繕	●国際的パートナーシップの可能性	●福祉のまちづくり	●都市型住宅再考	●第40回青年技術者 ●環境―人にやさしい空間創造をめざして
1994 vol.75	●コピー文化の新時代 ●広島の街創りアジア競技大会	●九州のインスタレーションと貌	●伊勢・神宮式年遷宮と神宮界隈＊	●建築のエネルギーシステム	●明日に向かって―会員作品＊	●いま、医療施設は	●住空間における居どころへの視点	●まちなかの看板 ●竹中工務店の集合住宅	●水と建築 ●日本建築総合試験所	●建築設備のCGシミュレーション ●村野、森建築事務所	●構造美―建築の中の美 ●集合住宅団地リニューアル	●第41回青年技術者 ●関西国際空港
1995 vol.76	●光がつくる風合の世界＊	●音―騒音から操音/創音へ	●飛騨・美濃―まちの活性化と地方文化＊	●トイレから見た都市文化	●トイレ空間	●接合 ●コスモタワー	●ユニバーサルデザインとは	●私の空間作法―会員作品	●新しい「都市・建築」の視点＊	●建築構造と社会の接点 ●日建設計＊	●ライフラインと建築設備＊	●第42回青年技術者 ●滋賀県建築課
1996 vol.77	●阪神大震災から学ぶ＊	●大阪府住宅供給公社創立30周年記念＊	●遠江―その地方振興と文化＊	●立体駐車場設備 ●大建設計	●災害！非常時に生きる法体系 ●OAPタワーズ	●いま、プールがおもしろい	●住まいの未来像	●マルチメディアがつくる世界	●キーコンセプトの新時代	●最新の大規模スポーツ競技施設の設備	●私の空間作法'96 ●九州の元気 ●りんくうの3作品	●第43回青年技術者 ●近畿地建営繕部
1997 vol.78	●建築のロングライフ化をめざして	●鉄ものがたり＊	●東海支部会員作品 ●金沢・能登―風土・文化とまちなみ・建築＊	●創立80周年記念／建築と私と社会―80人の眼―＊	●木造建築物の伝統技術とその将来	●住む空間の復興―法・制度の運用と新たな展開へ― ●住都公団関西支社	●素材の不思議 ●大阪ドーム	●新エネルギー ●住宅・都市整備公団改革への提言	●クロスワード都市OSAKA＊	●モザイク都市の住むかたち ●昭和設計40周年	●私の空間作法―会員作品―	●第44回青年技術者 ●京都駅ビル
1998 vol.79	●新しいまちづくりの予感 ●東畑建築事務所創立65周年	●Concrete ●九州とわたし、そして建築	●東海支部会員作品 ●信州―諏訪とその周辺―	●街並みの演出―最近の外構材料	●生活環境の安全・安心	●地球環境保全と建築	●心と体を元気にするインテリア	●建築設備―ビルメンテナンスの立場から	●建築への証言´98―21世紀に向けて	●ゆれをとめる―たえる技術からかわす技術へ	●私の空間作法 ●2001年の医療施設	●第45回青年技術者 ●駅とともに歩んだJR西日本の12年
1999 vol.80	●“らしさ”のデザイン ●建築を綾どる小粋なモノの仕掛人	●大阪市都市整備局	●東海支部会員作品´99 ●北信濃―街並み修景と地域文化の再構築	●都市のパブリック	●関西建築界の流れと東畑謙三の足跡をたどる	●大阪城天守閣平成の大改修	●改正建築基準法―まちづくり・すまいづくりへの展開―	●私の目でみた環境問題	●アーバンインテリア―都市空間としてのインテリア	●木とともに	●私の空間作法	●第46回青年技術者
2000 vol.81	●21世紀のデザインの動向を見る ●安井建築設計事務所創業75周年	●中国支部―しまなみ海道と中国地方の街づくり―	●東海支部会員作品2000 ●福井・富山―地域文化の振興と新たな施設づくりの流れ	●こころを癒す環境デザイン	●測る―測定方法と測定結果が意味するもの―	●スケルトン&インフィル	●改正建築基準法―パートII―	●100年後へのメッセージ ●日建設計創業100周年	●来世紀に引き継ぐ―わざ、もの、こころ―	●時間	●私の空間作法―会員作品― ●21世紀の高齢者の居住環境	●第47回青年技術者
2001 vol.82	●エヌ・ティ・ティファシリティーズ	●21世紀の建築設計教育	●東海支部会員作品 ●岐阜・大垣	●ＩＴ社会におけるきずな	●自然素材をめぐる「もの・わざ・ひと」	●成熟社会をささえるまちづくり	●現代の日本の空間・文化を探る	●環境―近未来に向けて今できること― ●大建設計―作品特集1996～2001―	●建築の力都市の力	●緊張 ●都市基盤整備公団関西支社	●私の空間作法―会員作品―	●第48回青年技術者 ●NHK大阪放送会館・大阪歴史博物館＊
2002 vol.83	●国土交通省近畿地方整備局営繕部＊	●再生・リサイクル	●東海支部会員作品 ●愛知・名古屋	●生活環境の安全・安心―パート2―	●塗装のいろいろ	●都市再生に向けた建築基準法集団規定のあり方	●いま、インテリアデザインは ●漆町リバープレイス	●建築をささえるセンサー	●建築とボランティア	●時を超えて～サステナブルエンジニアリングの現在～	●私の空間作法―会員作品―	●第49回青年技術者 ●大阪市中央公会堂
2003 vol.84	●東畑建築事務所創立70周年	●九州の地域づくり・まちづくり	●東海支部会員作品2003 ●愛知・名古屋―この地の文化・芸術と建築・街づくりを考える―	●サスティナビリティ～次世代に引き継ぐ都市・建築・暮らしのデザイン～	●建築と五感	●都市計画法及び建築基準法等の改正	●コンバージョン―インテリアから発信するまちなみ―	●介護と建築・設備	●建築とノスタルジー～建築の主観的価値について～	●力と楽しくつき合う方法	●私の空間作法―会員作品―	●第50回青年技術者＋青年技術者顕彰50年
2004 vol.85	●大阪市住宅局	●都市緑化	●東海支部会員作品 ●愛・地球博＊	●省リスクな「まち再生」	●リニューアルの技	●地域住民主体のまちづくりと支援制度	●Product Design＋1	●銭湯～心地よさを求めて～	●建築家とは何か	●巨大地震にそなえて	●私の空間作法―会員作品―	●第51回青年技術者

＊は欠号

第5回
読者と選ぶ「建築と社会」賞選考対象作品及び論文・記事 参考資料

〈2004年〉

〔作品部門〕

▌作品作風　●作品名

□1月号●JR東日本アートセンター四季劇場「自由」●ウェルプ六甲道1番街
□2月号●四ツ橋クリスタルビル
□3月号●小野薬品工業フジヤマ寮
□4月号●京都中信十条ビル
□5月号●相知町交流文化センター●国際医薬品臨床開発研究所ビル
□6月号●社会福祉法人 天心会 特別養護老人ホーム ヴェルディ八戸ノ里●ダイヤモンドシィ・ハナ●阪神タイガース新室内練習場
□7月号●NSDビル
□8月号●市立池田病院増築棟
□9月号●堺市立のびやか健康館●尼崎市立弥生ヶ丘斎場―光庭のある斎場―●千船クリニックス●高速オフセット堺本工場
□10月号●医療法人讃和会　友愛会病院
□11月号●大津町運動公園総合体育館●国分寺文書センター●アーバネックス神山町ビル
□12月号●岡山県立図書館●川崎祐宣記念講堂●大日本製薬　新東棟

▌東海支部会員特集―3月号―　●作品名

●国立三重病院●美濃市立美濃病院●あいち小児保健医療総合センター●聖十字病院●特別養護老人ホーム高坂苑増築●瀬戸デジタルテレビ放送所●東海テレビ放送新館●名古屋テレビ放送株式会社社屋●トヨタインスティテュート●トヨタ車体開発センター●Paramita museum●星が丘テラス●東部丘陵線車両基地●楞厳寺増改築●セキスイハイム東海 ル・シェモア 泉町

▌会員特集―11月号―＜私の空間作法＞　●作品名

●新たなすまいと人生（岡崎善久）
●玄と翳の空間（早崎伸一＋大本泰二郎＋平尾和洋）
●重力の消えた家（森村政悦）
●浮遊する屋根（村重保則）
●大樹で結ぶ空間（新居照和＆ヴァサンティ）
●風景に参加する（上谷重男）
●長い視線をつくり出す（塚口明洋）
●先輩の普請（河南重雄）
●内包された半外部空間の演出（平井浩之）
●回遊性のある住い（岸　一）
●柔らかな光が差す浄域（長瀬博一）
●平成の雅趣を創る（村上幸三郎）
●明治の蔵がよみがえる（元廣清志）
●お母さんの視線で考えたクリニック（中尾勝悦）

▌ギャラリー　●タイトル（執筆者）

□1月号●光と闇の意匠（田村利夫）
□2月号●キャトル・セゾン（楠原一明）
□3月号●House Nis（木内達夫＋吉永健一）
□4月号●都心への回帰（飯塚拓生）
□5月号●小品弐点（斉藤　晃）
□6月号●スローライフ/スローハウス（佐伯新和・森本明雄）
□7月号●空間の装飾（谷川　勲）
□8月号●心地良い場所（北島庸行）
□9月号●「忙中、閑あり」（後藤哲夫）
□10月号●「起集」（大野亜紀）
□11月号●「ささやかな余裕」（柿木　薫）
□12月号●箱の中に箱がある？アートゾーン（松村佳久男）

〔論考部門〕

▌特集　●タイトル（執筆者）

□1月号＜大阪市住宅局―魅力ある大都市居住の実現に向けて―＞　●大規模災害時への対応をより確かにする施設の整備（大阪市住宅局営繕部/㈱日本設計）●こどもから老人まで気軽に利用できる生涯スポーツ拠点と浪速区在宅サービスセンターの複合施設（大阪市住宅局営繕部/㈱環境デザイン研究所）●阿倍野ランドマークとして―あべのグラントゥール―（大阪市住宅局建設部/㈱安井建築設計事務所）●大阪市の建築行政―横から眺めた50年―（三輪雅久）●公共建築と環境―20XX年のある日、TV番組編集事務所にて―（永村一雄）●大阪における住まいの変遷―大阪くらしの今昔館の展示を通して―（谷　直樹・新谷昭夫）●大阪市/HOPEゾーン事業―「平野郷地区」「住吉大社周辺地区」（大阪市住宅局企画部）●密集住宅市街地整備について（大阪市住宅局企画部）●建築指導行政による良好な市街地の形成について（大阪市住宅局建築指導部）

□2月号＜都市緑化＞　●都市緑化のあらたな意義～そだてる都市の資産としての緑～（輿水　肇）●都市緑化施策の推進と建物緑化（高梨雅明）●屋上緑化技術の変遷と課題（三輪　隆）●緑化が都市環境にもたらすもの（屋弥下　亮）●アメニティとして活用される屋上緑化（藤木郁子）●「日本ならではの良さ」を失わない都市づくりと都市緑化を（森山　明）

□3月号＜愛・地球博～2005年日本国際博覧会のめざすもの～＞　●愛・地球博メッセージ（2005年日本国際博覧会協会経営企画室）●会場計画の概要（2005年日本国際博覧会協会会場整備グループ）●政府出展事業の計画概要（小池雅行）●愛知県施設の計画概要と設計意図（浦野設計・第一工房）●名古屋市パビリオン（安田裕樹）●魅力が満載民間パビリオンゾーン（2005年日本国際博覧会協会出展グループ）●新しい時代における市民参加へのチャレンジ（2005年日本国際博覧会協会市民参加促進グループ）●せと・まるっとミュージアム～愛・地球博を契機として～（瀬戸市企画部国際博覧会推進課）●博覧会会場における公園事業と博覧会後の公園整備（川崎明弘）●海上の森の保全と活用（浦井　巧）●磁気浮上式システム～リニモ（東部丘陵線）（愛知県高速交通）

□4月号＜省リスクな「まち再生」～地球資源を生かした都市・建築・暮らしのデザイン～＞　●「まち再生」におけるリスク・マネジメント（三田　彰）●都市開発事業におけるリスク・マネジメント（木下慎哉）●安心・安全のリスク・マネジメント（吉村英祐）●コミュニティ・ビジネスによる地域再生～市民協働のプロセス～（藤江俊彦）●多用な主体の参画で文化再生を（狭間恵三子）●長屋再生による都心再生（六波羅雅一・松富兼一）●環境効果による町おこし（海東英和）●文楽による村おこし（兼瀬哲治）●「ひがしまち街角広場」によるニュータウン再生（宮本京子）

□5月号＜リニューアルの技＞　●リニューアル時代をどう切り開くか～リノベーションとコンバージョン～（藤田　忍）●RC造におけるリニューアルのための診断技術（濱崎　仁）●低騒音・低振動による耐震補強工法（木村耕三）●環境にやさしい外装下地の撤去技術（龍門　誠）●環境改善を考えた防水のリニューアル技術（井上　周）●設備リニューアルにおける室内環境評価技術（洞田浩文・庄司　研）●戸建住宅の内外装リニューアル技術～生活者ニーズと環境問題を考慮して～（広沢健二）

□6月号＜地域住民全体のまちづくりと支援制度＞　●住民主体のまちづくりを支援する法制度（宗田好史）●路地の生命力～からほりの路地文化～（吉野国夫）●密集市街地におけるまちづくり（石原　匡）●住民自治と建築協定（絹川正明）●京都の伝統的な街区での「まちづくり」（平家直美）●久美浜一区の街並み修復～街並みからまちづくりへ～（中西和義）●市民が主体のまちづくりへ～NPO法人の緩やかな活動～（新田俊明）

□7月号＜Product Design＋1～プロダクトのインテリアデザインへの展開＞　●プロダクトデザインの変遷～デザインと空間～（池上俊郎）●インテリアとプロダクトデザイン（伊東史子）●液晶テレビAQUOSとインテリア～心豊かな暮らしへのまなざし～（喜多俊之）●これからの冷蔵庫デザイン（有村敬三）●鉄道車両の空間デザイン（木村一男）

□8月号＜銭湯～心地よさを求めて～＞　●入浴～風呂の変遷とその効果～（大塚吉則）●スーパー銭湯～計画から運営・管理まで～（高橋圭一）●銭湯・スーパー銭湯に最適なエネルギーシステム（山下弘樹）●スーパー銭湯の照明計画（大見堅悟）●住宅のお風呂の変遷（国府田人紀）●水栓金具の変遷と特徴（荒木　修）●サウナ「ミスト・ドライ」開発の歴史（山本博美）●露天風呂、ヒーリングサウナ、漢方薬草サウナ（高橋圭一）●銭湯とマッサージチェア（竹端秀海）●天然温泉名湯「宝乃湯」～計画段階から参加して～（木村公之）

□9月号＜「建築家」とは何か―建築家の職能と価値を考える―＞　●あゝ建築家 されど建築家（太田隆信）●21世紀の社会と建築家（馬場璋造）●精神への偏愛（柏木浩一）●「建築家」とは何か（遠藤秀平）●時をこえて（吉羽裕子）●建築家の役割（岡本　隆）●建築家の今―建設会社設計部からの眼差し―（天野直樹）●「知られざる建築家」の遺産（河野正彦）●様々なシーンの響き合う街（小林幹彦）●「軽率な建築家」と輝く技術者（中田義成）●「建築家」に望む「職能」（長谷部完司）●人への心に己の心を（山岸　豊）●建築教育におけるスタジオ・フィールド・ワークショップ（本多友常、平田隆行）

□10月号＜巨大地震にそなえて＞　●巨大地震にそなえて（釜江克宏）●震災の教訓を踏まえた住宅耐震化への取り組み（田中丈之）●FM電波を使用した地盤活動予測（串田嘉男）●長周期地震動―建築物に想定される被害と今後の設計法―（北村春幸）●地震リスクの評価（*PML*）（諏訪　仁）●免震住宅（横山重和）●最新の耐震補強技術開発の動向（益尾　潔）●高知能建築―構造ヘルスモニタリングによる建物の健全度自己診断―（柴　慶治）

□12月号＜青年技術者＞

●水方秀也　「福島1丁目A、B街区/(仮)阪大病院跡地再開発プロジェクト　他」
●太田成彦　「外市東京支店ビル　他」
●田鍋　稔　「Apple Store Shinsaibashi　他」
●小幡剛也　「三重県熊野古道センター（仮称）他」
●島田太郎　「神戸関電ビルディング　他」
●楠　敦士　「臨床研究情報センター　他」
●須藤貴司　「五色町立図書館・鮎原地区公民館　他」
●渡辺多加夫　「八尾市立病院　他」
●荻野恵悟　「吉川町健康福祉センター　他」
●八尋浩平　「竹田市温泉施設　他」
●寺谷啓史　「みづき保育園　他」
●水谷俊博　「美野里町四季文化館みの～れ　他」
●井上弘一　「和泉シティプラザ　他」
●安野　郷　「大井町ショッピングセンター　他」
●石原清孝　「松下電器産業㈱半導体社魚津新棟計画　他」
●横山　満　「慈愛会奄美病院　他」

第5回
読者と選ぶ「建築と社会」賞選考対象作品及び論文・記事 参考資料

〈2004年〉

●古島正博　「小野薬品工業新社屋　他」
●西村　章　「香春口三萩野地区メディカルサポートハウジング　他」
●山野上和志　「真宗大谷派（東本願寺）参拝接待所　他」
●澤村晋次　「アストラゼネカ中国無錫工場　他」
●横山喜宣　「和泉丘病院増築　他」
●土田武志　「ダイヤモンドシティ奈良橿原ショッピングセンター　他」
●安田辰夫　「JR奈良駅曳家工事　他」

▌建築の眼　●タイトル（執筆者）
□1月号●女性と年金と住い（檜谷美恵子）●起承転結（荒木　敏）●保存・再生（太田隆信）●「まち」と「ひと」（江口　崇）
□2月号●まちなか居住（檜谷美恵子）●人生の舞台（荒木　敏）●ゆっくりとプロセスを大切に（太田隆信）●まちの原型（江口　崇）
□3月号●住宅政策と福祉（檜谷美恵子）●行政の技術者（荒木　敏）●煉瓦造のなかまたち（太田隆信）●ひと、まち、建築（江口　崇）

▌研究最前線を追う　●タイトル（執筆者）
□1月号●建築をとりまく熱・空気・光・音（大阪市立大学工学研究科建築環境工学研究室）
□2月号●「建築学」への仮題（兵庫県立姫路工業大学環境人間学部環境人間学科建築環境研究室）
□3月号●屋上緑化用水量と排水の水質（近畿大学社会環境工学科水工学研究室）

▌レポート　●タイトル（執筆者）
□8月号●井上まるみ氏講演会「プロが教えるキッチン設計のコツ」（山田　修）

▌法令コーナー　●タイトル（執筆者）
□1月号●大阪市狭あい道路拡幅促進整備事業（坂中信隆）
□2月号●全国建築審査会協議会50周年をむかえて（巽　和夫）
□3月号●大阪府景観条例（平井秀樹）
□4月号●兵庫県ヘリテージマネージャー制度の概要（沢田　伸）
□5月号●建ぺい率等の緩和及び建築物の防火規制に関する大阪市建築基準法施行条例の改正など（薄木三男）
□6月号●「先端医療産業特区」による神戸医療産業都市構想推進への取り組み（増田　匡）
□7月号●「大阪・工事監理の星」支援システム（山本　強）
□8月号●風格と華やぎのある商店街の形成を目指して（和田豊志）
□9月号●法改正シリーズ・1　景観緑三法の公布と施行（岡本哲夫）
□10月号●法改正シリーズ・2　改正建築基準法の概要―集団規定関係（薄木三男・坂中信隆・山根正利）
□11月号●法改正シリーズ・3　改正建築基準法の概要―単体規定関係―（中川啓三）
□12月号●大阪市建築物総合環境評価制度 CASBEE大阪（森　英彦）

▌構造の頁　●タイトル（執筆者）
□1月号●緒方町統合中学校の構造設計（金田興熙・白髪誠一）
□2月号●ユニット中空スラブ（池田秀樹）
□3月号●SMWの本設杭使用（金子　治）
□5月号●COPITA型PRC杭（CPRCパイル（大岩健治郎）
□7月号●ガラスの最前線―サブストラクチャーとしてのガラスの可能性（高橋一教）
□9月号●資源循環型建築システムをめざして～ショッピングセンターにおける取り組み（須賀順子）
□11月号●神戸質屋会館の構造設計―鉄骨造ケージ構造への取り組み（白髪誠一）

▌設備の頁　●タイトル（執筆者）
□1月号●関西電力の蓄熱受託制度と採用事例（中原達之）
□2月号●資源化エコバイオトイレ（寺沢　実・橘井敏弘）
□3月号●堺ガスビルの設備設計（岡　克己）
□4月号●分煙～新千歳空港ホールディングルーム内喫煙施設～（大浦　博）
□6月号●オール電化住宅における熱利用機器の動向（中曽康壽）
□8月号●蛍光ランプのリサイクルの現状（杉山謙二）
□10月号●シックスクール問題（池田耕一）
□12月号●よりよい空気の質を求めて（湯　懐鵬）

▌新建材の頁　●タイトル
□1月号●保水セラミック環境材
□6月号●巻兵衛（巻付け耐火被覆）

「第52回青年技術者」特集 協賛

建築・デザイン・測量の専門校

建築
■建築学科（2年制）
■イブニングクラス建築学科（2年制）
福祉
■福祉建築デザイン科（2年制）
■研究科（1年）※入学要件あり

「建築」「ユニバーサルデザイン」について徹底的に学ぶ。

▼取得できる資格
1級建築士/建築施工管理技士/管工事施工管理技士/設備士





デザイン
■空間CGデザイン科（2年制）
■インテリアデザイン科（2年制）
■イブニングクラスインテリアデザイン科（2年制）
建築をベースに感性豊かな空間設計を目指す。

▼取得できる資格
インテリアプランナー/ストアプランナー
インテリアコーディネーター/2級建築士

国土交通大臣登録測量専門養成施設
測量
■測　量　科（1年制）
■建設情報科（2年制）
卒業と同時に、測量士補資格無試験取得。



学校法人 中央工学校 中央工学校OSAKA［2006年4月 改名］
現校名 中央実務専門学校
〒561-0872 大阪府豊中市寺内1-1-43 0120-08-1143 URL.http://www.chuo-j.ac.jp/
●大阪・梅田より13分の快適アクセス
●地下鉄御堂筋線より「緑地公園」徒歩3分

空調・衛生・クリーンルーム設備
（設計・施工）
朝日工業社
本社・本店　東京都港区浜松町1-25-7　電話03(3432)5711
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　電話06(6302)2270
支　　店　北海道/東北/北関東/横浜/名古屋/中国/九州

電気設備工事設計施工
東光電気工事株式会社
関西支社
支社長　竹澤秀昭
大阪市中央区高麗橋4丁目3番7号　電話大阪(6202)0325～9番
本　社　東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支　社　北海道・東北・丸ノ内・新宿・神奈川・東関東・北関東・中部・九州

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設計施工
ダイダン株式会社
本店・大阪本社　〒550-0002 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　電話(06)6441-8231
東京本社　〒102-0071 東京都千代田区富士見2丁目15番10号　電話(03)3261-8231
支社　名古屋・福岡
支店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・京都・神戸・天理・岡山・広島・高松・熊本
営業所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出張所　旭川・福島・川崎・松江・徳島・下関・長崎・大分・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン
技術研究所　〒354-0044 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地　電話(0492)58-1511

より快適な水環境をめざして
給排水衛生設備，冷暖房設備，消火設備の設計，施工
株式会社西原衛生工業所 大阪本店
大阪本店　〒531-0071 大阪市北区中津六丁目8番4号
TEL 06-6458-3628(代表)
本　社　〒108-0023 東京都港区芝浦三丁目6番18号
TEL 03-3452-7441(代)
支　店　札幌・東北・新潟・東関東・横浜・名古屋・九州

空気調和設備　産業設備
給排水設備　水処理施設
電気設備　環境施設
三機工業株式会社
取締役社長　宅　清光
常務執行役員関西支店長　丸岡敏峯
関西支店　大阪市淀川区宮原3-4-30 ニッセイ新大阪ビル
本　社　東京都中央区日本橋室町2-1-1 日本橋三井タワー
http://www.sanki.co.jp

OKUJU
Space Creator
クオリティ&コストパフォーマンス
ALTsシステム
スナップ工法
SP-600
メタルシステム天井
内外装創作パネル・システム天井・間仕切
株式会社オクジュー
本　社
大阪市北区西天満5丁目3番7号　〒530-0047
TEL(06)6312-4131　FAX(06)6312-7998
東京・九州・南九州・名古屋・上海

CHOYO
人がいる多彩なフィールドで、
新しい限界に挑戦しています。
電気設備設計施工
朝陽電気株式会社
代表取締役　山本貴士
本　社　〒530-0005 大阪市北区中之島三丁目2-4(朝日ビル)
TEL 06(6385)1361(代)　FAX 06(6385)1050

Digital Pri-Press
AOBA PRINTING CO.,LTD.,
代表取締役社長　依藤孝行
青葉印刷株式会社
〒534-0027 大阪市都島区中野町2丁目10番11号
Phone.06-6351-5428 Fax.06-6351-5299

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む
株式会社精研
本　社　大阪市中央区瓦屋町2丁目11番16号(オートセンタービル1・2階)
〒542-0066 電話 大阪（06）6768—5031代表
メンテナンス　電話　大阪（06）6768—1651代表
東京支社　東京都文京区小石川1丁目12番14号(日本生命小石川ビル7階)
〒112-0002　電話（03）5689—2351代表

www.naniwa.com
We have hope
■印刷事業　ポスター、カタログ、パンフレット、書籍、年鑑、社史、雑誌、文字、画像データ処理
■メディア事業　SPプランニング・コンサルティング、ITソリューション、web及びメディアコンテンツ企画制作。
株式会社NPCコーポレーション
本　社　〒530-0043 大阪市北区天満1-9-19
tel:(06)6351-7271(代)　fax:(06)6352-7479
第二ビル　〒530-0043 大阪市北区天満1-11-8
tel:(06)6351-0128(代)　fax:(06)6351-0208
東京支社　〒105-0004 東京都港区新橋6-17-2
tel:(03)3433-5211(代)　fax:(03)5776-7733
(旧社名ナニワ印刷㈱、日本データネット㈱)

地球環境を守り、100年建築に貢献する
NACL のアルミ表面処理
株式会社日本電気化学工業所
http://nacl.jp　E-mail:sc@nacl.co.jp
本部営業部　〒560-0036 大阪府豊中市蛍池西町2丁目7番26号 NACLﾋﾞﾙ2階
TEL (06)6843-1235(代) FAX (06)6853-1632
東京事務所　〒111-0051 東京都台東区蔵前2丁目7-2 東京NACLﾋﾞﾙ
TEL (03)3862-0978(代) FAX (03)3862-7098

塗装工事・吹付工事

株式会社石渡康三郎塗装店

代表取締役会長　石　渡　敏　一
代表取締役社長　石　渡　年　樹

〒545-0022　大阪市阿倍野区播磨町２－６－１　☎〈06〉6693-2031　FAX〈06〉6693-2039
ishiwatari-main@ipc-k.com
営業所兼倉庫　〒547-0024　大阪市平野区瓜破４－２－24　☎〈06〉6709-8184

次世代マンションサッシ
RMG-90シリーズ

マンションプース

スリムでありながらスケールを感じるデザイン。
シンプルでありながら高い性能と多機能。

複層ガラス対応のサッシでありながら、スリムな見付けでデザインを統一。
シンプルでシャープな内外観を演出します。

90mmが実現する新しいクオリティーが、次世代をつくります。

空気層12mm
複層ガラス対応。

スリムな見付デザイン

2kgf以下の軽い開閉力



新日軽株式会社
〒532 0011 大阪市淀川区西中島7 1 5(辰野新大阪ビル3F)
西日本開発営業部　TEL 06 6390 1351

デンカCSAファミリー製品

●デンカCSA（膨張性混和材）　コンクリートのひびわれ防止に
●デンカタスコン（グラウト用無収縮材）　鉄骨ベース、逆打部の充填モルタルに
●デンカキューテックス（止水・補修用急硬セメント）　コンクリート躯体の漏水補修に
●デンカES（土質安定用急硬材）　地盤補強用薬注入
●デンカΣ1000（製品用超高度混和材）　コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に

電気化学工業株式会社
近畿地区販売店

浜宗産業株式会社
TEL 本社・京都・綱野（07727）2－2220
舞鶴（0773）76－0133

金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（06）6332－6861
TEL 東京（03）3272－8501

小浦産業株式会社
TEL 大阪（06）6443－6181

光洋物産株式会社
TEL 大阪（06）6252－6000

東郷化成株式会社
TEL 滋賀・守山（0775）83－2381
TEL 大阪（06）6877－1581

透光性乳白色ガラスブロック

オパリーン

表現力を持つ、白き調べ。

乳白色の柔らかな光で空間を包みこむ〈オパリーン〉
そこにあるだけで、豊かさを感じさせる、白い存在感。
あたかもオパールの輝きが奏でる調べのように。



Opaline

お問い合せは、下記までお気軽に。

■建材事業本部 営業部／東京(03)3632-7780　大阪(06)6399-2728　■代理店ショールーム／東京:日本硝子建材株式会社(03)3632-7721　大阪:エヌイージー建材株式会社(06)6392-2711

ハイテクガラスで未来をつくる
日本電気硝子

●株式会社建材社／札幌(011)736-1137 釧路(0154)31-1131 苫小牧(0144)74-1651 旭川(0166)48-5935 帯広(0155)36-5191 函館(0138)49-8072
●日本硝子建材株式会社／仙台(022)254-8411 高崎(027)325-3220 東京(03)3632-7721 横浜(045)661-1531 ●エヌイージー建材株式会社／名古屋(052)522-5491 金沢(076)243-1058 大阪(06)6392-2711 広島(082)502-0081 高松(087)866-8822 福岡(092)483-3371

当社ガラス建材製品　ガラスブロック | ネオパリエ | ラピエ | ファイアライト | グラソア | アクラス | チュービー | ベルーナ | 放射線遮蔽用鉛ガラス〈LX〉 | 真空式ソーラーシステム

■会社情報 http://www.neg.co.jp/　■建材製品情報 http://www.neg.co.jp/kenzai/　■ソーラー製品情報 http://www.neg.co.jp/solar/

建築と社会 2005.12 Vol.86 No.1005

社団法人 日本建築協会　〒540-6591 大阪市中央区大手前1-7-31　電話:06-6946-6981　FAX:06-6946-6984　http://www.aaj.or.jp

毎月1回1日発行　昭和24年3月19日第3種郵便物認可　ISSN 0912-8182

定価1,200円(税込)　[正会員の講読料は会費に含めて徴収]

雑誌 03379-12